

## 昭和54年 (1979)

1. 足立年一・藤本 清：アイリス球根に寄生するイモグサレセンチュウについて。関西病虫研報 21: 60. [球根の温湯処理 (47°C30分以上または49°C30分以上) で死滅。菌類による増殖を比較。]
2. 相原孝雄・湯原 巖：外部寄生性線虫を対象としたカエデ及びツツジ苗木の温湯浸漬効果。23回応動昆大会講要: 138. [講要]
3. 秋野浩二・外口久男・大倉作治：殺線虫剤 (D-Dおよびネマホルン) の低温期処理効果。関東病虫研報 26: 144. [2月中旬から3月上旬施用も実用的効果あり。]
4. 坪 存・秋山 実・谷 芳明・小松 徹・下長根 鴻・尾崎克己・島田裕之・梶田貞義・本田宏一：果菜菜類連作畑における連作障害回避技術としての普通作物の導入。茨城農試研報 20: 147-175. [ネコブ、ネグサレセンチュウ密度変化にふれる。]
5. Andrassy, I. : Revision of the subfamily Criconematinae Taylor, 1936 (Nematoda). Opusc. Zool., Budapest, 16(1/2) 11-57. [トゲワセンチュウ亜科の再検討。長野県Yokodake (2400 m) 亜高山帯の針葉樹林からの新種 *Crossonema abies* および *Nothocriconema orientale* の記載を含む。]
6. 在原登志男：東北地方におけるマツノマダラカミキリ有効産卵期間とマツの材線虫病。日林東北支誌 31: 158-161. [カミキリ羽化脱出と積算温度、その後のカミキリ幼虫の生育。]
7. 在原登志男：東北地方におけるマツの材線虫病の発生予測：有効発病期間内の発病指数に基づいて。日林東北支誌 31: 162-164. [温度に基づく東北各県における発病の可能性の検討。]
8. 浅香四郎・瀬戸口宏一郎：A method for analysis of methyl bromide residue in crops. 農薬誌 4(4) 453-455. [メチルブロマイドの残留分析法の手順および回収率、検出限界。]
9. 近岡一郎：キタネグサレセンチュウ (*Pratylenchus penetrans*) の寄主植物。日線虫研誌 9: 49-53. [48科 172種の作物・雑草のうち非寄主は4種。マメ科、キク科、ウリ科には好適寄主が多い。]
10. 近岡一郎：有機物 (鶏ふん) 施用によるキタネグサレセンチュウの防除効果。今月の農薬 23巻9: 58-61. [線虫密度低下効果は牛糞・化成肥料より大きい。]
11. 近岡一郎・大林延夫・推名清治：緑肥作物等の夏作への導入と土壌線虫の発生動向。23回応動昆大会講要: 139. [講要]
12. Drenth, W. A. : オランダの原料馬鈴しょと澱粉工業について。澱粉会報 14巻1: 7-14. [北海道の研修会で講演。生産阻害要因としてのジャガイモシストセンチュウ対策を含む。オランダにおける行政的対応、抵抗性品種育種体制等。]
13. 江口恭三：黄色たばこRK70および2、3の在来種のジャワネコブセンチュウ抵抗性の比較。磐田たばこ試報 11: 91-100. [前者は感受性品種に比べ線虫の侵入数わずかに少ない。沖繩・平江たばこは侵入数少ない。どちらも侵入後の線虫の発育に遅れ。]
14. 福田利雄・岩川盈夫：リギテータマツの特徴とマツノザイセンチュウに対する抵抗性。林木の育種 111: 43-46. [リギテータマツとテータマツの雑種。アカマツ、クロマツより強い。]
15. 福留信明・上釜耕二：各地より分離したジャワネコブセンチュウの形態的差異と寄生性。九病虫研会報 25: 170. [講要]
16. 二井一禎：植物寄生線虫の寄主選択モデル。日線虫研誌 9: 9-15. [線虫の寄主体への集合過程を表わす数理モデルの提出と実証。]

17. 二井一禎: Responses of two species of *Bursaphelenchus* to the extracts from pine segments and to the segments immersed in different solvents. 日線虫研誌 9: 54-59. [寄主由来の化学成分がマツノザイセンチュウ・ニセマツノザイセンチュウのマツ枝切片への集合、侵入に関与することを示唆。]
18. 二井一禎: マツノザイセンチュウ類の行動を制御する寄主成分. 23回応動昆虫大会講要: 137. [講要]
19. 二井一禎: 2種のザイセンチュウの寄主体内での動態. 90回日林大会講要: 106. [講要]
20. 二井一禎・古野東洲: マツノザイセンチュウに対するマツ属の抵抗性. 京大農演習林報 51: 23-36. [30種のマツに線虫接種. *Pinus taiwanensis*, *P. elliotii*, *P. rigida*, *P. taeda*が高度抵抗性。]
21. 我如古光男・具志堅允一: マツノザイセンチュウ被害分布調査(II). 沖縄林試研報 21: 1-3. [昭和53年の分布域。]
22. Golden, A. M.: Descriptions of *Meloidogyne camelliae* n.sp. and *M. querciana* n.sp. (Nematoda: Meloidogynidae), with SEM and host-range observations. J. Nematol. 11(2) 175-189. [2種のネコブセンチュウの新種の記載。前者は日本からアメリカに輸出されたツバキから検出。]
23. 五味美知男: イネシンガレセンチュウ. 農薬研究 25巻4: 82-84. [昭和25年から最近までの防除薬剤の変遷等。]
24. 後藤 昭: 畑作物線虫の現状と問題点. 植物防疫 33(3) 134-139. [わが国の畑作で重要な線虫と地理的分布、作物別の線虫被害を概説。]
25. 後藤 昭: 転換畑の土壤センチュウ. 今月の農薬 23巻4: 14-17. [実態、増殖、被害(ダイズシストセンチュウ)。]
26. 後藤 昭: 畑作物等における連作障害対策: センチュウを中心として. 畑地農業 242: 28-32. [線虫の分布、関連病害、線虫に強い作物・品種、薬剤防除。]
27. 後藤 昭: 畑作物等における連作障害対策: センチュウを中心として(2). 畑地農業 243: 30-35. [各種作物の線虫害とその対策を解説。]
28. 萩谷俊一: ダイズ栽培におけるポリマルチの有無とダイズシストセンチュウの発生量. 関東病虫研報 26: 137-138. [マルチにより栽培初期の線虫游出少ないが、後期ではマルチの有無と線虫発生量関係なし。]
29. 萩谷俊一: ニンジン畑におけるキタネグサレセンチュウ (*P. penetrans*) の雌雄変動. 23回応動昆虫大会講要: 131. [講要]
30. 萩谷俊一: 大豆のポリマルチ栽培と土壤害虫. 今月の農薬 23巻11: 21-24. [ダイズシストセンチュウの発生消長への影響を含む。]
31. 浜 武人・小沢孝弘・小島耕一郎: マツの材線虫病長野県への侵入を警戒す: 長野県周辺における本病の動き. 森林防疫 28(10) 185-187. [隣接県の発生状況、県内のマツノマダラカミキリ採集事例。]
32. 橋本平一: 材線虫接種後のクロマツの呼吸量の変化. 日林九支研論 32: 261-262. [針葉の呼吸は線虫接種後増加、葉の年齢によって差。]
33. 橋本平一: 材線虫接種後のクロマツの解剖学的所見. 日林九支研論 32: 263-264. [線虫接種5日後から差。線虫増殖時には末期症状。]
34. 橋本平一・堂園安生: 材線虫接種後のクロマツ苗の含水率の変化. 日林九支研論 32: 259-260. [樹脂滲出の異常とほぼ同時に、蒸散量低下へと進む。]
35. 平野和弥・杉山 悟・飯田 格: サツマイモネコブセンチュウ感染トマトの萎ちょう病の発病と根圏微生物相. 日線虫研誌 9: 60-68. [トマトの *Fusarium* 抵抗性は線虫汚

- 染圃でも弱まらず、感受性品種の病勢は汚染圃で激しく、根圏微生物相の動態は線虫汚染圃で増減が大、滅菌土での病勢進展が非滅菌土より顕著。]
36. 細田隆治・竹谷昭彦・柴田毅一：マツ枯損と侵入マツノザイセンチュウ数および温度との関係(1)。日林九支研論 32: 253-254。[15°Cでは樹脂停止せず、20°C以上で接種数が多いと枯損率高。]
37. 一戸 稔：馬鈴しょの大敵、北海道のジャガイモシストセンチュウについて。澱粉会報 14巻1: 3-7。[北海道における発見、生態、被害、検診法、防除。]
38. 稲垣春郎：Race status of five Japanese populations of *Heterodera glycines*。日線虫研誌 9: 1-4。[秋田・長野の供試個体群はレース3、北海道の2個体群はレース2、北海道の他の1群は未記録の新レース5と同定。]
39. 稲垣春郎：日本産ダイズシストセンチュウのレースについて。23回応動昆大会講要：135。[講要]
40. 稲垣春郎：ダイズ病害虫類別解説：ダイズシストセンチュウ、ネコブセンチュウ類、ネグサレセンチュウ類。In: ダイズ病害虫の手引。日本植物防疫協会、東京、p.122-131。[形態、発生、加害の様式、生活史、発生消長、寄主範囲、耐虫性品種、防除法、指導上の注意。]
41. 稲垣春郎：北海道イチゴの線虫問題。北農 46巻3: 15-21。[露地イチゴの退化株発生状況、検出線虫、病原菌の検出、品種比較、接種および防除試験。]
42. 井上 巖：Two new species of *Gordius* (Gordioidea) from Japan. Annot. Zool. Japon. 52(4) 235-239。[ハリガネムシの2新種の記載。*Gordius luteopunctatus* (栃木県・神奈川県から。寄主不明) ; *G. ogatai* (長野・栃木・岩手・高知県から。寄主不明)。]
43. 井上 巖：On the speciality of the geographical distribution of African Gordioidea, with a list of localities of the whole gordioidean species in Africa. 東京学芸大紀要 Ser.VI (数学・自然科学) 31: 171-176。[アフリカ産上記上科ハリガネムシの既知種のリスト(66種)。産地と参考文献を示す。]
44. 石井直明・鈴木擘之：The killing effects of ultraviolet light and X-rays on *Rhabditidae tokai*. J. Radiat. Res. 21: 137-147。[未見]
45. 石川元一：水田転換畑における線虫の発生。関東病虫研報 26: 136。[畦畔・畑中におけるネグサレ、ネコブ、ダイズシストセンチュウの検出例。]
46. 伊藤弘康・横溝康志・高久健一：栃木県におけるマツノザイセンチュウの分布とその被害状況。森林防疫 28(6) 103-107。[年次別の材線虫検出件数、1978年までの県内分布(ニセマツノザイセンチュウを含む)。]
47. 伊藤一雄：松くい虫から材線虫へ：松枯れの原因を探る。全国森林病虫獣防除協会、東京、69 pp。[一般向きの読み物。材線虫の発見、媒介者、生活史、防除等を解説。]
48. 岩切 徹・小野 忠・中原美智男・甲斐秀昭・石橋信義・近藤栄造：ミカン園における除草剤連用圃土壌の変化について。九州農業研究 41: 9-10。[ミカンネセンチュウが優占、自活性線虫が減少。ダニ、トヒムシ、菌類に対する影響も調査。]
49. 岩瀬 恵・小阪和彦・小谷哲也・山崎洋一郎：マツノザイセンチュウ防除薬剤試験。香川林指試研成果報 15: 59-82。[クロマツにMTS-20、ネマホス、テラキュアP(以上樹幹注入)、ランネートF粒剤(土壌施用)。]
50. 加々美好信・脇屋春良・藤田育資：イチゴセンチュウによるシャクヤクの被害と線虫の侵入・増殖の時期。四国植防 14: 94-97。[症状、被害、侵入開始時間、寄生率の時間的变化。]
51. 金川 侃：マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業の概要(茨城県)。林木の育種

- 112: 49-51. [被害状況、事業の開始、目標、進行状況、問題点。]
- 5 2. 糟谷重夫・岸 洋一・佐倉詔夫・石原 猛・成瀬善高: 東大演習林におけるマツノザイセンチュウ抵抗性母樹に対する接種試験, 31回日林関東支講: 31. [講要]
- 5 3. 加藤保博・佐藤 清・俣野修身・後藤真康: Metabolic fate of 1, 2-dibromo-3-chloropropane (DBCP) in rats. 農薬誌 4(2) 195-203. [経口投与時の尿・胆汁・呼吸への排泄、分解物の体内分布。]
- 5 4. 加藤保博・佐藤 清・俣野修身・後藤真康: *in vivo*, *in vitro*系でのDBCPによるラット蛋白、DNAのアルキル化, 4回日農薬学会講要: 236. [未見。講要。]
- 5 5. 河津一儀・西井良樹・多田幹郎: マツノザイセンチュウに対する殺線虫性植物成分の探索, 昭54日農化学会講要: 462. [未見。講要。]
- 5 6. 岸 洋一: 薬剤散布されたマツ枝へのマツノザイセンチュウの樹体侵入, 90回日林大会講要: 106; 90回日林論: 367-368. [高濃度の薬剤(スミチオン)が附着していてもカミキリが後食すれば線虫は樹体に侵入。]
- 5 7. 鬼頭研二: Notes on the postembryonic development of *Draconema japonicum* Kito, 1976 (Nematoda, Draconematidae). J. Fac. Sci., Hokkaido Univ. Ser. VI, Zool. 22(1) 88-98. [各令期の幼虫及び雄成虫を記載。]
- 5 8. 清原友也: マツノザイセンチュウの走査型電子顕微鏡による観察, 日林九支研論 32: 257-258. [雌雄成虫の外部形態。]
- 5 9. 小林一三・奥田素男: 材線虫によるマツ集団枯損の拡がり方の一例 (三上山の場合), 30回日林関西支講: 32-34. [77年は長径 65mの楕円形、78年は同140m。]
- 6 0. 小玉孝司: 太陽熱利用によるハウス土壤消毒(1), 農及園 54(1) 193-196. [マルチ併用の病原菌への効果。40°Cが有効温度、有機物添加は酸化還元電位を下げる。]
- 6 1. 小玉孝司: 太陽熱利用によるハウス土壤消毒(2), 農及園 54(2) 277-281. [イチゴの土壤伝染性病気の防除。ネコブ、ネグサレセンチュウ、雑草への効果大]
- 6 2. 古賀成司: 土壤線虫の耕種的防除法, 九州農業研究 41: 7-8. [ネコブ、ネグサレセンチュウの被害防除の輪作と有機物添加の潜水処理が好結果。トウモロコシは前者の好適寄主作物。]
- 6 3. 小泉成徳・福留信明・林 松雄・田中行久・山口洋一: 沖縄におけるタバコの病害虫, 葉タバコ研究 81: 77-83. [検出線虫のリスト、タバコへの寄生性、薬剤防除試験結果を含む。]
- 6 4. 近藤栄造・石橋信義: Ultrastructural changes associated with development of pin nematode, *Gracilacus* sp., with special reference to its survival. Appl. Ent. Zool. 14(1) 1-11. [ピンセンチュウの1種の發育にともなう不良環境耐性の変化を表皮・脂質顆粒の微細構造と対応させて検討。]
- 6 5. 近藤栄造・石橋信義: ネコブセンチュウの卵の産生に及ぼす寄生密度の影響, 23回応動昆大会講要: 134. [講要]
- 6 6. Kort, J.: オランダにおけるジャガイモシストセンチュウの防除に関する政府の対策, 澁粉会報 14巻1: 37-46. [北海道における研修会の記録。1941年の初発見以後の法規制、線虫抵抗性品種育種、線虫のレースの問題、化学的防除、植物防疫所による検査。]
- 6 7. 工藤 馨: 立枯栗幼樹根辺土壌からのネグサレセンチュウ, 23回応動昆大会講要: 132. [講要]
- 6 8. 栗原 毅: Numerical relationships between a nematode parasite, *Romanomeris culicivorax*, and its host population, *Culex pipiens molestus* larvae. 寄生虫誌 28(3) 99-105. [チカイエカへの線虫寄生を高める両者の個体数の関係。線虫増殖

- 、宿主発見・侵入に最適密度がある。]
69. 栗原 毅・秦 和寿：蚊幼虫の寄生線虫 *Romanomermis culicivorax* 寄生率に及ぼす2つの要因。衛動 30(2) 200-202. [水面に放した線虫 (シヘンチュウ) 幼虫のチカイエカ幼虫への寄生率。5種の蚊の線虫寄生率の比較。]
70. Lamberti, F. & Bleve-Zacheo, T. : Studies on *Xiphinema americanum sensu lato* with descriptions of fifteen new species (Nematoda, Longidoridae). Nematol. medit. 7(1) 51-106. [オオハリセンチュウの *X. americanum* とされていたグループの研究。日本産を上記種とは別種とし、日本から英国へ輸出された盆栽より検出された標本を基に、*X. incognitum* (新種) として記載。]
71. Lutgert, H. G. : オランダ北東部におけるジャガイモシストセンチュウ (ジャガイモシストセンチュウ (*Globodera rostochiensis*) およびジャガイモシロシストセンチュウ (*G. pallida*)) の検出、シストの分離および防除法。澱粉会報 14巻 1: 15-36. [北海道における研修会の記録。生活史、土壌上層におけるシストの分布、シストの検出 (圃場サンプリング法、用具)、判定のための実験室内における貯蔵と方法、シスト分離法、防除方法、線虫の分散の型、圃場管理のはかに他のどんな方法がとられるか、灌漑機 (プラウ搭載型・ライン型・ウイング型)、防除薬剤 (燻蒸剤、浸透性殺線虫剤)、野良生え馬鈴薯問題。]
72. 真宮靖治：マツノザイセンチュウの接種をうけたマツ稚苗の病態解剖。90回日林大会講要: 107. [講要]
73. 真宮靖治：マツの枝組織にみられるマツノザイセンチュウ耐久型幼虫脱皮促進効果。23回応動昆大会講要: 137. [講要]
74. 真宮靖治・遠田暢男：*Bursaphelenchus mucronatus* n.sp. (Nematoda: Aphelenchoididae) from pine wood and its biology and pathogenicity to pine trees. Nematologica 25(3) 353-361. [ニセマツノザイセンチュウを新種として記載。マツに対する接種試験結果を含む。Baujarad, P. (1980) は本種をマツノザイセンチュウのシノニムとしている (Revue Nematol., 3(2) 167-177)。]
75. 丸峯正吉・坂本 敏：かんしょのネコブセンチュウ抵抗性品種の選抜について。九州農業研究 41: 47. [苗床で可能。抵抗性強個体は極多収の型質を示した。]
76. 丸峯正吉・坂本 敏：かんしょのネグサレセンチュウ抵抗性品種の選抜について。九州農業研究 41: 48. [F1のミナミネグサレセンチュウ抵抗性個体出現率は親品種の形質から推定可能。ネコブセンチュウ抵抗性とは無関係。苗床で対ネコブ検定、本圃でネグサレ検定が効果的。]
77. 増井正夫・糟谷 明：Bromine uptake of some vegetable following soil fumigation with methyl bromide. 園学雑 48(1) 55-60. [トマト、ピーマン、ナス、イチゴの生育・収量への影響、植物体・土壌への残留。]
78. 松原 功：千葉県におけるマツノザイセンチュウの分布とMB指数。森林防疫 28(11) 200-202. [分布と温度の関係。]
79. 松原 功：山武町沖渡のマツノザイセンチュウ病被害林の経緯について。31回日林関東支講要集: 27. [講要]
80. 松崎征美・小川 宏・久保田増栄・北村明久・山本 磐：イグサに発生した根腐症とその原因について。高知農研報 11: 7-20. [イネネモグリセンチュウの集中寄生が原因。土壌病害、土壌還元による直接の関係なし。]
81. 皆川 望：Efficiencies of two methods for extracting nematodes from soil. Appl. Ent. Zool. 14(4) 469-477. [改良ベルマン法と二層遠沈浮遊法の線虫分離効率を線虫の種類または種類群別に比較。前者は後者より線虫の種類・分離時の条件等の影

響を受ける。]

82. 皆川 望: Description of *Crossonema dryum* n.sp. (Criconeematidae: Tylenchida) from Kumamoto, Japan. 日線虫研誌 9: 25-27. [熊本県のクヌギ根圏から検出したトゲワセンチュウを新種として命名、記載。体環上の突起数や形、尾長と形、排泄口の位置に特徴。]
83. 皆川 望: サツマイモネコブセンチュウの寄主侵入数とトマト苗の生育. 23回応動昆虫大会講要: 133. [講要]
84. 峰尾一彦・紺谷修治・田中 潔: 薬剤の樹幹注入および土壌施用によるマツの材線虫病防除試験. 90回日林大会講要: 108; 90回日林論: 369-370. [テラキュアP、ネマホスの樹幹注入は施用翌年も有効。]
85. 三井 康: 4種シストセンチュウの組織培養根での発育. 23回応動昆虫大会講要: 136. [講要]
86. 宮路龍典・白沢禾雄: サトイモの連作障害の発現と対策に関する研究. 鹿児島農試研報 7: 5-15. [連作につれミナミネグサレセンチュウ増加。D-D、EDB剤は効果不十分、マリーゴールドは効果なし。輪作、クロルピクリンが高い効果。]
87. 百田洋二: 本邦未記録の *Heterodera latipons* について. 日線虫研誌 9: 73-74. [千葉県のリムギ根圏から検出。ムギシストセンチュウ類似のシストの形態を報告。]
88. 百田洋二: 千葉県で検出された球形シストセンチュウについて. 23回応動昆虫大会講要: 135. [講要]
89. 村山大記: オランダにおけるジャガイモシストセンチュウの防除対策(3). 農及園 54(1) 23-24. [総合防除法を紹介。]
90. 村山大記: オランダにおけるジャガイモシストセンチュウの防除対策(4). 農及園 54(2) 269-272. [土壌検診システム、サンプリング法、シスト分離法および検査法。]
91. 村山大記: オランダにおけるジャガイモシストセンチュウの防除対策(5). 農及園 54(3) 381-384. [工業用馬鈴薯品種の特性、現地栽培農家の視察、フランスにおける対策の紹介。わが国の同問題対応策に言及。]
92. 中込暉雄・加藤喜重郎: モモの台木用品種に対するネコブセンチュウの寄生性. 関西病虫研報 21: 34. [寿星桃、オキナワ、R-7-7、R-27-1、ネマガードが根癌指数0。]
93. 中西喜徳: 球根アイリス寄生イモグサレセンチュウの寄生性と防除. 関西病虫研報 21: 12-20. [分布、被害度と生育、寄主範囲、防除(薬剤、温湯浸漬、乾熱、粉殻燻燃処理)。]
94. 中里筆二・原 栄一・高山隆夫: イネシングレセンチュウによる黒点米の発生と防除. 群馬農試報 19: 21-28. [黒点米の発生と線虫の関係、実態調査(種子の汚染度と翌年の発生、品種と発生、収穫時期と発生)、防除(薬剤、種子浸漬、出穂期散布)。]
95. 西村慶二・栗延 晋・金光隆義: マツノザイセンチュウ人工接種の用土別、灌水法別試験. 日林九支研論 32: 205-206. [抵抗性検定に当たっては鉢用土の選択、灌水量に充分注意を払う必要。]
96. 西沢 務: 線虫類. In: 農林水産研究文献解題: 野菜害虫編(農林水産技術会議編). 農林統計協会、東京、p. 354-423, 508-533. [前半はネコブセンチュウ(文献数320)、ネグサレセンチュウ(同149)、その他の主な野菜類加害線虫(同57)の種類、分布、生理、生態、被害、防除のまとめ。後半は線虫に関する一般的な解説、参考書、実験方法等のまとめと文献表。]
97. 西沢 務: 線虫: その生態、検診、被害と防除の方向. 農水技研究ジャーナル 2巻 9: 35-39. [内外の研究の紹介。]
98. 西沢 務: 線虫対策のための輪作作物および対抗植物の評価. 23回応動昆虫大会講要

- : 139. [講要]
99. 西沢 務: 有害線虫による被害と効果的な防除法. 農業富民 51巻8: 90-93.  
[一般向解説記事。]
100. 西沢 務: ハブソウはネコブセンチュウ退治に有効か. 農薬グラフ 71: 10.  
[キタネコブ、キタネグサレ、ミナミネグサレセンチュウ密度は低下。サツマイモネコブ、ジャワネコブセンチュウは増加。]
101. 小芦健良: 鹿児島県の主要植物寄生性線虫について. Delphax 41: 81. [講要]
102. 小芦健良: ネコブセンチュウによるジャガイモの被害例. 日線虫研誌 9: 75-76.  
[サツマイモネコブセンチュウ. 抵抗性の品種間差を認める。]
103. 小芦健良: 畑水稻ならびにサツマイモ (農林2号) でのネコブセンチュウの増殖事例について. 23回応動昆大会講要: 132. [講要]
104. 小河誠司・中島康博: マツノザイセンチュウに関する研究 (6) マツノマダラカミキリの生存日数・後食量と材線虫の落下侵入増殖との関係. 日林九支研論 32: 251-252. [薬剤散布との関係も論ずる。]
105. 岡田利承: Hatching of the soybean cyst nematode, *Heterodera glycines* Ichinohe. Rev. Pl. Protect. Res. 12: 11-23. [著者の研究のまとめを中心とした総説]
106. 岡本好一: サツマイモネコブセンチュウの抵抗性打破系統の寄生性と2期幼虫の形態的差異. 日線虫研誌 9: 16-19. [トマト、タバコ、サツマイモ抵抗性打破系統は、いずれも寄主特異的で、他作物の抵抗性は破らず。形態計測値の差異は僅少。]
107. 岡本好一・西沢 務・千本木市夫・高橋兼一: エンドウの初期生育に及ぼすネコブセンチュウおよびネグサレセンチュウの影響. 関東病虫研報 26: 141-143. [サツマイモネコブセンチュウはキタネコブセンチュウより被害大。キタネグサレ、クルミネグサレセンチュウの被害は小。]
108. 奥 八郎: 激害型マツの枯損とマツノザイセンチュウの代謝毒素. 山林 1144: 34-37. [接種方法、線虫により実験室内での毒素の生産、毒素の性質。]
109. 奥 八郎: マツノザイセンチュウの代謝毒素. 遺伝 33巻10: 46-47. [No. 79-111, 80-89を参照。]
110. 奥 八郎・白石友紀・黒住繁久: マツの枯損とマツノザイセンチュウの代謝毒素. 日植病報 45(4) 537. [講要]
111. 奥 八郎・白石友紀・黒住繁久: Participation of toxin in wilting of Japanese pines caused by a nematode. Naturwissenschaften 66(4) 210. [マツノザイセンチュウの接種したマツ実生苗から毒素を抽出。後にこれは線虫に随伴する細菌の生産物であることが判明 (No.80-89)。]
112. 大羽克明・石橋信義: *Caenorhabditis elegans* の生存と老化. 23回応動昆大会講要: 138. [講要]
113. 大庭喜八郎: マツのマツノザイセンチュウ抵抗性育種の概要 (九州・関西地区). 林木の育種 112: 45-48. [育種のパイロットテスト、抵抗性候補木の本数、事業の概要。]
114. 大島俊市・小野邦明・赤沢淑紀: センチュウ捕食菌によるタバコセンチュウ病防除に関する研究 第1報 センチュウ捕食菌の性質とそのセンチュウ病防除作用. 岡山たばこ試報 40: 47-66. [*Arthrobotrys conoides*, *Dactylaria thaumasia*, *D. ellipso-spora*。菌の分離と捕殺作用、菌の培養的性質 (温度、pH、炭素源、窒素源)、生理的特性 (温度と生存期間、捕虫器の形成)、菌の土壌施用。]
115. 太田 明・有田勝彦: 土壌施用されたマツの材線虫病防除薬剤の動き. 30回日林関西支講: 35-37. [土壌中・樹体内の濃度変化。]
116. 大山浪雄: マツの材線虫抵抗性育種の現状と成果. 山林 1143: 36-41. [抵抗性

- の要因(回避性、狭義の抵抗性、耐性、その他)、抵抗性育種の進め方(導入、交雑、選抜。]
117. 大山浪雄・白石 進・丹原哲夫: マツ実生苗の年齢によるマツノザイセンチュウ抵抗性の違い. 日林九支研論 32: 211-212. [3年生と4年生で差なし。]
  118. Poiner, G. O., Jr.・小野 洪: Parasitic nematode from *Simulium tobetsuense* Ono and *S. aokii* Takahashi. 衛動 30(2) 195. [北海道音更町のエゾヒメアシマダラブユとアオキツメトゲブユ幼虫からシヘンチュウを検出。]
  119. Poiner, G. O., Jr.・斎藤一三: *Mesomerimis japonicus* n. sp. (Mermithidae: Nematoda), a parasite of *Simulium japonicum* (Simuliidae: Diptera). 衛動 31(2) 147-149. [神奈川県相模川水系の谷太郎川のアシマダラブユ幼虫から得た線虫(シヘンチュウ)を新種として記載。]
  120. Poiner, G. O., Jr.・高岡宏行: Parasitic nematode from *Simulium japonicum* and *S. bidentanum*. 衛動 30(2) 193. [鹿児島市のアシマダラブユとキアシツメトゲブユ幼虫から未同定のシヘンチュウを発見。]
  121. 立仙雄彦・藤本吉幸・戸田忠雄・栗延 晋・西村慶二: マツノザイセンチュウ抵抗性候補木の人工接種検定の結果. 日林九支研論 32: 209-210. [アカマツ、クロマツのクローン中に生存率の高いものがあつた。]
  122. 立仙雄彦・戸田忠雄・一丸喜八郎・栗延 晋: ガラス室におけるマツノザイセンチュウ接種時期別試験. 日林九支研論 32: 207-208. [1回目は6月上旬、2回目は7月中・下旬がよい。]
  123. 坂本 敏: かんしょ近縁野生種の線虫抵抗性と育種利用について. 九州農業研究 41: 52. [ネコブ、ネグサレセンチュウ抵抗性強個体多く、品種育成に利用可能。]
  124. 作山 健・佐藤平典: 岩手県におけるマツの材線虫病の発生(1) マツノザイセンチュウ. 日林東北支誌 31: 169-171. [マツノザイセンチュウ、ニセマツノザイセンチュウの検出状況、被害。]
  125. 作山 健・佐藤平典: 岩手県におけるマツの材線虫病の発生. 森林防疫 28(12) 226-227. [1978年秋から79年10月までの発生状況。]
  126. 佐野善一: サツマイモネコブセンチュウ低温季卵の孵化傾向と孵化に及ぼす低温の影響. 23回応動昆大会講要: 133. [講要]
  127. 佐々木 研・古越隆信・糸屋吉家: *Sylvestres* 亜節内の種間雑種に関する研究 (V) マツノザイセンチュウに対する抵抗性. 90回日林講: 239-240. [18組合わせて3回試験. 結果にばらつき。]
  128. 佐藤平典・作山 健: 岩手県におけるマツの材線虫病の発生(2) マツノマダラカミキリ. 日林東北支誌 31: 172-173. [生息確認状況。]
  129. 清水 啓・後藤 昭: サツマイモネコブセンチュウおよびキタネグサレセンチュウの各種作物における寄生性. 関東病虫研報 26: 139-140. [増殖少なかったのは前者ではサトイモ、ラッカセイ、ブロッコリ、ダイコン、ミツバ。後者では陸稲、馬鈴薯、ナガイモ、スイカ、サトイモ。]
  130. 清水 啓・百田洋二: イネシガラセンチュウのアミノ酸組成. 日線虫研誌 9: 45-48. [カルスで無菌培養した成幼虫からアミノ酸25種、アミン4種、未同定のニンヒドリン陽性物質5種、およびアンモニアと尿素を検出。]
  131. 新須利剛・小河誠司・坂口荘一: イチゴ根腐萎ちよう症に関する研究 第1報 数種薬剤により定植前土壌処理の発症防除効果. 九病虫研会報 25: 42-45. [クロルピクリンの効果がすぐれ、数種殺線虫剤も効果あり。発症には *Cylindrocarpon* 菌とクルミネグサレセンチュウが関与。]



132. 宍田幸男: Studies on nematodes parasitic on woody plants. I. Family Trichodoridae (Thorne, 1935) Clark, 1961. 日線虫研誌 9: 28-44. [明治神宮境内林を主とする樹木の根圏から検出した次のユミハリセンチュウ5種の形態、計測値、種内変異。 Trichodorus tricaulatus (新種)、T. cedarus、T. aequalis、Paratrichodorus (Atlantadorus) porosus、P. (Nanidorus) minor、T. longistylus Yokoo, 1964とT. kurumeensis Yokoo, 1966 をT. cedarus Yokoo, 1964のシノミムとする。]
133. 宍田幸男: Xiphinema 5種の形態と分布に関する知見. 23回応動昆大会講要: 131. [講要]
134. 庄司次男: マツノザイセンチュウ (Bursaphelenchus lignicolus) の低温耐性. 日線虫研誌 9: 5-8. [耐性の最も高い発育ステージは分散型第3期幼虫。]
135. 須川豊伸: マツノザイセンチュウ被害による傷害樹脂道の派生と形成層細胞の挙動について. 90回日林大会講要: 107. [講要]
136. 鈴木和夫: マツの材線虫病の発現機作. 森林防疫 28(5) 90-94. [線虫の増殖と樹体の変化、環境の影響のレビュー。]
137. 鈴木撃之・Moriyama, Y.・石井直明: Effects of 5-fluorodeoxyuridine on reproduction and aging in a strain of free-living nematode, Rhabditidae tokai. Tokai J. exper. Clinic. Med. 4: 149-157, 4: 159-164. [未見]
138. 高橋和博・堀田 隆: マツノザイセンチュウ病防除試験(1) 灌水による治療効果. 日林九支研論 32: 265-266. [蒸散量低下が回復。]
139. 高橋和博・堀田 隆: マツノザイセンチュウに関する研究: かん水による治療効果. 大分林試報 21: 71-73. [処理により枯損をまぬかれる事例もある。]
140. 高倉 求・小芦健良・野口純隆: 水利用による畑施設土壌の改善に関する研究. 鹿児島農試研報 7: 17-57. [灌水 20-60日ではネコブセンチュウに効果不十分、80日以上必要。]
141. 高倉重義・山田英一・上野賢司・今 友親: ジャガイモシストセンチュウに対する殺線虫剤の効果. 北海道立農試集報 42: 67-79. [D-D、EDB油剤は非寄主との組合せ時に効果大。Vydate 1% 粒剤30kg/10a全面施用の効果が最も高く、同剤作条施用、ダイアジノン全面施用がこれに次ぐ。]
142. 竹下 努: クロマツ小径木に注入した薬剤の材線虫病予防の有効年数. 30回日林関西支講: 27-29. [テラクアPは施用翌年も有効。]
143. 竹谷昭彦・細田隆治・柴田叡一: マツ枯損と侵入マツノザイセンチュウ数および温度との関係(2). 日林九支研論 32: 255-256. [前報(No.79-34)のまとめ。]
144. 滝沢幸雄: 東北地方におけるマツ類材線虫病の現状と防除上の問題点. 青森営林局林業技術研究集録 昭54: 45-49. [発見経過と被害の現状、東北地方における特異点、防除上の問題点。]
145. 滝沢幸雄: 東北地方におけるマツノマダラカミキリの生態(7) 宮城県産成虫のマツノザイセンチュウ保持数とアカマツ苗木への摂食試験. 日林東北支誌 31: 153-155. [年次・地域・雌雄・羽化時期・体重の違いによる線虫保持数の違い。]
146. 玉川重雄・入交 毅・小山田正美・立花 肇・遠山輝彦: クロルピクリンの土壌中での挙動. 4回日農薬学会講要: 341. [未見。講要。]
147. 田村弘忠: マツノザイセンチュウを捕える菌. 林業技術 450: 7-10. [線虫捕食菌の解説。]
148. 田村弘忠・遠田暢男: マツノマダラカミキリの蛹室中と成虫体表上における線虫捕食性ダニ類の数と分布. 23回応動昆大会講要: 136. [講要]
149. 田村弘忠・遠田暢男: 飼育ビンにおける線虫捕食性ダニの生活史と繁殖. 90回日

林大会講要: 108. [講要]

150. 照屋林宏: リュウキュウイシユクセンチュウ (*Paratrophurus* sp.) の寄主範囲について. 沖縄農試研報 4: 56-64. [サトウキビ、スーダングラス、ネピアグラス、ソルガム、パラグラス、トウモロコシ、ナツマイモ、アフリカタヌキマメ等が好適寄主。]
151. 戸田忠雄: 台木樹種を異にしたつぎ木11年生個体のマツノザイセンチュウ接種試験. 日林九支研論 32: 201-202. [台木はつぎ穂の抵抗性を逆転されるほど大きな影響なし。]
152. 戸田忠雄・坂本和子・一丸喜八郎: アカマツ、クロマツ精英樹家系に対するマツノザイセンチュウ20系統の加害性. 日林九支研論 32: 203-204. [線虫の加害性は系統により異なった。]
153. 樋田幸夫: 数種のクワ寄生線虫の発消長. 日蚕講要 49: 11. [講要]
154. 樋田幸夫: クワに寄生するリングネコブセンチュウ (*Meloidogyne mali*) の寄主植物および2期幼虫の形態的特徴. 日線虫研誌 9: 20-24. [多くの草本類にも寄生。第2期幼虫の尾長、排泄口の位置に他種と異なる特徴をもつ。この個体群は後に別種とされた。No. 84-148を参照。]
155. 樋田幸夫: クワに寄生する数種ネコブセンチュウの計測値の比較. 23回応動昆大会講要: 134. [講要]
156. 上村道雄: 野菜作における対抗植物導入による土壌線虫対策. 農及園 54(12) 1503-1508. [スイカのネコブセンチュウ対策としてマリーゴールドを導入、好成績を得た。品種はアフリカントールが有望。]
157. 渡辺恒雄: ネマトーダに内部寄生性を有する *Verticillium* sp. の抗菌性(1) 形態と *in vitro* での活性. 日植病報 45(1) 125. [講要]
158. 渡瀬 彰: 山梨県におけるマツノザイセンチュウの分布とその被害状況. 森林防疫 28(8) 167-168. [1978年初発見以来、1979年までの状況。]
159. 山口忠義・阿久沢恒雄: 群馬県におけるマツの材線虫病の発生. 森林防疫 28(7) 124-127. [1978年現在のマツノザイセンチュウ、ニセマツノザイセンチュウの分布。]
160. 山川邦夫: 野生種を利用したトマトの耐病虫性品種の育成について. 今月の農業 23巻9: 60-65. [ネコブセンチュウ抵抗性を含む。]
161. 山本公志・奈須田和彦・高島敬一: クリ実生苗に対する *Pseudhalenchus anchilisposomus* の関連性. 日線虫研誌 9: 69-72. [健全根より衰弱根から多く検出。根の皮層に侵入し、産卵。線虫接種株では菌根が少ない傾向。]
162. 山崎正枝: 水田の転換利用の考え方: 田畑輪換の技術と展望. 農林水産技術情報協会、東京、70 pp. [線虫防除効果(渡辺文吉郎氏の講演のまとめ)を含む p.62-66。]
163. Anon. (九州林木育種場): マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業の手引. 九州林木育種場、西合志(熊本)、50 pp. [未見]
164. Anon. (林野庁造林課育種班): マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業. 山林 1129: 20-24. [着手までの経緯、実施方法。]

## 昭和55年 (1980)

1. 相原孝雄・三枝敏郎・湯原 巖：輸入木材材部から検出されたBursaphelenchus 属を中心とした線虫。植防研報 16: 103-107. [インドネシア、マレーシア、北朝鮮、フィリピン、台湾、アメリカ、ソ連からの輸入材で検出された線虫のリスト。]
2. 相原孝雄・湯原 巖・山崎和雄：神奈川県下の花木類見本園で発見したMeloidogyne camelliae について。24回応動昆大会講要: 106. [講要]
3. 青木宏史：褐色根腐病抵抗性新台木の特性。今月の農薬 24巻12: 22-26. [トマト。ネコブセンチュウに感受性または弱い抵抗性。]
4. 青柳美智子・石橋信義：マツノザイセンチュウの配偶子形成。24回応動昆大会講要: 102. [講要]
5. 有田勝彦・太田 明：薬剤の土壤施用によるマツの材線虫病防除試験：“メソミル剤の場合”。31回日林関西支講: 244-246. [材中濃度と防除効果。]
6. 近岡一郎：鶏糞のネグサレセンチュウ抑圧効果について。24回応動昆大会講要: 109. [講要]
7. 海老根翔六：ヒマラヤスギにおけるマツノザイセンチュウの被害とマツノマダラカミキリの行動。森林防疫 29(11)201-205. [枯損木からの線虫検出、カミキリの生息状況。]
8. 江森 京・杉山 浩：キボシカミキリ幼虫に対するEDBの毒性。日蚕関東講要 31: 7. [講要]
9. 遠田暢男・田村弘忠：マツノマダラカミキリ成虫から検出された線虫捕食性ダニ類(続)。森林防疫 29(2) 36-39. [ダニの線虫捕食量にふれる。]
10. 福留信明・上釜耕二：土壤中のネコブセンチュウ密度におよぼすソルゴー栽培の影響。九病虫研会報 26: 182-183. [講要]
11. 福留信明・上釜耕二：ジャワネコブセンチュウに対するタバコの抵抗性 第2報 抵抗性の発現におよぼす土壤温度の影響。24回応動昆大会講要: 110. [講要]
12. 古野東洲：マツノザイセンチュウに加害された外国産マツ属。31回日林関西支講: 241-243. [高密度接種で強抵抗性のマツも枯れた。]
13. 二井一禎：マツ属各種のshoot cylinderに対するマツノザイセンチュウの集合・侵入率。24回応動昆大会講要: 104. [講要]
14. 二井一禎：Developmental rate and population growth of Bursaphelenchus lignicolus (Nematoda: Aphelenchoididae) and B. mucronatus. Appl. Ent. Zool. 15(2) 115-122. [マツノザイセンチュウはニセマツノザイセンチュウに比べ胚子・後胚子発生とも早く、発育零点は高い、糸状菌叢上の個体群増殖は高く、飽和密度は低い。]
15. 二井一禎：Host preference of Bursaphelenchus lignicolus (Nematoda: Aphelenchoididae) and B. mucronatus shown by their aggregation to pine saps. Appl. Ent. Zool. 15(3) 193-197. [マツノザイセンチュウ・ニセマツノザイセンチュウの9種のマツ樹液に対する集合。両種の選好性は似るが、寄主の抵抗性と関係なさそう。]
16. 二井一禎：Population dynamics of Bursaphelenchus lignicolus (Nematoda: Aphelenchoididae) and B. mucronatus in pine seedlings. Appl. Ent. Zool. 15(4) 458-464. [マツノザイセンチュウ・ニセマツノザイセンチュウのクロマツ・アカマツ接種試験。前者の増殖はクロマツでは可能、アカマツ個体では差異。後者線虫は例外を除き増殖できず。]
17. 二井一禎：Studies on the affinity between pine wood nematoda and their hosts. 130 pp. 京都大学農学部 [Thesis]
18. 後藤 昭：作物を診断する 2. 害虫診断。化学と生物 18(9) 648-652. [線虫を

含む害虫の被害、検診法の解説。]

19. 後藤 昭：稲作主要病害の発生生態・診断・対策：センチュウ類、今月の農業 24巻4: 253-254. [イネシンガレセンチュウ・乾田直播栽培におけるイネシストセンチュウを扱う。]
20. 萩谷俊一：ダイズシストセンチュウとキタネグサレセンチュウの混合接種とダイズの生育及び両種の土壤中における密度の変化、関東病虫研報 27: 167-168. [前者の増殖にとって後者の存在は正の作用、後者にとっては前者は負の作用。]
21. 橋本平一：マツノザイセンチュウを接種したクロマツの形成層活動の変化、91回日林大会講要: 123; 91回日林論: 367-370. [樹体の水分ストレス発現以前に形成層活動低下。]
22. 橋本平一：材線虫病罹病マツの木部に見られる呈色反応について、日林九支研論 33: 163-164. [放射線細胞にみられる澱粉・脂質・細胞の壊死およびファストグリーンによる染色性。]
23. 橋本綱二：大豆の耐病虫性育種の現状と問題点：ウイルス病およびダイズシストセンチュウ抵抗性育種を中心として、育種学最近の進歩 21: 104-112. [背景、抵抗性品種の検索、寄生性の地域差、下田不知系の限界等。]
24. 平野和弥：線虫。In: 日本植物病理学史、日本植物病理学会、東京、p.59-65. [線虫の発見と研究の流れ。主要な植物寄生性線虫のグループ別に研究の歴史を述べる。]
25. Holdeman, Q. L. : The pine wood nematode (Bursaphelenchus lignicolus Mamiya & Kiyohara, 1972) and the associated pine wilt disease of Japan. Dep. Food & Agr. & Agr. Com. Calif., 45 pp. [未見]
26. 細田隆治・小林一三：マツノザイセンチュウの材線虫保持数の年次・季節変化、31回日林関西支講: 227-229. [1975年頃より増加傾向。]
27. 細野隆次：A study of morphology of Caenorhabditis elegans: a mutant of C. elegans with dumpy and temperature-sensitive roller phenotype. J. exper. Zool. 213(1) 61-67. [未見。突然変異体と野生型の交配により、該当遺伝子の染色体上での位置を決定。]
28. 細野隆次・Sato, Y.・Aizawa, S.・Mitsui, Y. : Age-dependent changes in mobility and separation of the nematode Caenorhabditis elegans. Exper. Germtol. 15(4) 285-289. [未見。老化に伴う運動性の変化を検討。]
29. 一戸 稔：コショウ病害とネコブセンチュウ：ブラジル国アマゾン3年の記録、北日本病虫研報 31: 1-8. [アマゾンのコショウの線虫対策としての対抗植物の利用、イネ科草本の敷草、薬剤（フラゲン、テミック）処理の比較。次の論文も参照。一戸 稔 (1985) Integrated control of the root-knot nematode, Meloidogyne incognita, on black-pepper plantations in the Amazonia region. Agr. Ecosyst. Env. 12(1984/1985) 271-283.]
30. 一戸 稔：Nematodes and their control in Japan. Agriculture Asia, Spec. Issue 11: 328-333. [日本の線虫相、被害、防除を解説。]
31. 池田武文・須崎民雄：樹木の通導抵抗に関する研究 (II) マツノザイセンチュウ接種クロマツの水分通導の変化について、91回日林大会講要: 122. [講要]
32. 池田俊弥・尾田勝夫：アセトン注入木および線虫接種木のマツノマダラカミキリに対する誘引性発現について、91回日林大会講要: 116. [講要]
33. 今村和夫：黒点米の発生原因究明に関する研究 第1報 イネシンガレセンチュウとの関係、北陸病虫研報 28: 40-42. [両者の関係は不明瞭。]
34. 今村和夫：黒点米の発生原因究明に関する研究 II ヒルガタワムシとの関係。

- 24回応動昆大会講要: 107. [講要]
35. 稲垣春郎: ジャガイモシストセンチュウの新発生と対策研究. In: 植物防疫三十年のあゆみ. 日本植物防疫協会、東京、p. 358-361. [発生・分布、伝播経路、バソタイプ、症状、被害、生理・生態、防除。]
36. 稲垣春郎: Utilization of resistant variety under IPM scheme in controlling soil-borne pests. Abst. XVIIth Internat. Congr. Entomol., Kyoto, Japan, 3-9, Aug., 1980. [講要]
37. 稲垣春郎・梅村芳樹・西部幸男・気賀沢和男・鳥山国土: ペア塊茎検定法: ジャガイモシストセンチュウ抵抗性個体選抜の1方法. 24回応動昆大会講要: 100. [講要]
38. 石川昌哉・金子 章・首藤義博・渡辺博恭: マツの精油成分のマツノザイセンチュウの対する誘引作用について. 農化 54(11) 1130. [講要]
39. 石川元一: 水田転換畑における線虫の発生変動とその被害. 埼玉農試研報 36: 11-19. [地下水位とダイズシストセンチュウ、キュウリ・ヤマノイモのネコブセンチュウ密度。転換畑の線虫の種類と発生消長、畦畔に生息する線虫と水田転換畑の線虫密度。]
40. 伊藤整志・石橋信義: 水田の線虫相ならびに田面水動物に及ぼす除草剤施用の影響. 24回応動昆大会講要: 110. [講要]
41. 糟谷重夫・岸 洋一・佐倉詔夫・石原 猛・成瀬善高: マツノザイセンチュウ抵抗性母樹に対する接種試験 (II). 91回日林大会講要: 122; 91回日林論: 365-366. [若い樹齢ほど抵抗性強い。枯損皆無の産地もあった。]
42. 片山 順・丹羽弘道・植村則大・水 音次郎・鈴木久弥・片岡光信・高橋克征・片山堯司・中川卓郎: ナスの新台木による長期栽培体系の確立に関する研究 第2報 台木の耐病虫性及び生産性の検討. 京都農研研報 9: 9-18. [ネコブセンチュウに対しトキシカリウは強い抵抗性、トルバムは比較的抵抗性。]
43. 加藤保博・佐藤 清・俣野修身・後藤真康: Alkylation of cellular macromolecules by reactive metabolic intermediate of DBCP. 農薬誌 5(1) 45-53. [DBCPの代謝生理、作用機構。]
44. 加藤保博・佐藤 清・原田孝則・牧 伸一・俣野修身・後藤真康: Correlation between macromolecular binding of DBCP-metabolite and pathogenicity of necrosis. 農薬誌 5(1) 81-88. [DBCPによる生体高分子物質のアルキル化と細胞壊死との関係をラットで試験。]
45. 河津一儀・西井良樹・石井清美・多田幹郎: A convenient screening method for nematocidal activity. Agr. Biol. Chem. 44(3) 631-635. [殺線虫剤のスクリーニング法として線虫の餌となる菌の被摂食度による方法を提案。この方法で植物のメタノール抽出物質の活性を試験。ノアザミに強い殺線虫活性。]
46. 河津一儀・西井良樹・中島修平: Two nematocidal substances from roots of *Cirsium japonicum*. Agr. Biol. Chem. 44(4) 903-906. [ノアザミの根から抽出した殺線虫成分を tridec-1-ene, 3, 5, 7, 9, 11-pentayne と 9-10-epoxy-xeptadea-16-ene-4, 6-diyn-8 ol と同定。他に別の植物からの線虫増殖阻害物質。]
47. 岸 洋一: 茨城県におけるマツノザイセンチュウによるマツ枯損と防除に関する研究. 茨城林試研報 11: 1-83. [線虫の関与しない枯損、マツノザイセンチュウ・ニセマツノザイセンチュウの関与する枯損、カミキリの生態、枯損木の伐倒・除根、生立木に対する予防散布、樹幹注入、抵抗性選抜育種。]
48. 北沢矩良: マツノザイセンチュウ被害経過と防除効果 (老齢林と壮齢林比較). 茨城病虫研報 19: 5-8. [関東林木育種場周辺の枯損の経過。]
49. 小林義明: 芝草を加害する線虫. 芝草研究 9(1) 43-51. [種類・生態、米国におけ

- る主要線虫とその被害、わが国における芝草の線虫（九州、静岡県）、防除効果。]
50. 古賀成司：施設野菜畑の連輪作とネコブセンチュウの発消長，今月の農薬 24巻 8: 20-23. [スイカを主とした連輪作と線虫密度。トウモロコシで増加、落花生・休閒で低下。]
51. 古賀成司・古閑孝彦：施設スイカ畑の連輪作におけるサツマイモネコブセンチュウの発消長，九病虫研会報 26: 153-155. [キュウリ、レタス、トウモロコシは線虫密度を高め、急性萎凋病を誘発。ラッカセイと休閒は線虫密度・病害発生を抑制。]
52. 近藤栄造：ネマトーダ，In: 昆虫実験法：材料・実習編，学会出版センター、東京、p. 84-90. [線虫分離法、培養手順、細菌・糸状菌・カルスによる線虫の培養。]
53. 栗原 毅・Maeda, R.: Observations on the development of the nematode parasite *Romanomermis culcivorax* in pupal and adult *Culex molestus* mosquitoes. Mosquito News 40(4) 643-645. [未見]
54. 真宮靖治：マツノザイセンチュウの接種による当年生アカマツ苗の発病とその病態解剖，日林誌 62(5) 176-183. [線虫接種後の樹体組織変化を時間を追って観察。]
55. 真宮靖治：マツノザイセンチュウのマツノマダラカミキリ蛹室周辺への集中とその時期，91回日林大会講要：114. [講要]
56. 真宮靖治：アメリカ合衆国におけるマツノザイセンチュウの発見，森林防疫 29(3) 54-58. [発見の経過と対応、日本への渡來說にふれる。フランスにおけるニセマツノザイセンチュウの分布を含む。]
57. 真宮靖治：アメリカ合衆国におけるマツノザイセンチュウの発見（補遺），森林防疫 29(4) 75-76. [アメリカ国内の分布の最新情報。]
58. 真宮靖治：Pine wilt involving a nematode, *Bursaphelenchus lignicolus*, and a cerambycid beetle, *Monochamus alternatus*. Proc. XVIth Internat. Congr. Entomol., Kyoto, Japan. 3-9 Aug., 1980. [講要]
59. 真宮靖治：Pine wilt and pine wood nematode: histopathological aspects of disease development. Workshop Genet. Host-Para. Interact. in Forestry. Wageningen, The Netherlands, 11-21 Sept., 1980. 13 pp. + 4 pls. [講要。No.82-81を参照。]
60. 真宮靖治：マツノザイセンチュウの渡來說について，現代林業 171: 76-77. [アメリカでの材線虫の発見、分布、被害状況。]
61. 松田幹男・堀江正樹・本田勝雄・志村英二：畑輪作に関する研究 第11報 42年間にわたる連・輪作方式における畑作物収量の推移について，日作紀 49(4)548-558. [ダイズの線虫害にふれる。]
62. 松浦邦昭：薬剤樹幹注入によるマツ枯損防止，森林防疫 29(9) 165-168. [テラクアP、ネマホスの効果。]
63. 松浦邦昭：浸透性薬剤の単木処理によるマツノザイセンチュウ防除，今月の農薬 24巻10: 82-86. [フェンスルフオチオン、チオナジンの樹幹注入技術、効果。ダイシストンの土壌処理効果。]
64. 松浦邦昭・柏 司・真宮靖治：浸透性薬剤処理木の枝部における薬剤検出量とマツノザイセンチュウに対する効果，5回農薬学会大会講要：244. [未見。講要。]
65. 皆川 望：九州産 *Criconeema* 属線虫の分類学的検討，24回応動昆大会講要：106. [講要]
66. 百田洋二：線虫の素顔：シストセンチュウ，農薬 27巻2: 32-35. [ダイズシスト、ムギシスト、イネシスト、ジャガイモシストセンチュウの走査電子顕微鏡観察および生態、防除に関する解説。]

67. 百田洋二：線虫の素顔：ネコブセンチュウ。農薬 27巻4: 34-37. [走査電子顕微鏡による形態観察および生態、防除に関する解説。]
68. 百田洋二・後藤 昭：ジャワネコブセンチュウの各種作物に対する寄生性。関東病虫研報 27: 165-166. [ミツバ、ラッカセイ、トウモロコシ、ダイコン、サトイモは密度抑制。]
69. 百田洋二・稲垣春郎：ダイズシストセンチュウ3レースの形態比較。24回応動昆大会講要: 107. [講要]
70. 中島康博・小河誠司：亜硫酸ガスによるマツの急性害と材線虫病。森林防疫 29(4) 68-72. [症状の進行過程の比較。]
71. 中島康博・小河誠司：SO<sub>2</sub> 急性被害木と材線虫接種木のヤニの出方について。日林九支研論 33: 161-162. [症状にかなりの差。]
72. 中園和年：ブラジルにおける線虫問題：研究の現状と問題点。熱研集報 36:25-34. [コーヒーネコブセンチュウの研究史、主要作物の検出線虫、線虫研究の重要性。]
73. 中園和年：Studies on postembryonic development of the reniform nematode, *Rotylenchulus reniformis* Linford and Oliveira (Nematoda: Rotylenchulidae). II. Development of the reproductive system in larvae of the parthenogenetic population. Appl. Ent. Zool. 15(4) 425-432. [ニセフクロセンチュウの生殖原基の発達過程を観察。]
74. 中園和年・Lordello, R. R. A.・Monteiro, A. R.・Lordello, L. G. E. :Desenvolvimento das raizes de cafeeiros novos transplantados e penetracao por *Meloidogyne exigua*. In: Trabalhos apresentados a IV Reuniao Brasileira de Nematologia, 16-20 de julho de 1979, Sao Paulo. Publ No. 4 (Ed. L.G.E.Lordello). Piracicaba, SP, Brazil; Soc. Braz. Nematol. p. 33-46. [ネコブセンチュウ接種によるコーヒー樹根系の変化。]
75. 中園和年・Monteiro, A. R. & Lordello, L. G. E. : ブラジル・サンパウロ州のサトウキビ圃場における線虫類の垂直分布。24回応動昆大会講要: 105. [講要]
76. 中里筆二：夏期ハウス密閉による土壌センチュウ防除。今月の農薬 24巻8: 16-20. [ネコブセンチュウ密度、キュウリの生育・収量に対する効果。]
77. 中里筆二・湯本 勇・木暮幹夫：夏季ハウス密閉による土壌線虫の防除。関東病虫研報 27: 169-170. [群馬県においてもネコブセンチュウに実用化可能。]
78. 西 泰道：野菜における連作障害対策。農林水産研究ジャーナル 3巻3: 22-25. [線虫を含む原因の分析と対策。]
79. 西沢 務：対抗植物・天敵利用による土壌線虫防除。農及園 55(1) 125-130. [線虫の総合防除法確立の素材として、対抗植物及び天敵類について解説。]
80. 西沢 務：多発が予想される土壌線虫と防除法。農業富民 52巻7: 63-65. [ネコブ、シスト、ネグサレセンチュウの被害と防除。]
81. 西沢 務：天敵胞子虫接種に伴うサツマイモネコブセンチュウの年次的密度変化。24回応動昆大会講要: 104. [講要]
82. 野川富雄・推名清治：野菜畑地力維持のためのソルゴーの利用。今月の農薬 24巻7: 100-104. [青刈りソルゴーの栽培・すき込みでネグサレセンチュウは増加、ネコブセンチュウは減少。]
83. 小芦健良：サトイモのネグサレセンチュウに関する研究 第1報 種いも消毒と水田土壌での栽培を組み合わせた健全種いもの確保。九病虫研会報 26: 149-152. [葉剤消毒種いもの水田栽培が良質の種いも生産に有効。種用いもの吸収根は早期切除が肝要。]

84. 小河誠司・萩原幸弘：材線虫病によるマツ枯損被害拡大の様相について。森林防疫 29(6) 115-117. [福岡県筑後平野における被害の拡大経過。]
85. 岡田利承：茶園における線虫類の垂直分布。24回応動昆大会講要：105. [講要]
86. 岡本好一：HCN-781粒剤のサツマイモネコブセンチュウ防除効果。関東病虫研報 27: 174-175. [効果あり。]
87. 岡本好一・八重樫隆志：サツマイモネコブセンチュウ数系統の走査型電子顕微鏡観察。24回応動昆大会講要：108. [講要]
88. 奥 八郎・白石友紀・黒住繁久・太田 宏：マツの枯損とマツノザイセンチュウの代謝毒素。森林防疫 29(1) 3-6. [No. 79-108, 80-90 を参照。]
89. 奥 八郎・白石友紀・黒住繁久・太田 宏：Pine wilt toxin, the metabolite of a bacterium associated with a nematode. Naturwissenschaften 67(4) 198-199. [No. 79-111でマツノザイセンチュウにより生産されるとした毒素を線虫に随伴する Pseudomonas 菌によるものと訂正。]
90. 大羽克明：Caenorhabditis elegansの生存と老化：Axenic cultureにおけるdauer larvaeとその2、3の性質。24回応動昆大会講要：101. [講要]
91. 大庭喜八郎：Breeding of pines for resistance to the wood nematode, Bursaphelenchus lignicolus Mamiya et Kiyohara. Workshop on Genetics of Host-Parasite Interactions in Forestry. Wageningen, The Netherlands, 11-12 Sept., 1980. [講要。No.82-116 を参照。]
92. 大西屋颯：ジャガイモシストセンチュウの発生と防除対策。In: 植物防疫三十年のあゆみ、日本植物防疫協会、東京、p.159-161. [線虫の発見、発生状況、防除対策。]
93. 大島康臣・八尋 健・岩田岩保：サトイモ連・輪作圃場におけるミナミネグサレセンチュウの動態。24回応動昆大会講要：103. [講要]
94. 太田 明：マツ樹体表面に施用された薬剤の樹体内移動。31回日林関西支講：258-260. [ネマフォス、スミチオン、7751、チオナジンを施用。]
95. 大山浪雄・白石 進：マツノザイセンチュウ病抵抗性マツの特性。日林九支研論 33: 205-206. [強抵抗性マツでは線虫が増殖しにくい。]
96. 佐保春芳：被害丸太からザイセンチュウを駆除する試案。91回日林大会講要：118; 91回日林論：355-356. [スルファミン酸アンモニウムと食塩を施用し、Dimethyl Sulfoxideを加えることにより防除効果を高める。]
97. 作山 健・佐藤平典：マツの材線虫病によって翌年に枯れた事例。日林東北支誌 32: 206-207. [部分枯れにおけるマツノマダラカミキリ、マツノザイセンチュウの検出部位。]
98. 佐野善一：低温期土壌の加温がMeloidogyne incognita と Helicotylenchus dihystrera の分離に及ぼす影響。24回応動昆大会講要：101. [講要]
99. 佐野善一・皆川 望・大島康臣：1, 3-dichloropropene含有率を異にする2種製剤のサツマイモネコブセンチュウとミナミネグサレセンチュウに対する効果。九病虫研会報 26: 156-158. [有効成分を多く含むテロンIIの効果はD-Dに勝る。防除型は注入点を囲む球形。]
100. 佐々木 浩：樹幹注入等によるマツノザイセンチュウ防除試験。徳島林総技七研報 18: 67-72. [バイジット、サイアノックス、テラキュアPの樹幹注入。ダイシストン、ランネートの土壌施用。]
101. 佐藤平典・作山 健：マツの材線虫病の被害木以外による伝播の可能性。日林東北支誌 32: 210-211. [マツカレハ被害と異常乾燥の影響が加わる。]
102. 関 節朗・中里筆二：群馬県におけるネコブセンチュウとネグサレセンチュウの



- 分布種。関東病虫研報 27: 163-164. [ジャワネコブ、サツマイモネコブ、キタネコブ、アレナリアネコブ、リンゴネコブセンチュウ、キタネグサレ、クルミネグサレセンチュウ、*Pratylenchus* sp. (キク) を検出。]
103. 柴本 精: マリーゴールドによるレタスのキタネグサレセンチュウ防除。今月の農薬 24巻8: 24-26. [栽培跡地ではD-D剤施用より線虫密度低下・増収効果が持続。]
104. 柴本 精・萩原博司・藤沢恒夫: マリーゴールドによるレタスのミナミネグサレセンチュウ防除効果。関東病虫研報 27: 172-173. [D-D剤より効果持続。]
105. 清水 啓: イネシストセンチュウの増殖と温度の関係。24回応動昆虫大会講要: 102. [講要]
106. 新須利則・坂口荘一・小川義雄: イチゴ根腐萎ちよう症に関する研究 第2報 太陽熱利用による定植前土壌消毒の発症防止効果。九病虫研会報 26: 48-51. [効果はクロルピクリン処理に匹敵。]
107. 新須利則・小川義雄・坂口荘一: イチゴ根腐萎ちよう症に関する研究 第3報 数種薬剤による生育期土壌処理の発症防止効果。九病虫研会報 26: 51-54. [定植活着後の殺線虫剤と殺菌剤の併用処理は防除に著効。]
108. 庄司次男・早坂義雄・在原登志男・宮城・福島両県のマツ類材線虫病の分布と東北地方におけるそのまん延の可能性。森林防疫 29(7) 122-126. [昭和54年までの線虫の地理的分布、東北地方全域で蔓延する可能性。]
109. 首藤義博・碓井あや・渡辺博恭: 松葉汁中でのcatecholの生成と松に対する毒性について。農化 54(12) 1130. [講要]
110. 杉山 浩: Effects of EDB (1, 2-dibromoethane) on silkworm (*Bombyx mori* L). 農薬誌 5(4) 599-602. [局所塗布、EDB処理桑葉の添食では死亡しないが、気密容器中での蒸気暴露によって死亡。]
111. 杉山長美・山下恭平: Synthesis and absolute configuration of nematocidal constituent of *Cirsium japonicum*. Agr. Biol. Chem. 44(8) 1983-1984. [ノアザミ根中の殺線虫成分の合成と絶対立体構造の決定。]
112. 鈴木和夫: 軟X線による材線虫病の病徴観察。31回日林関西支講: 239-240. [樹皮を含む主軸の幅と木質部の幅の比を指標とする。線虫増殖期には値は低下。]
113. 高橋兼一・橋本光司・波川三郎: ヒニールハウスでの太陽熱利用によるサツマイモネコブセンチュウの防除(1)。関東病虫研報 27: 171. [クロルピクリンより高い効果。稲藁・石灰窒素添加の効果も同様。]
114. 竹下敬司・小河誠司: マツ林の枯損分布(マツノザイセンチュウ病による)の地理的パターンと風向との関係。91回日林大会講要: 127; 91回日林論: 381-382. [風向は伝播に大きな役割をしていると推定。]
115. 竹下 努: クロマツ小径木の伐採時期とマツノマダラカミキリ・材線虫の寄生状況。31回日林関西支講: 233-235. [防伐適期は10月から翌年2月まで。]
116. 竹下 努: クロマツ小径木の伐採時期とマツノマダラカミキリ・材線虫の寄生状況。鳥取林試研報 23: 34-38. [材線虫病の病原増殖源とならない防伐時期は10月から翌年2月。]
117. 田村弘忠: 材線虫捕捉菌その後の検出。森林防疫 29(2) 39-42. [*Arthrotrys* 2種と、*Dactylaria polycephala* を検出。]
118. 田村弘忠・遠田暢男: マツノマダラカミキリから検出された線虫捕食性ダニの生活史。日林誌 62(8) 301-307. [マツノザイセンチュウ、*Panagrellus* sp. を餌とした4種のダニの発育・産卵と温度の関係。]
119. 田村弘忠・遠田暢男: マツノマダラカミキリの蛹室および成虫から検出される中

- 気門類ダニ、応動昆 24(2) 54-61. [線虫捕食性を含む3種のダニを検出。カミキリ体内のマツノザイセンチュウ数とダニの数には高い相関なし。]
120. 田中恵子・藤條純夫：ポリアクリルアミドゲル電気泳動法によるサツマイモネコブセンチュウ可溶性蛋白の分離。24回応動昆大会講要：103. [講要]
121. 戸田忠雄：精英樹家系のマツノザイセンチュウ抵抗性。林木の育種 115: 21-22. [アカマツ、クロマツ家系中にも強い抵抗性のものがある。]
122. 戸田忠雄・藤本吉幸・西村慶二・一丸喜八郎：苗齢のちがいによる線虫系統の加害性について。日林九支研論 33: 199-200. [マツノザイセンチュウ19系統のアカマツ、クロマツ、テーダマツへの加害性の差異。]
123. 戸田忠雄・西村慶二・藤本吉幸：アカマツ・クロマツ精英樹家系等のマツノザイセンチュウ抵抗性。日林九支研論 33: 207-208. [家系により抵抗性に明らかな差。]
124. 土屋大二：東京都におけるマツノザイセンチュウの分布とその被害状況。東京農試研報 13: 130-135. [島嶼部(伊豆諸島)を含んだ分布。]
125. 上野吉雄・尾崎純一・弥富喜三：フェニル酢酸および桂皮酸誘導体の殺線虫効果。24回応動昆大会講要：109. [講要]
126. 渡辺恒男：A new variety of *Verticillium sphaerosporum*, an endoparasite of nematodes and its antagonism to soil-borne plant pathogens. 日植病報 46(5) 598-606. [新変種 *V. sphaerosporum* var. *bispora* の記載と線虫に対する寄生性。土壤菌類91菌株に対する拮抗作用の検討。]
127. 八重樫隆志・岡本好一：ネコブセンチュウ5種の雄正面像の分類学的検討。24回応動昆大会講要：108. [講要]
128. 矢木 勉・林 和彦：神戸市須磨浦公園における薬剤土壌施用によるマツ枯損防止の試み。森林防疫 29(9) 159-165. [ダイシストン、ランネート施用。]
129. 山田英一：ジャガイモシストセンチュウの生態と防除。植物防疫 34(2) 49-59. [1972年に発見された北海道のジャガイモシストセンチュウの分布拡大、種とレース、発生生態と被害、防除法に関する試験結果の紹介。輪作、抵抗性品種および薬剤処理等による総合防除の重要性を指摘。]
130. 山川邦夫：野菜の病害抵抗性育種の現状と今後の方向。農林水産研究ジャーナル 3 巻3: 16-21. [ネコブ、ネグサレセンチュウ抵抗性にふれる。]
131. 山川邦夫：わが国におけるトマト耐病性品種育成の現状。今月の農薬 24巻13: 68-71. [ネコブセンチュウ抵抗性を含む。]
132. 山内政臣：温湯薬液浸漬による苗木・球根の消毒方法の確立に関する試験。植防研報 16: 109-119. [カエデ、ツツジ苗木の温湯浸漬処理の効果を含む。]
133. 山崎和雄・高橋栄治・相原孝雄・湯原 巖：連作畑のツツジの生育及び線虫に対するクロルピクリン、パーク堆肥の影響。関東病虫研報 27: 176-177. [ユミハリ、イシユクセンチュウ等を検出。上記の処理により生育良好となる。]
134. 山崎秀一：新潟県におけるマツ材線虫病の現状とその対策。森林防疫 29(2) 226-229. [被害の特徴、線虫の県内分布、生息環境(標高)、防除対策。]
135. 米田公生・勝又 淳・斉木 博・椿 啓介・辰見修三：A nematode-trapping fungus detected in pine sap. 日林誌 62(6) 227-229. [線虫捕食菌 *Dactylella leptospora* をマツの樹液から検出。]
136. 吉田光二・小川典子・熊田恭一：ある施設栽培土壌におけるミミズ類、センチュウおよび有機物含量の経時的変化。土肥誌 51(4) 348-350. [線虫(未同定)は厩肥施用1月後に増加。]
137. 吉井太門・鈴木栄太郎：クワおよびキボシカミキリ成虫から分離される線虫。日

蚕講要 50: 19. [講要]

138. 吉井太門・鈴木栄太郎: クワから分離した線虫の培養とクワへの接種. 日蚕講要 50: 20. [講要]
139. 吉村克生: Free-living marine nematodes from Kii Peninsula. I. Publ. Seto Mar. Biol. Lab. 25(1/4) 39-49. [Thalassironus britannicus、Anticoma trichura、A. elegans (新種)、Enoplus michaelsoni を和歌山県から記載。]
140. 吉村克生: Five species of the genus Eurystomina Filipjev, 1921. Publ. Seto Mar. Biol. Lab. 25(5/6) 373-387. [和歌山県白浜、沖繩からの海棲線虫。E. parva、E. pareurylaima、E. setosa (以上3種は新種)、E. indica、E. ophthalmomorphaを記録。]
141. 湯浅 茂: 線虫のシイタケ害菌防除機能に関する実態調査. 徳島林総技セ研報 18: 28-37. [未同定の線虫の検出数等。]
142. 湯原 巖・相原孝雄: 小型サイクロンの利用によるシストセンチュウ類のシスト検出法について. 24回応動昆大会講要: 100. [講要]
143. 結田康一・渋谷政夫・福川利玄・鈴木喜代志: ハウス栽培野菜の臭化メチル農薬に起因する臭素残留の実態: 宮崎県下の農家ハウスの事例. 土肥誌 51(1) 43-47. [国際残留基準を越えるものが少なくなかった。]

#### 昭和56年 (1981)

1. 阿部恭洋・百武一真: 佐賀県におけるイチゴのクルミネグサレセンチュウによる被害実態と防除. 九病虫研会報 27: 102-103. [線虫の密度消長と根腐萎凋症との関連. 水稲栽培で線虫防除および発症防止が可能。]
2. 相原孝雄・湯原 巖・山崎和雄: ツバキ科3種植物で発見された本邦産 Meloidogyne camelliae Golden について. 日線虫研誌 10: 8-15. [神奈川県下のツバキ、サザンカから検出. 本種を日本から初記録. 形態計測値と特徴をしめす. 関東地方を中心に分布。]
3. 相原孝雄・湯原 巖・山崎和雄: Meloidogyne camelliae の年間発生消長及び数種草本植物への寄生性. 25回応動昆大会講要: 140. [講要]
4. 青田盾彦・谷井昭夫・赤井 純: アズキ落葉病と線虫の関連について. 日植病報 47(1) 99-100. [講要]
5. 青柳美智子・石橋信義: マツノザイセンチュウ雌成虫の産卵ならびに寿命と交尾との関係. 25回応動昆大会講要: 137. [講要]
6. 在原登志男: 材線虫病被害丸太を製材したとき厚さがマツノマダラカミキリ幼虫とマツノザイセンチュウの密度低下におよぼす影響. 日林東北支誌 33: 192-194. [厚さ 3cm 以下に製材して乾燥させれば線虫は完全に死滅。]
7. 近岡一郎・藤原俊六郎・竹沢秀夫: 家畜糞のセンチュウ抑圧効果. 関東病虫研報 28: 140-141. [鶏糞は豚糞・牛糞よりネグサレ、ネコブセンチュウ抑制効果大。]
8. de Guiran, G.・Boulbria, A.: Importance and characters of Bursaphelenchus xylophilus attacked on Pinus pinaster in France. Proc. XVII IUFRO Congr., Dev. 2: 273. [講要]
9. Dropkin, V. H.・Foundin, A.・近藤栄造・Linit, M.・Smith, K.・Robbins, K.: Pinewood nematode: a threat to U.S. forest. Plant Dis. 65(12) 1022-1027. [アメリカにおけるマツノザイセンチュウ研究のまとめ及び日本との比較。]

10. Dropkin, V. H. · Foundin, A. · 近藤栄造 · Linit, M. · Smith, K. : Pine wilt associated with Bursaphelenchus xylophilus. Proc. XVII IUFRO Congr., Dev. 2: 265-268. [アメリカでの防除、接種試験結果。]
11. Dropkin, V. H. · Foundin, A. · 近藤栄造 · Linit, M. · Smith, K. : アメリカ合衆国における Bursaphelenchus xylophilus (Steiner & Buhner, 1934) Nickle, 1970 によるマツの材線虫病。第17回国際林業研究機関連合 (IUFRO) 世界大会論文集, 同組織委員会、京都、p. 246-248. [前報の日本語訳。]
12. 海老根翔六: マツノザイセンチュウによるオウシュウトウヒの被害, 森林防疫 30 (7) 117-119. [茨城県鉾田町で枯損木を確認。]
13. 海老根翔六: マツノザイセンチュウによるテーダマツ林の枯損動態 (I) 3年間の経時変化, 92回日林大会講要: 133; 92回日林論: 379-380. [90%以上の枯損のあった林分の原因は不明。]
14. 藤本吉幸 · 大庭喜八郎: The first year result of the breeding of Japanese pines for resistance to the wood nematode. Proc. XVII IUFRO Congr., Dev. 2: 287-290. [材線虫抵抗性マツ育種事業の概要等。]
15. 藤本吉幸 · 大庭喜八郎: マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業の1年目の結果, 第17回国際林業研究機関連合 (IUFRO) 世界大会論文集, 同組織委員会、京都、p. 258-260. [前報の日本語訳。]
16. 藤本吉幸 · 戸田忠雄 · 西村慶二 · 田島正啓: 産地別テーダマツのマツノザイセンチュウ抵抗性のちがい, 日林九支研論 34: 75-76. [8州11産地の実生で抵抗性に差。]
17. 藤本吉幸 · 戸田忠雄 · 西村慶二 · 田島正啓: 抵抗性候補木みしょう家系等のマツノザイセンチュウ抵抗性, 日林九支研論 34: 77-78. [アカマツ精英樹には抵抗性を示すものがあつたが、クロマツの精英樹はおおむね線虫感受性。]
18. 藤本吉幸 · 戸田忠雄 · 西村慶二 · 田島正啓: タイワンアカマツにおけるマツノザイセンチュウ抵抗性のクローン間差, 日林九支研論 34: 81-82. [明瞭な差。]
19. 藤本吉幸 · 戸田忠雄 · 田島正啓 · 大山浪雄 · 白石 進: 抵抗性育種からみたマツノザイセンチュウの加害性の変異, 92回日林大会講要: 94; 92回日林論: 293-294. [15系統の加害性, エステラーゼパターンに差。]
20. 福井俊男 · 小玉孝司 · 中西喜徳: 太陽熱とハウス密閉処理による土壌消毒法について IV, 露地型被覆処理による土壌伝染性病害虫に対する適用拡大, 奈良農試研報 12: 109-119. [ビニルまたはポリエチレンマルチによりキタネグサレ、サツマイモネコブセンチュウへの時間短縮処理の効果。]
21. 二井一禎: マツノザイセンチュウ及びニセマツノザイセンチュウの侵入率に及ぼす密度の影響, 25回応動昆大会講要: 138. [講要]
22. 後藤 昭: 連作障害と土壌線虫及び線虫関連病害, In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針, 農林水産技術会議事務局、p. 34-38. [線虫が連作障害発生の主因、部分要因及び誘因となる事例を概説。]
23. 後藤 昭: 土壌線虫の耕種的・生物的防除, 同上、p. 172-177. [事例を示して標題を解説。線虫の増殖度の高い作物、および低い作物について主要線虫別に表示。]
24. 後藤 昭: 各作物の連作障害と土壌線虫, 同上、p. 327-328. [線虫による連作障害症状、その発生条件、現在の対策技術・問題点の総説。]
25. 後藤 昭: 根菜類の連作障害と土壌線虫, 同上、p. 373-377. [ダイコン、ニンジン、ゴボウ、ショウガのネコブセンチュウ類、およびキタネグサレセンチュウによる被害、症状、発生条件、対策技術、今後の研究問題。]
26. 後藤 昭: 牧草・飼料作物の連作障害と土壌線虫, 同上、p. 381-384. [マメ科と

- イネ科の作物で、ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ、クローバシストセンチュウが問題。障害、症状、被害、対策、今後の研究問題に言及。]
27. 後藤 昭：サトウキビの連作障害と土壤線虫。同上、p. 384-386。[南西諸島で18属以上の寄生性線虫の記録。サツマイモネコブ、ジャワネコブセンチュウ、リュウキュウイシユク、ナミラセンセンチュウによる被害、症状がよく知られる。対策、今後の研究問題に言及。]
28. 後藤 昭：研究成果の概要：研究室の歩み：環境部虫害第2研究室。In: 農事試験場研究史。農事試験場、鴻巣、p. 172-178。[研究テーマ等の移り変わり。]
29. 後藤 昭：南の線虫、北の線虫。農業 28巻1: 44-47。[ネコブ、ネグサレセンチュウの地理的分布。]
30. 橋本平一：マツの材線虫病に罹病したクロマツ苗の生理反応の変化：とくに根系の機能について。日林九支研論 34: 187-188。[生きた根系を保っている内は水ストレスは起こりにくい。]
31. 橋本平一：マツの材線虫病の治療効果について。日林九支研論 34: 189-190。[メソミル剤施用効果。]
32. 橋本平一・高木潤治・佐々木重行：マツの材線虫病の治療効果について。92回日林大会講要: 132; 92回日林論: 373-375。[メソミル水和剤の土壤灌注、微粒剤の土壤混入で効果。]
33. 早坂義雄・尾花健喜智・勝又敏彦・志水勝彦：宮城県におけるマツ類材線虫病の分布について(第2報)。日林東北支誌 33: 146-150。[1975-80年の分布の拡大。]
34. 早坂義雄・尾花健喜智・滝沢幸雄・庄司次男：宮城県石巻におけるマツ材線虫病の枯損動態(I)自然感染木の病徴発現時期と穿孔虫の寄生状況。日林東北支誌 33: 166-168。[6-11月に全枯死木の60%、残りの39%は翌年に枯れた。マツノマダラカミキリ、クロキボシゾウムシを検出。]
35. 林 雅俊・和田弘次郎・宗像 桂：New nematocidal metabolites from a fungus, *Irpex lacteus*. Agr. Biol. Chem. 45(6) 1527-1529。[カビの生産する殺線虫物質の3成分を分離し、構造を決定。]
36. 細野隆次：線虫 *C. elegans* を用いた生物学の展開。科学 51(9) 570-576。[基礎生物学の実験材料としての上記線虫の紹介。生活史、遺伝子地図、初期発生、後胚発生、神経系の研究等を解説。]
37. 細野隆次・久野 滋・水上 稔：線虫 *C. elegans* の運動性に影響する *unc-52* 遺伝子。分子生物学会 4: 79。[未見。講要。]
38. 池田俊弥・宮崎 信・尾田勝夫・山根明臣・遠田暢男：The chemical biology of *Monochamus alternatus* on the relationship with pine wood nematodes and host trees. Proc. XVII IUFRO World Congr., Dev. 2, 297-303。[線虫のカミキリとの関係、カミキリの摂食刺激、寄主誘引。]
39. 池田俊弥・宮崎 信・尾田勝夫・山根明臣・遠田暢男：マツノザイセンチュウおよび寄生木との関係におけるマツノマダラカミキリの化学生態学。第17回国際林業研究機関連合(IUFRO)世界大会論文集。同組織委員会、京都、p. 264-267。[前報の日本語訳。]
40. 池上雍春：侵入害虫：その経緯と阻止の方策。農林水産研究ジャーナル 4巻9: 6-10。[線虫を含む侵入害虫の事例と対策。]
41. 今井 暹・渡辺健衛：殺線虫剤による蚕の中毒被害について。日蚕関東講要 32: 30。[講要]
42. 今井 暹・渡辺健衛：殺線虫剤による中毒蚕の組織化学的証明。日蚕関東講要 32:

31. [講要]
43. 稲垣春郎：ダイズ・アズキの連作障害と土壤線虫。In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針。農林水産技術会議事務局、p. 332-336。[北海道・東北地方で障害要因として問題の大きいダイズシストセンチュウによる障害、症状、密度と被害、線虫の発生生態、抵抗性品種、およびネコブセンチュウ・ネグサレセンチュウ類による被害の事例。今後の研究問題を論じた。]
44. 稲垣春郎：ラッカセイの連作障害と土壤線虫。同上、p. 336-338。[キタネコブセンチュウが障害の主要因。土壤病原菌との複合とみられる根系の褐変・腐敗症状を伴う。被害、防除効果、線虫の生態、障害発生条件、対策、今後の問題点に言及。]
45. 稲垣春郎：イチゴの連作障害と土壤線虫。同上、p. 366-369。[地上部寄生種ではイチゴ、イチゴメ、イネシガラレ、ハガレセンチュウ、地下部ではキタネグサレ、クルミネグサレセンチュウが重要。障害、症状、線虫の生態、対策、今後の研究問題等。]
46. 稲垣春郎：ハッカの連作障害と土壤線虫。同上、p. 392-394。[北海道でピンセンチュウ、キタネグサレセンチュウが寄生。前者の被害が重要。障害、症状、線虫の生態、障害の発生条件、対策、今後の研究問題を解説。関連病害も等閑視できない。]
47. 稲垣春郎：植物寄生性線虫のレースをめぐる諸問題：日本産ダイズシストセンチュウのレース。植物防疫 35(2) 53-56。[日米におけるレースの研究、日本産のレース調査結果(1、3、5(新))、今後の問題点。]
48. 稲垣春郎：ジャガイモシストセンチュウ：侵入経過と今後の問題点。農林水産研究ジャーナル 4巻9: 11-14。[クアノからのシストの発見、ペルー現地での調査。]
49. 稲垣春郎：Introductory reports of studies on *Meloidogyne* spp. in Japan. In: Proc. 3rd Res. Plan. Conf. Root-knot Nema., *Meloidogyne* spp., Region VI. p. 40-50。[サツマイモネコブ、ジャワネコブセンチュウのカンショ3品種に対する被害、26作物に対する寄生性。]
50. 稲垣春郎・百田洋二：サツマイモ3品種におけるサツマイモネコブセンチュウの被害。25回応動昆大会講要: 134。[講要]
51. 稲垣春郎・百田洋二：マリーゴールド「ゴールデン・ボーイ」根圏土壌におけるキタネグサレセンチュウ密度の消長。関東病虫研報 28: 137-138。[捕獲作用だけでなく、根圏内土壌の線虫密度低下作用も認める。]
52. 稲垣春郎・百田洋二・清水 啓：埼玉、茨城、群馬、千葉のダイズシストセンチュウのレース。関東病虫研報 28: 130。[すべてレース3と判定。]
53. 石橋信義：植物寄生性線虫。In: 応用動物学(草野忠治、芳賀良一・森 樊須・石橋信義 共著)。朝倉書店、東京、p. 171-223。[学生向け教科書。線虫の生物学(形態、種類と分布、孵化、発育、生存)、寄主・寄生物関係、被害、防除、各論。]
54. 石橋信義・伊藤整志：除草剤ベンチオカーブの水田動物相に及ぼす影響。九病虫研会報 27: 90-93。[線虫全種類数の減少、捕食性種の激減、植物寄生種と食菌性種の増加を認める。田面水中動物への影響も大。]
55. 石橋信義・迫間 肇・藤條純夫：ハスモヨトウに対する昆虫寄生性線虫 *Neoplectana carpocapsae* (DD-136) の施用効果。九病虫研会報 27: 124-126。[室内試験では幼虫の総てが死亡、圃場試験ではやや劣ったが、総合防除の一環として有望。]
56. 石橋信義・藤條純夫・迫間 肇・阿比留千代磨：昆虫寄生性線虫 *Neoplectana carpocapsae*, *Heterorhabditis bacteriophora* の導入と今後の問題。25回応動昆大会講要: 122。[講要]
57. 石井克明・栗延 晋・大庭喜八郎・古越隆信：マツ属 *Sylvestres* 亜節内種間雑種のマツノザイセンチュウに対する抵抗性。92回日林大会講要: 94; 92回日林論: 291-292。

- [雌親に用いるアカマツ、クロマツのクローン差も重要。]
58. 石川元一：イネシソグレンセンチュウによる黒点米の発生と防除。埼玉農試研報 37: 27-37. [多発地域における線虫調査、線虫と黒点米の関係、野外越冬調査、環境条件と籾内の線虫、防除（薬剤種子浸漬、出穂期の散布）。]
59. 石川元一：圃場におけるダイズシストセンチュウの分布。関東病虫研報 28: 131. [連作による密度、圃場内分布の変化。]
60. 城野 晋：輪作体系を異にするハウスメロンでのサツマイモネコブセンチュウの被害動態。関西病虫研報 23: 72. [レタスとの輪作が有利。]
61. 加藤保博：DBC Pの毒性に関する代謝的研究。農業誌 6(3) 387-395. [雄ラットにおける一般動態、組織残留物と高分子結合、高分子アルキル化と急性肝細胞壊死。]
62. 木村伸人・青木松男・中込暉雄・河瀬明夫・岡田詔男・田中宏一：モモノネコブセンチュウ抵抗性台木に関する試験（1）モモ台木の導入と抵抗性の検定。愛知農試研報 13: 243-250. [抵抗性台木の4系統を選抜。]
63. 木村靖夫・森 正明・玄 丞培 (Hyeon, S)・鈴木昭憲・三井 康：  
A rapid and simple method for assay of nematocidal activity and its application to measuring the activities of dicarboxylic esters. Agr. Biol. Chem. 45 (1) 249-251. [和紙の透過を利用した殺線虫活性試験法を提案。ジカルボン酸のジブチルエステルに顕著な殺線虫活性。]
64. 木村靖夫・森 正明・鈴木昭憲・小林彰夫：Isolation and identification of two nematocidal substances from roots of *Erigeron philadelphicus* L. and nematocidal activities of their related compounds. Arg. Biol. Chem. 45(12) 2915-2917 [ハルジオンの根のメタノール抽出物の殺線虫成分。2-trans, 8-cisおよび2-cis, 8-cis-matricaria esterと同定。関連化合物の活性も試験。]
65. 岸 洋一：茨城県におけるマツノザイセンチュウによるマツ枯損と防除に関する研究。茨城病虫研報 20: 1-5. [線虫の確認、実態調査、侵入地域の拡大、集団枯損、異常発生の原因、緊急防除事業。]
66. 木曾 皓：野菜の連作障害と土壌病害対策。技術と普及 18巻9: 70-78. [トマトの萎凋病に対するEDB剤の効果を含む。]
67. 鬼頭研二：Studies on the free-living marine nematodes from Hokkaido, VI. J. Fac. Sci., Hokkaido Univ., IV Zool. 22(3) 250-278. [北海道から次の海棲線虫を記載。*Rhabditis marina*, *Onchium minutum* (新種)、*Pseudoareolaimus ocellatus* (新種)、*Monhystera disjuncta*, *M. refringens*, *Paramonhystera*(*Leptogostrella*) *pellucida*, *Theristus* (T.) *acer*, *Monoposthia costata*, *Graphonema metuliferum* (新種)、*Dichromadora amphidiscoides*(新種)、*Neochromadora oshoroana*(新種)、*Paracanthochus kamuri* (新種)、*P. perspicuus*(新種)。]
68. 鬼頭研二：深海のヤシの実と底生動物。サイエンス 11巻9: 46-47. [フィリピン沖の深さ5,000mの海底から引き揚げたココヤシの実から検出された線虫にふれる。]
69. 清原友也：マツノザイセンチュウの性フェロモン：雌による雄の誘引と配偶行動。日林九支研論 34: 185-186. [セロハン膜を透過できる物質の存在を確認。]
70. 清原友也：マツノザイセンチュウの性フェロモンに関する研究：雌雄の相互誘引。92回日林大会講要：131. [講要]
71. 清原友也：マツノザイセンチュウ弱病原性線虫の前接種による強病原性線虫の加害性の抑制（予報）。92回日林大会講要：131；92回日林論：371-372. [誘導抵抗性に相当する現象を確認。]
72. 清原友也・白石 進・上中久子・鈴木和夫：マツノザイセンチュウの酵素多型。日

- 林九支研論 34: 183-184. [アイソザイムに違い。くわしくは今後の課題。]
73. 小林富士雄: 松枯れ対策の展望: マツノザイセンチュウの外来説をめぐって。森林文化研究 2(1) 49-53. [外来説、侵入病虫害の対応等、松枯れ制御の展望。]
74. 小林富士雄: Review on the pine mortality and its research in Japan. Proc. XVII IUFRO World Congr., Dev. 2, 261-263. [歴史、防除の概説。]
75. 小林富士雄: 日本におけるマツ枯れとその研究: 現状と展望。第17回国際林業研究機関連合(IUFRO)世界大会論文集。同組織委員会、京都、p. 244-245. [前報の日本語訳。]
76. 小林富士雄・片桐一正・山根明臣・真宮靖治・宮崎 信・藤森隆郎: 松が枯れてゆく: この異常事態への提言(松枯れ問題研究会編)。第1プランニングセンター、251 pp. [松枯損に関する知見を研究史、研究の現状、防除技術を含め、詳しく解説。線虫関係はNo.81-96を参照。]
77. 小玉孝司: 太陽熱利用による土壌病害の防除: 温室内の土壌消毒法として種々の利点。化学と生物 19(7) 436-437. [特徴と効果。]
78. 小玉孝司: 太陽熱利用による土壌消毒。実用化技術レポート(農林水産技術会議事務局) 93: 1-32. [サツマイモネコブ、キタネグサレセンチュウに対する効果を含む。]
79. 古賀成司・古閑孝彦: ネコブセンチュウの耕種的防除法に関する研究。熊本農試研報 7: 51-90. [灌水の時期・期間・方法(流水・滞水)、有機物施用との併用の効果、土壌酸化還元電位、微生物相、酸素濃度、病原菌等に与える影響、対抗植物・イネ科作物(トウモロコシ・ソルゴー・スーダングラス・ローズグラス他)・ラッカセイ等による線虫密度抑制効果。]
80. 古賀成司・古閑孝彦: トウモロコシに対するサツマイモネコブセンチュウの寄生性。九州農業研究 43: 103. [供試した39品種すべてが線虫を増殖させる好適寄主。]
81. 小久保 醇: 第15回森林動物シンポジウム“松枯れに関する最近の話題”。日林誌 63(9) 339-341. [次の講演要旨と討論結果を含む。真宮靖治: マツノザイセンチュウの寄生に対するマツの反応(付 アメリカにおけるマツノザイセンチュウの分布と被害の実態); 柏 司: マツノザイセンチュウの寄生によりマツ体内に生ずる毒性物質の生物検定法; 奥 八郎: マツノザイセンチュウおよびこれに伴伴するバクテリアの代謝産物とマツの枯損。]
82. 真宮靖治: アメリカとフランスにおけるマツノザイセンチュウ問題。森林防疫 30(4) 65-70. [アメリカにおけるマツの材線虫が検出されたマツの種類とその分布、フランスの現状。マツノザイセンチュウの学名を Bursaphelenchus xylophilus とする可能性を示唆 (No.81-108 を参照)。]
83. 真宮靖治: 第17回ユフロ大会から: マツノザイセンチュウとその媒介者。森林防疫 30(12) 214-216. [発表論文の内容の紹介。]
84. 真宮靖治: マツノザイセンチュウの起源をめぐって: アメリカ・フランスでの見聞から。林業技術 468: 7-10. [渡来説の紹介、アメリカ、フランスでの線虫分布と被害。]
85. 真宮靖治: 松枯れの謎を解く。In: 松が枯れてゆく: この異常事態への提言。第一プランニングセンター(山と溪谷社)、東京、p. 43-78. [マツノザイセンチュウの発見、病原性、伝播、松の発病と枯損の経過、線虫の生活環、マツノマダラカミキリとのかかわりあい、線虫の地理的分布、起源。]
86. 真宮靖治: Population increase of the pine wood nematode, Bursaphelenchus lignicolus, in relation to development of pine wilt. Proc. XVII IUFRO World Congr., Dev. 2, p. 275-280. [人工接種、自然感染の調査結果。]
87. 真宮靖治: マツ樹体内におけるマツノザイセンチュウ個体群の動態と発病の経過。



- 第17回国際林業研究機関連合 (IUFRO) 世界大会論文集: 252-254. [前報の日本語訳。]
88. 松原 功: マツノザイセンチュウ被害来の放置と除去によるマツ林の崩壊過程調査 (I). 33回日林関東支講要集: 167-168. [講要]
89. 松田 明: ゴボウ根部の黒変障害 (ヤケ) の対策. 今月の農薬 25巻13: 60-63. [主因 (病原菌)、対策。線虫に言及。]
90. 松下慶三郎・佐伯 聡・石川勝典: イモグサレセンチュウ *Ditylenchus destructor* Thorneによるジャガイモ・球根類の病徴. 植防研報 17: 97-99. [パレイシヨ、チューリップにおける被害。]
91. 松浦邦昭: Detectable amount of trunk injected nematicides and protective effects against pine wilt disease. Proc. XVII IUFRO Congr., Dev. 2: 593-596. [フェンスルフォチオン、シアナホス、モランテル、フェンスフォキシドの樹幹からの検出と施用効果。]
92. 松浦邦昭: 単木処理した浸透性殺線虫剤の樹体内検出薬量とマツノザイセンチュウ病に対する防除効果. 第17回国際林業研究機関連合 (IUFRO) 世界大会論文集, 同組織委員会、京都、p. 328-331. [前報の日本語訳。]
93. 松浦邦昭・深見悌一・室井克孝・牧 甫: 動物用駆虫剤モノンテルの有機酸塩類の樹幹注入によるマツノザイセンチュウ防除試験. 農薬学会6回大会講要: 149. [講要]
94. 皆川 望: サツマイモの連作障害と土壤線虫. In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針, 農林水産技術会議事務局, p.342-347. [関東地域ではサツマイモネコブセンチュウ、南九州では本種の他にミナミネグサレセンチュウが重要。障害、症状、線虫の生態、障害発生条件、対策、今後の問題点にふれる。]
95. 皆川 望: 九州産ネグサレセンチュウ2種について. 25回応動昆大会講要: 135. [講要]
96. 皆川 望: *Nothocriconema* from Mt. Aso, with descriptions of two new species (Tylenchida: Criconeematidae). 日線虫研誌 10: 16-26. [熊本県阿蘇外輪山の本木植物から分離した2新種を含む次の4種の雌雄成虫、各齢幼虫の形態を記載。N. palliatum, N. Bellatulum (以上新種)、N. longulum, N. jaejuense。現在はCriconeema属の再定義により (*Nothocriconema*属がCriconeema属のシノニムとなった)、この属に移されている (Raski, D.J. & Luc, M., Revue Nematol. 7(4) 323-334, 1984).]
97. 峰尾一彦: 各種マツ類に対するマツノザイセンチュウの接種試験. 32回日林関西支講: 228-230. [10種のマツを供試。テーダ、バンクス、ストローブマツは抵抗性。]
98. 三井 康: ジャガイモの連作障害と土壤線虫. In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針, 農林水産技術会議事務局, p.339-342. [重要種はジャガイモシスト (北海道)、キタネコブ、サツマイモネコブ (九州)、ミナミネグサレセンチュウ (同)。障害、症状、線虫の生態、障害の発生条件、対策、今後の問題点に言及。]
99. 三井 康・佐藤倫造: ネグサレセンチュウおよび糸状菌 *C. cassiicola* のダイズの生育に及ぼす影響. 25回応動昆大会講要: 134. [講要]
100. 三浦猛夫・川越 仁: 太陽熱利用によるハウス野菜の連作障害防止対策試験. 九病虫研会報 27: 32-34. [15日間の密閉でネコブセンチュウ、キュウリ蔓割病に効果。]
101. 百田洋二: 葉菜類の連作障害と土壤線虫. In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針, 農林水産技術会議事務局, p.369-373. [研究蓄積に乏しい。ハクサイ、キャベツ、レタス、ホウレンソウ、フキ等のネコブ、ネグサレセンチュウ類の事例があるのみ。寄生、被害、症状、対策、今後の研究問題にふれる。]
102. 百田洋二・稲垣春郎: ジャワネコブセンチュウに対するサツマイモの感受性. 関

- 東病虫研報 28: 132-133. [高系14号9系統はすべて感受性。]
103. Monteiro, A. R. · Lordello, L. G. E. · 中國和年: Xiphidurus parthenus n.sp. (Nemata: Longidoridae) from Brazil. Rev. Agr. Piracicaba, Brazil 56(1/2) 93-97. [サンパウロ州のサトウキビから上記新種を記載。]
104. 中國和年: ニセフクロセンチュウ (Rotylenchulus reniformis) 幼虫の發育に及ぼす保護液のpHおよび温度の影響: 両性生殖系統と単為生殖系統間の比較, 日線虫研誌 10: 1-7. [生殖型の異なる2系統6集団の幼虫期の發育速度のプロビット変換による比較。弱酸性~弱アルカリ性の影響はなく、高温の發育抑制に系統間差。]
105. 中里筆二 · 八木克祐 · 青柳直二郎: キタネグサレセンチュウによるゴボウの被害と麦作導入による線虫密度の変動, 関東病虫研報 28: 136. [導入により線虫密度増加。]
106. Nickle, W. R. : Research on the pine wood nematode in the United States. Proc. XVII IUFRO Congr., Dev. 2: 269-271. [分類、被害、媒介者。]
107. Nickle, W. R. : アメリカにおけるマツノザイセンチュウ研究, 第17回国際林業研究機関連合 (IUFRO) 世界大会論文集, 同組織委員会、京都、p. 249-252. [前報の日本語訳。]
108. Nickle, W. R. · Golden, A. M. · 眞宮靖治 · Wergin, W. P. : On the taxonomy and morphology of the pine wood nematode, Bursaphelenchus xylophilus (Steiner & Buhner, 1934) Nickle, 1970. J. Nematol. 13(3) 385-392. [後模式標本をもとに再記載。 Bursaphelenchus lignicolus (マツノザイセンチュウ) を上記種のシノニムとする。]
109. 西沢 務: 連作・輪作及び対抗植物導入等と有害線虫の発生変動, In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針, 農林水産技術会議事務局, p. 71-78. [シスト、ネコブ、ネグサレセンチュウに関する既往の事例、問題点の解説。]
110. 西沢 務: 花き類の連作障害と土壤線虫, 同上, p. 377-381. [クキ、ネコブ、ネグサレセンチュウ類が重要。他にウイルス媒介のユミハリ、オオハリセンチュウ等も等閑に付せられない。症状、対策、今後の研究問題を解説。]
111. 西沢 務: タバコの連作障害と土壤線虫, 同上, p. 394-396. [サツマイモネコブ、ジャワネコブ、キタネコブセンチュウの発生・被害が大きい。東北地方ではキタネグサレセンチュウの被害が問題化。障害、症状、対策、今後の研究問題に言及。]
112. 西沢 務: 植物寄生性線虫のレースをめぐる諸問題: 特にネコブセンチュウ類及びジャガイモシストセンチュウについて, 植物防疫 35(5) 176-181. [ネコブセンチュウ類のレース、ジャガイモシストセンチュウのパソタイプについての研究の歴史、日本の現状、問題点等を解説。]
113. 西沢 務: 野菜作りとセンチュウ対策, 農業技術研究 35(12) 30-33. [線虫の種類、被害、防除。]
114. 西沢 務: 昆虫飼育法: 線虫, In: 農薬実験法 I, 殺虫剤編, ソフトサイエンス社、東京, p. 51-53. [腐食性線虫、植物寄生性線虫の飼育、培養法。]
115. 西沢 務: 殺虫剤効力検定法: 線虫, 同上, p. 119-126. [供試線虫、供試薬剤、薬剤浸漬法、線虫土壌処理法、浸根・治療・浸漬効果試験法、無菌培養による検定法、圃場試験法、効力判定。]
116. 西沢 務: 輪作作物としてのトウモロコシの線虫学的評価, 25回応動昆虫大会講要: 136. [講要]
117. 西沢 務: Parasitism of three species of Meloidogyne to lettuce varieties, In: Proc. 3rd Res. Plan. Conf. Root-Knot Nema., Meloidogyne spp., Region VI, p. 51-54. [キタ、サツマイモ、ジャワネコブセンチュウのレタス40品種に対する

寄生性 (総て感受性)。]

- 1 1 8. 西沢 務: Preliminary experiment on varietal reaction of corn to three *Meloidogyne* species. In: Proc. 3rd Res. Plan. Conf. Root-Knot Nema., *Meloidogyne* spp., Region VI., p. 55-63. [供試した71品種のトウモロコシに対しキタネコブセンチュウは寄生なし、ジャワネコブ、サツマイモネコブセンチュウは全品種に寄生。]
- 1 1 9. 小河誠司・竹下敬司: マツの材線虫病によるマツ林の枯損分布の地理的パターンと気象因子との関係。92回日林大会講要: 134; 92回日林論: 383-384. [年変化大。]
- 1 2 0. 小河誠司・高木潤治・佐々木重行: マツノザイセンチュウに関する研究(7)メソミル剤の樹体内濃度と材線虫の増殖。日林九支研論 34: 181-182. [水の通導がみとめられる期間内に3 ppm 程度の薬剤を樹体全体に移動させれば治療可能。]
- 1 2 1. 小川義雄・大島康臣: 長崎産 *Globodera* 属の新種線虫。25回応動昆大会講要: 139. [講要]
- 1 2 2. 岡田利承・金子 武・大泰司 誠: 茶園の土壌断面における植物寄生性センチュウ類の分布。茶業技術研究 60: 17-26. [カナヤサヤワ・ピン・チャラセン・チャネグサレセンチュウ・その他の水平・垂直防除。]
- 1 2 3. 岡本好一: コンニャクの連作障害と土壌線虫。In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針。農林水産技術会議事務局, p.388-392. [ミナミネグサレ、ジャワネコブセンチュウの被害が大。その他のネコブ、ネグサレも寄生。障害、症状、線虫の生態、発生条件、対策、今後の研究問題を概説。]
- 1 2 4. 岡本好一・八重樫隆志: ネコブセンチュウ6種の走査電子顕微鏡観察 I。第2期幼虫の正面像。日線虫研誌 10: 35-42. [サツマイモネコブ、キタネコブ、ジャワネコブ、アレナリアネコブ、リンゴネコブ、ツバキネコブセンチュウの第2期幼虫正面像を観察。明瞭な種間差を認める。続報(雄成虫)はNo. 81-186。]
- 1 2 5. 岡本好一・八重樫隆志: リンゴネコブセンチュウの形態について。25回応動昆大会講要: 135. [講要]
- 1 2 6. 岡本好一・前田正孝: 感受性及び抵抗性トマト品種に対する2種のネコブセンチュウの侵入と発育に及ぼす温度の影響。関東病虫研報 28: 134-135. [サツマイモネコブ、ジャワネコブセンチュウともに高温時に抵抗性トマトでよく発育。]
- 1 2 7. 奥 八郎・大内成志・白石友紀・黒住繁久・太田 宏・上田隆之: 激害型枯損マツに見出さる萎凋毒素の生成機構。日植病報 47(3) 382-383. [講要]
- 1 2 8. 奥 八郎・白石友紀・大内成志: Possible participation of toxins in pine wilting disease. Proc. XVII IUFRO World Congr., Dev. 2, 281-285. [マツノザイセンチュウに随伴するバクテリアの産生毒素について。]
- 1 2 9. 奥 八郎・白石友紀・大内成志・上田隆之・富田和夫: マツ類材線虫病に関与することが予想される毒素。第17回国際林業研究機関連合(IUFRO)世界大会論文集。同組織委員会、京都、p. 255-257. [前報の日本語訳。]
- 1 3 0. 大羽克明: 線虫の生化学。In: 農業実験法 I。殺虫剤編。ソフトサイエンス社、東京、p.412-420. [線虫の大量培養法、無菌化、同調培養、ステージ別採集法、カルス培養線虫の無菌的分離法。]
- 1 3 1. 大羽克明: *Caenorhabditis elegans*におけるdauer larvaeへの移行要因。25回応動昆大会講要: 140. [講要]
- 1 3 2. 大羽克明・石橋信義: Effects of procaine on the development, longevity and fecundity of *Caenorhabditis elegans*. Nematologica 27(3) 274-284. [procaine-HCl 20mg/ml を含む培養液中では線虫は発育停止し、耐久型幼虫に移行。上記物質を含まない液に移すと発育再開するが、増殖は顕著に低下、乾燥に弱くなる。]

133. 大林延夫・小林紀彦・駒田 旦：マリーゴールドの殺線虫成分 $\alpha$ -terthienyl がフザリウム菌の孢子発芽および菌糸の生育におよぼす影響。日植病報 47(3) 369. [講要]
134. 大川 清・三枝敏郎：Resistance of rose rootstocks to Meloidogyne hapla, Pratylenchus penetrans, and Pratylenchus vulnus. Hort Science 16(4) 559-560. [8種の台木の接種試験。線虫に対する反応はバラ・線虫の種類で大きく異なった。]
135. 大西保行・大木与志雄・藤田潤吉：有機リン酸が培養土壌線虫 (Rhabditis sp.) ならびにそのエステラーゼ活性に及ぼす影響。日獣医畜大研報 30: 49-55. [IBP剤。線虫の継代株により感受性に差。IBPの選抜淘汰によってエステラーゼ (Ali-ES) 活性値上昇。]
136. 大島康臣：サトイモの連作障害と土壌線虫。In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針。農林水産技術会議事務局、p.347-350. [忌地は17世紀から知られる。主因はミナミネグサレセンチュウ。障害、症状、線虫の生態、発生条件、対策、今後の問題点に言及。]
137. 大島康臣・百田洋二・清水 啓：Heterodera glycines Ichinohe, 1952の記載補遺。日線虫研誌 10: 52-53. [模式産地からの材料により、特に第2期幼虫、雄の交刺、シストの陰門錐の形態を記載。]
138. 太田 明：マツの材線虫病によるマツの部分枯れの人為形成。32回日林関西支講：235-237. [線虫接種後のチオナジンの樹皮面施用、樹幹注入による。]
139. 大山浪雄・白石 進：マツノザイセンチュウに対するアイノコマツの抵抗性。日林誌 63(4) 137-140. [アカマツ、クロマツの自然雑種に線虫接種。]
140. 大山浪雄・白石 進・藤本吉幸・戸田忠雄・森本 桂・近藤栄造：茨城県産マツノザイセンチュウの加害性と基肥別養成苗木の感受性。日林九支研論 34: 83-84. [茨城県産は九州産より強い加害性の傾向。]
141. 小沢孝弘：長野県南部地域の松の材線虫病に関する調査結果について。29回日林中部支講：157-158. [アカマツ枯損木から検出した線虫はマツノザイセンチュウでなかった。]
142. 佐保春芳：被害丸太のザイセンチュウを駆除する試案 (II) 処理後の丸太から脱出するマダラカミキリの保線虫数。92回日林大会講要：132; 92回日林論：377-378. [イクリンテックスを処理すると材・カミキリからの線虫検出皆無となる。]
143. 坂口 進：病虫害抵抗性育種と国際研究協力。ポテトサイエンス 1: 8-12. [未見]
144. 佐野善一：ヤマトイモ等の連作障害と土壌線虫。In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針。農林水産技術会議事務局、p. 350-355. [ナガイモユミハリセンチュウ、ネコブセンチュウ類をとりあげる。特に前者による黒変障害が特異的。症状、線虫の生態、発生条件、今後の問題点を指摘。]
145. 佐野善一：サツマイモネコブセンチュウ幼虫の活動力低下と地温の関係。25回応動昆大会講要：133. [講要]
146. 佐々木 浩：樹幹注入等によるマツノザイセンチュウ防除試験 (第2報)。徳島林総技七研報 19: 73-78. [7751液剤、サイアノックス、ネモホス、テラキュアPの樹幹注入。ダイシストン、ランネートの土壌施用。]
147. 佐々木重行・小河誠司：マツ苗における材線虫の密度と水分状態。日林九支研論 34: 179-180. [接種23日後の分離線虫数が 100頭/g(苗木生重) 以上では通導抵抗は増大傾向。]
148. 佐藤平典・作山 健：マツ材線虫病の新発生地域における集団枯損の特徴。92回日林大会講要：133; 92回日林論：381-382. [マツカレハ被害による衰弱との相乗効果と推定。]

149. 志賀敏夫・竹股知久: Distribution of sweet potato clones with resistance to root-knot nematodes in the Pacific islands. In: Proc. 3rd Res. Plan. Conf. Root-knot Nema., *Meloidogyne* spp., Region VI. p. 64-68. [アジア、南太平洋諸島、南北アメリカ、カリブ諸島から集めた 408クローンの内67がサツマイモネコブセンチュウに対し高度抵抗性、66が抵抗性。]
150. 志賀敏夫・竹股知久: Breeding for resistance to root-knot nematode of sweet potatoes in Japan. In: Proc. 3rd Res. Plan. Conf. Root-Knot Nema., *Meloidogyne* spp., Region VI. p. 201-213. [育種体制、育種目標、スクリーニング法・同結果。]
151. 清水 啓: 陸稲・畑水稻の連作障害と土壌線虫. In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針, 農林水産技術会議事務局, p.329-332. [イネシストセンチュウの発生加害が主因。症状、発生条件、線虫の生活史、垂直分布、密度と被害、対策技術、今後の研究問題について総説。特に堆肥による線虫害の軽減は困難。]
152. 清水 啓: 十勝地方におけるダイズシストセンチュウレースの分布. 今月の農業 25巻12: 39-42. [レース1が多く、レース3が次。]
153. 清水 啓・井上 寿・砂田喜与志・本間健平・三井 康: 十勝地方におけるダイズシストセンチュウのレース. 北日本病虫研報 32: 67-68. [レース1、3が分布。レース3の中に特異な反応を示す個体群がある。]
154. 新須利則・坂口荘一・小川義雄・坂本敏嗣: イチゴの根腐萎ちょう症に関する研究. 長崎総農試研報(農業部門) 9: 69-94. [*Cylindrocarpon*菌とクルミネグサレセンチュウが原因。輪作、客土、湛水、ハウス密閉、薬剤(クロルピクリン、ネマクロペン、EDB剤)によって発病減少。]
155. 庄司次男: 材線虫病被害丸太の殺線虫剤による駆除. 日林東北支誌 33: 184-188. [NCSが最適、クロルピクリンが次。]
156. 周藤靖雄: 薬剤の樹幹注入および土壌処理によるマツ材線虫病防除試験. 島根林試研報 31: 55-62. [ベノミル、チオファネートメチル、メソミル、エチルチオメトンの土壌処理。フェンスルホチオン、チオナジンの樹幹注入。]
157. 杉浦哲也・上住 泰: 作物害虫の物理的防除法. 今月の農業 25巻7: 68-71. [イモグサレ、イネシソグサレセンチュウの高周波処理にふれる。前者では不成功。]
158. 砂田喜与志・酒井真次・後藤寛治・三分一 敬・土屋武彦・紙谷元一: だいち新品種「スズヒメ」の育成について. 北海道立農試集報 45: 89-100. [育種目標と育成の経過、特性。ダイズシストセンチュウに強度抵抗性。]
159. 鈴木和夫: 材線虫接種後のマツ主幹の成長量と仮導管増加数. 32回日林関西支講: 231-324. [成長量は線虫以外の要因による影響が大きい。]
160. 多田幹郎・大水章正・白石正英: マツノザイセンチュウから単離したバクテリアの生育と毒素生産に及ぼすリン酸塩の影響. 岡山大農学報 57: 35-40. [高濃度のリン酸塩培地でマツ水抽出物を添加すると毒素生産。]
161. 高木哲夫・大山浪雄: マツノザイセンチュウ接種木の蒸散流速の変化について. 日林九支研論 34: 117-118. [抵抗性の木は速度の低下が遅い傾向。]
162. 高橋兼一・橋本光司: 太陽熱利用の土壌消毒: 土壌センチュウ対策. 今月の農業 25巻8: 28-31. [ネコブセンチュウの死滅温度、稲藁・石灰窒素添加効果。効果は安定。]
163. 高橋兼一・橋本光司・渋谷三郎: ビニルハウスでの太陽熱利用によるサツマイモネコブセンチュウの防除. 関東病虫研報 28: 139. [やや低温条件下でも実用的効果。]
164. 高倉重義・山田英一: ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 土壌深度別の線虫密度変動. 北日本病虫研報 32: 54-56. [感受性品種栽培区では地表から20cmの層

- に多く、抵抗性品種区では地表から30cmの内で植付け時の30%に減少。]
165. 高倉重義・山田英一・上野賢司・高宮泰宏・今 友親：ジャガイモシストセンチュウに関する研究：各種防除手段組合せ効果の検討。25回応動昆大会講要：133。[講要]
166. 高宮泰宏・上野賢司・山田英一・高倉重義・今 友親：ジャガイモシストセンチュウに関する研究：輪作年限と線虫密度及びパレイシヨの収量について。25回応動昆大会講要：132。[講要]
167. 高野 勲・宮崎 信・香山 彊：マツノザイセンチュウによるアカマツ枯損材のバルブ化試験。林試研報 315：113-124。[小径材では枯死カ6月経過した材と健全木でバルブ収率・バルブの強度特性に有意差なし。1年経過材では低下。大径木は1年でも劣化少ない。]
168. 高野利達・萩原 潤・湯原 巖：ベントグラスセンチュウ *Anguina agrostis* の温度処理による殺線虫効果。25回応動昆大会講要：139。[講要]
169. 高瀬 巖・小山寛史・下松明雄・藤下章男：浸透性薬剤によるマツノザイセンチュウ防除に関する研究：マツ樹体内での薬剤の吸収。農業学会6回大会講要：311。[講要]
170. 武田丈夫：和歌山県におけるマツの枯損とマツノザイセンチュウの分布。森林防疫 30(2) 26-30。[薬剤散布地と無散布地のマツ枯損率、線虫の県内分布、年次別・地域別・標高別の線虫検出状況。]
171. 滝沢幸雄・庄司次男：マツ材線虫病被害木の製材によるマツノマダラカミキリの死亡数およびその乾燥条件とマツノザイセンチュウの消長。日林東北支誌 33:169-171。[ガラス室内に放置することにより線虫密度低下。]
172. 田村弘忠：マツノザイセンチュウの付随菌の毒素。92回日林大会講要：130。[講要]
173. 田村弘忠：マツノザイセンチュウの芽出し苗に対する侵入。92回日林大会講要：130。[講要]
174. 田中 潔：マツの材線虫病の英語名。森林防疫 30(10) 177-180。[Pine wilt が最良とする (disease は不要)。]
175. 単木処理担当班 (まとめ：真柄 稔)：大型プロジェクト研究「松の枯損防止新技術に関する総合研究」：薬剤による単木処理試験中間報告。森林防疫 30(8)135-140。[バイジット、サイアノックス、テラキュアP、7751、ネマホスの樹幹注入試験結果。]
176. 寺下隆喜代：Experimental crossing between *Bursaphelenchus lignicolus* and *Bursaphelenchus mucronatus*. Mem. Fac. Agr., Kagoshima Univ.17(26)106-116。[マツノザイセンチュウとニセマツノザイセンチュウの交雑実験。前者の雌と後者の雄の組合せでF<sub>1</sub>がよくできた。形態は前者に似る。逆の組合せ及び戻し交配はかなり困難。]
177. 戸田忠雄：交雑マツにおけるマツノザイセンチュウ抵抗性。日林九支研論 34：79-80。[雄親にタイワンアカマツ、フクシュウマツ、精英樹のグループで平均生存率が高い。]
178. 樋田幸夫：数種線虫の桑園土壤中における分布。25回応動昆大会講要：136。[講要]
179. 樋田幸夫・百田洋二：Criconematidae from mulberry fields in Japan. 日線虫研誌 10: 27-34。[桑園から次の7種のマツノザイセンチュウを記載。*Macroposthonia sphaerocephala*, *M. xenoplax*, *Neolobocriconema serratum*, *Nothocriconema mutabile*, *Crossonema multisquamatum*, *Variasquamata gracile*, *V. querci*。]
180. 富永康平・須賀原亮三・長瀬 淳・桑原保正：マツノザイセンチュウに対するオ

- レイン基化合物の誘引定着活性, 25回応動昆大会講要: 70. [講要]
181. 戸崎正弘: 温室・ハウスの土壌改良と土壌センチュウの防除, 農業富民 53巻1: 97-99. [夏季ハウス密閉の効果。]
182. 土屋大二: 東京都におけるマツ材線虫病の分布と防除について, 森林防疫 30(6) 98-101. [島嶼部を含む分布, 被害状況, 防除。]
183. 堤 正明: テンサイの連作障害と土壌線虫, In: 地力維持・連作障害克服のための畑地管理技術指針, 農林水産技術会議事務局, p.386-388. [北海道ではキタネコブセンチュウが重要。障害、症状、線虫の生態、障害の発生条件、対策、今後の研究問題。]
184. 上野賢司・山田英一・高倉重義・高宮泰宏・今 友親: ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 抵抗性品種「ツニカ」の栽培法と線虫密度, 25回応動昆大会講要: 132. [講要]
185. Ventura, W.・渡辺 巖・Castillo, B. M.・De la Cruz, A. : Involvement of nematodes in the soil sickness of a dryland rice-based cropping system, Soil Sci. Plant NUTR. 27(3) 305-315. [陸稲を主体とした熱帯の作付体系と線虫。シカクマメを入れることによりニセフクロセンチュウが増加。殺線虫剤処理で生育良好となる。]
186. 八重樫隆志・岡本好一: ネコブセンチュウ6種の走査電子顕微鏡観察 2. 雄成虫の正面像, 日線虫研誌 10: 43-51. [サツマイモネコブ、キタネコブ、ジャワネコブ、アレナリアネコブ、リングネコブ、ツバキネコブセンチュウの雄成虫の正面像は種間差明瞭で、同定に有用。第1報(第2期幼虫)はNo. 81-124。]
187. 山田英一: 花ユリに寄生するイチゴセンチュウの生態と防除, 今月の農業 25巻10: 22-24. 口絵. [葉枯れの発生、線虫の形態、分布、被害、寄生方法、症状、発生消長、防除(メソミル、DEP浸漬)。]
188. 山田英一: 花ユリに寄生するイチゴセンチュウの生態と防除, 25回応動昆大会講要: 137. [講要]
189. 山田英一・高倉重義: ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 捕獲植物の利用の試み, 北日本病虫研報 32: 57-66. [抵抗性ジャガイモ、イヌホウズキによって線虫密度低下。]
190. 山口省吾: 田畑輪換によるツツジ苗の生産安定, 今月の農業 25巻10: 36-40. [イシユク、ユミハリセンチュウ等を高頻度で検出。田畑輪換によるナミイシユクセンチュウへの影響、サツキの生育等。]
191. 山崎和雄・岡部 誠・相原孝雄・湯原 巖: ツツジ類の連作障害対策試験(第1報) 県内ツツジ園におけるナミイシユクセンチュウの寄生状況およびその防除について, 神奈川園研報 28: 73-83. [県内に広く分布。クロルピクリンは効果あり。DCIP剤は効果なし。鶏糞施用は殺線虫効果あり。]
192. 吉田雅夫: モモのネコブセンチュウ抵抗性台木の育成 第1報 モモ及びスモモ類のネコブセンチュウ抵抗性, 果樹試報 A 8: 13-30, 1 pl. [サツマイモネコブセンチュウ抵抗性はモモの「おはつもの」、「Nemaguard」。ニホンスモモは感受性、アンズは抵抗性、ウメは免疫性。]
193. 吉田雅夫: モモのネコブセンチュウ抵抗性台木の育成 第3報 モモ在来種の系統選抜, 果樹試報 A 8: 45-55. [長野県大鹿村のものを元に4系統を選ぶ。]
194. 吉田雅夫・清家金嗣: モモのネコブセンチュウ抵抗性台木の育成 第2報 交雑による抵抗性台木の育種, 果樹試報 A 8: 31-41, 1 pl. [抵抗性は優性遺伝、抵抗性台木の数系統を得る。]
195. 葭原敏夫: ウリ科野菜の連作障害と土壌線虫, In: 地力維持・連作障害克服のた

- めの畑地管理技術指針、農林水産技術会議事務局、p.355-360。[ネコブセンチュウ類の加害が障害の要因。関連病害も重要。障害、症状、線虫の生態、対策、問題点等。]
196. 葭原敏夫：ナス科野菜の連作障害と土壤線虫。同上、p.360-366。[ウリ科野菜に準ずる (No.81-196)。サツマイモネコブセンチュウ抵抗性品種の一覧表を掲げる。]
197. 葭原敏夫：ジャワネコブセンチュウのキュウリの数品種に対する寄生性。九病虫研会報 27: 96-98。[13品種のうち、2品種に若干の抵抗性。]
198. 吉井太門・鈴木栄太郎：クワおよびキボシカミキリ成虫から分離される線虫の培養とクワへの接種。25回応動昆大会講要: 138。[講要]
199. 吉武貞敏：イチゴ根腐萎凋病に対する陽熱消毒法。今月の農業 25巻8: 23-27, 口絵。[クルミネグサレセンチュウ密度も低下。]
200. 結田康一・渋谷政夫・福川利玄・鈴木喜代志：露地栽培畑作物および土壌の二臭化エチレン農業による臭素残留。土肥誌 52(3) 260-262。[2~3年土壌中に残留。]
201. 結田康一・渋谷政夫・福川利玄・鈴木喜代志：臭化メチルくん蒸ハウス跡の水稲および土壌の臭素残留。土肥誌 52(4) 362-364。[水稲茎葉にも相当濃度吸収される。]

### 昭和57年 (1982)

- 阿部恭洋・松崎正文・石橋信義：佐賀県におけるイチゴ根腐萎ちょう症の発生実態と防除に関する調査研究。佐賀農試研報 22: 4-37。[クルミネグサレセンチュウが主な発生原因。D-D、EDB、クロルピクリン、テロンII、デイトラベックスで防除可能。]
- 相原孝雄：ツバキから検出した *Sphaeronema* 属線虫の1種について。26回応動昆大会講要: 155。[講要]
- 坪 存：普通作物導入による連作障害回避技術：すいか、はくさい体系を中心として。実用化技術レポート 98: 23 pp。[ネコブ・ネグサレセンチュウに対する効果を含む。]
- 青木松信・榊原正義・上林 譲・山口久夫・長縄光延：転換畑におけるイチジク樹の生育・果実品質と地下水位及び土壌環境の関係。愛知農総試報 14: 239-248。[ほとんどの園でネコブ、ラセン、ネグサレセンチュウを検出。ネコブセンチュウが多いと枝の伸長がにぶり、果実糖度は上昇。]
- 荒城雅昭・中園和年・佐野善一：ネコブセンチュウ汚染圃場におけるサツマイモ塊根異常症の発生経過。九病虫研会報 28: 223-234。[講要]
- 有沢道雄・加藤俊博：土壤消毒後の土壤養分の動態に関する研究(第1報) 土壤消毒方法が土壤養分並びにトマトの生育収量に及ぼす影響。愛知農総試研報 14: 154-161。[クロルピクリン、臭化メチル、D-D、蒸気消毒の比較。小果が多く商品果減収。窒素、磷酸、カリ、マンガン、亜鉛の吸収増加、マグネシウムは減少。]
- 近岡一郎・大林延夫・推名清治：緑肥作物等の夏作への導入とキタネグサレセンチュウおよびサツマイモネコブセンチュウの発生動向。日線虫研誌 11: 19-23。[アスバラガス、マリーゴールド、ラッカセイの栽培でキタネグサレ、サツマイモネコブセンチュウの密度は低下、ソルゴーは両線虫に対し抑制効果なし。後作での密度復元に作物間差。]
- 近岡一郎・竹澤秀夫：ネコブセンチュウ薬剤感受性の低下事例。関東病虫研報 29: 168。[神奈川県藤沢市産。D-D、EDB剤の感受性半分程度に低下。]
- 近岡一郎・宇田川 晃・藤原俊六郎・竹沢秀夫・村越重雄・相原次郎：夏季ハウス密閉によるイチゴ萎黄病、ネグサレセンチュウの防除。In: 太陽熱利用による土壤消毒に関する実証的研究。関東東山東海地域技術連絡会議・農林水産省農業技術センター、p. 75-78。[稲藁、石灰窒素との併用効果。クルミネグサレセンチュウは処理後検出なし。]



10. 遠田暢男・楳原 寛：マツノマダラカミキリの触角から保線虫数を推定する方法。34回日林関東支論：145-146。〔講要〕
11. 藤下章男・高瀬 巖：マツクイムシ単木処理法による現地適用試験。93回日林論：405-406。〔ダイシストン、テラキュアPの効果が高い。7751剤より高い。〕
12. 深見悌一：林業薬剤の現状と研究動向。今月の農薬 26巻6：28-35。〔土壌線虫及びマツ枯れに対する薬剤の適用と試験状況。〕
13. 福留信明：土壌中の有害線虫の生息密度におよぼす飼料作物の影響。葉たばこ研究 88：8-12。〔ソルゴー、スダングラスの栽培の効果。品種を比較。〕
14. 福留信明・上釜耕二：ジャワネコブセンチュウに対するタバコの抵抗性 II。抵抗性の発現に及ぼす土壌温度の影響。日線虫研誌 11：13-18。〔抵抗性品種は侵入抑制と過敏反応による発育抑制作用をもち、これは土壌温度が30°Cで弱まり、35°Cで失活。〕
15. 古野東洲：外国産マツ属の虫害に関する研究 第7報 マツノザイセンチュウにより枯死したマツ属について。京大演習林報 54：16-30。〔30種のマツを供試。高度抵抗性は *Pinus taiwanensis*, *P. elliottii*, *P. rigida*, *P. taeda*, *P. palustris*。〕
16. 古野東洲・二井一禎：マツノザイセンチュウ接種クロマツの生育、特に生存木の生育について。93回日林大会講要：131；93回日林論：409-410。〔翌年の伸長に影響。〕
17. 古野東洲・二井一禎：クロマツほか数種マツ属のマツノザイセンチュウ接種後の生育：接種翌年の生存木の樹高生長について。33回日林関西支論：247-250。〔7種のマツで比較。〕
18. 二井一禎：マツノザイセンチュウ接種に対する寄主反応物質。26回応動昆虫大会講要：156。〔講要〕
19. 後藤 昭：牧草・飼料作物の連作障害とその対策。畜産コンサルタント 206：60-62。〔ネコブ、ネグサレセンチュウ害を含む。〕
20. 後藤 昭：ハウス土壌の線虫防除の決め手。農業富民 54巻7：58-60。〔夏季ハウス密閉、灌水、輪作、薬剤等の効果。〕
21. 後藤 昭：作付体系と線虫。農林水産研究文献解題 No.9 作付方式・作付体系編、p. 203-219。〔文献のまとめ及びリスト（文献数 137）。他の項にも線虫関連文献収録。〕
22. 後藤 昭・大林延夫・平石雅之・稲垣春郎・百田洋二：神奈川県三浦市におけるダイコンの線虫害等品質障害の発生実態。関東病虫研報 29：178-179。〔土壌30g当たり3頭以上の検出の場合被害指数高い。〕
23. 萩谷俊一・岡本好一・石井良助：ラッカセイ畑でのキタネコブセンチュウにおける *Bacillus* sp. の寄生推移および2、3土壌くん蒸剤の影響。日線虫研誌 11：44-45。〔クロルピクリン、D-D、EDB剤処理で寄生率に影響なし。寄生率は処理区で33~61%、無処理区は45~75%で推移。〕
24. 萩谷俊一・篠原茂幸・白崎隆夫：ニンジン栽培畑におけるキタネグサレセンチュウの発生活長とマリーゴールドの導入効果。千葉農試研報 23：21-29。〔ニンジンの生育経過、線虫の増殖と性比、接種時と収穫時の密度の関係、マリーゴールド導入効果（EDB剤30g/10aと同程度の効果）。〕
25. 原 忠彦・草刈真一・阿部一博・山田貴義・百田洋二：ハウスナスの連作障害に関する研究（第1報）連作障害の発生状況と発生要因について。園芸学会昭57春研究要旨：190-191。〔講要〕
26. 原田敏男：臭化メチルによる土壌消毒被覆資材の使い方と効果への影響。今月の農薬 26巻11：44-48。〔殺線虫効果大きい。〕
27. 原田敏男・中沢 斉・斎藤栄成：臭化メチル剤の土壌消毒における被覆材の使い方と効果。関東病虫研報 29：185-187。〔耕起、トンネル被覆、缶を暖めてから開缶施用〕

- は、それらを行わない場合に比べ、地表から深い部分まで高い効果。]
28. 橋本平一：マツの材線虫病の治療木についての考察。日林九支研論 35: 159-160。  
[メソミル剤処理木の組織の変化。]
29. 早坂義雄・尾花健喜智・志水勝彦：宮城県石巻におけるマツ材線虫病によるマツ枯損動態 II。大門崎における枯損経過。日林東北支誌 34: 128-130。[年次別の異常発生時期。]
30. 細野隆次・Hirahara, K.・久野 滋・Kurihara, T.: Mutants of Caenorhabditis elegans with dumpy and rounded head phenotype. J. exper. Zool. 22(2) 135-144。  
[未見]
31. 細野隆次・久野 滋：線虫 C. elegans の温感受性マヒ突然変異体。分子生物学会 5: 103。[未見。講要。]
32. 細野隆次・Mitsui, Y.・Sato, Y.・Aizawa, T.・三輪錠司：Life span of the wild and mutant nematode, Caenorhabditis elegans: Effects of sex, sterilization, and temperature. Exper. Gerontol. 17(2) 163-172。[未見]
33. 一戸 稔：十勝地方とシストセンチュウ。石灰窒素だより 116: 6-7。[線虫被害のカラー写真および解説。]
34. 井手義人・田湖尚一・坂本 敏：サツマイモネコブセンチュウに対するカンショ及び野生種の抵抗性。九病虫研会報 18: 181-182。[接種10日後、幼虫の侵入数は抵抗性中・弱で強よりも多い傾向。21日後、侵入虫の発育に差異。51日後の卵嚢産生数に品種間差を認める。]
35. 稲垣春郎：センチュウの被害を減らすには：考え方と対策。現代農業 61巻1: 236-239。[一般向け読み物。]
36. 稲垣春郎・清水 啓・百田洋二：北海道、青森、新潟、栃木、島根のダイズシストセンチュウのレース。関東病虫研報 29: 170。[島根と北海道の1個体群はレース1、他はレース3。]
37. 井上忠彦・林 栄一：フェニールアゾフェノール系化合物の殺線虫および殺ミミズ作用。日線虫研誌 11: 38-42。[ベンゼン核のp位にメチル基、ニトロ基、ハロゲンなどを導入、動物寄生線虫、Panagrellus redevivus、ミミズ類に対する殺虫効果を試験。いくつかの化合物に特異的効果を認める。]
38. 石橋信義：殺線虫剤処理土壌の侵入害虫ならびに線虫に対する抵抗性。九病虫研会報 28: 183-186。[燻蒸剤による防除は土壌中の生物相を単純化し、害虫や線虫の密度回復を早める。昆虫寄生性線虫によるカブラヤガの防除効果大。]
39. 石橋信義・棟尾 潔：昆虫寄生性線虫 Neoplectana carpocapsae (DD-136) と Heterorhabditis bacteriophora の土壌中生存力と感染力。26回応動昆虫大会講要: 161。  
[講要]
40. 石井直明・鈴木擘之：環境因子検定系としての線虫（ネマトーグ）。生態化学 5(3) 11-19。[Caenorhabditis elegans, Rhabditis tokai を材料にした形態、生活環、飼育法、研究対象としての線虫（老化、放射線、環境毒性）。]
41. 石川昌哉・首藤義博・渡辺博泰：マツ属の皮部成分のザイセンチュウ誘引性と抵抗性との関係。日農薬学会7回大会講要：[未見。講要。]
42. 石川元一：耕うんによるトラクタ付着土壌とダイズシストセンチュウ密度。関東病虫研報 29: 171。[圃場よりやや低い程度の密度。]
43. 伊藤一雄：マツの枯損原因材線虫の発見。In: 森林病虫獣害防除技術。森林病虫獣害防除協会、東京、p. 175-182。[松くい虫の加害性に対する疑義、ツチクラゲ、材線虫の発見。]

44. 伊藤一雄：マツ枯損の現状と防除対策。農薬研究 28巻4: 43-48. [被害状況、枯損防止法(駆除薬剤散布、予防薬剤散布、ガン・ノズル・スプレー・システム、薬剤樹幹注入、薬剤土壌施用)、総合被害対策。]
45. 岩下嘉光・福田貞司：蚕に寄生したスキムシノシヘンチュウ *Hexamerimis microamphidis* Steiner. 宇都宮大農学報 11(3) 83-116. [形態、生態(土壌中分布、生活史)、蚕への寄生。]
46. 柿市徳英・鎌田信一・内田和夫・今井壯一：Studies on livestock excreta disposal by aerated lagoon: Comparison of protozoa and metazoa in extended aeration. 日獣畜大研報 31: 127-135. [ばっ気式ラグーンによる家畜糞尿処理により線虫(未同定)が出現。]
47. 鎌田嘉孝・今村昭二・中沢 斉・斉藤栄成：夏季ハウス密閉によるトマト青枯病、ネコブセンチュウの防除。In: 太陽熱利用による土壌消毒に関する実証的研究。関東東山東海地域技術連絡会議・農林水産省農業技術センター、p. 61-64. [石灰窒素・稲藁・湛水・ポリマルチとの組み合わせ効果。線虫に対し顕著な効果。ハウス密閉のみでは地表下25cmで多数の生存虫。]
48. 金川 侃・岸 洋一：リギテータマツ  $F_1$ 、 $F_2$  のマツノザイセンチュウ病抵抗性。林木の育種 特別号1982: 44-46. [リギタマツとテータマツの雑種。抵抗性検定結果に  $F_1$ 、 $F_2$  で差異。]
49. 金川 侃・岸 洋一：選抜木とその自然交配苗のマツノザイセンチュウ病抵抗性。93日林講: 193-195. [アカマツの中にも強い抵抗性の木。]
50. 柏尾具俊：ゴマダラカミキリに対する *Neoaplectana carpocapsae* の寄生性。九病虫研会報 28: 194-197. [ペトリ皿中のカミキリ幼虫およびカンキツの枝内食入幼虫に対する昆虫寄生性線虫の防除効果はきわめて高かった。]
51. 柏 司：マツノザイセンチュウによる松枯損と樹幹注入剤ネマノーンによる防除。農薬研究 29巻2: 41-52. [マツ類の抵抗性、被害の分布・推移、線虫・カミキリの生活史、防除法、樹幹注入。]
52. 糟谷重夫・金光桂二・佐倉詔夫・石原 猛・岸 洋一：ザイセンチュウに対して抵抗性を持つアカマツ、クロマツの選抜：天然性マツへの3年間接種と生育状況。34回日林関東支講要集: 149-150. [講要]
53. 加藤喜重郎・宮川寿之・天野 隆・小出仁士・廣田耕作・中込暉雄・深谷雅博・浅野峯男・高橋忠史・清水治夫：夏季ハウス密閉によるトマト萎ちょう病(J3)、青枯病、軟腐病及びネコブセンチュウの防除。In: 太陽熱利用による土壌消毒に関する実証的研究。関東東山東海地域技術連絡会議・農林水産省農業技術センター、p. 1-7. [線虫に対しきわめて高い効果。稲藁、石灰窒素、ソルガムすき込み処理との併用による温度・pH、Eh6、ECの変化、菌類・ネコブ・ネグサレセンチュウ被害度の推移。]
54. 加藤喜重郎・宮川寿之・天野 隆・廣田耕作・中込暉雄・浅野峯男・富田 勲・西垣喜久雄・各務昭二・中野義信：夏季ハウス密閉によるイチゴ萎黄病の防除。同上、p. 95-100. [稲藁・石灰窒素の併用。湛水処理との比較。自由生活線虫に対する影響にふれる。]
55. 川崎俊郎：マツ枯損防止法 第3節 薬剤樹幹注入・土壌施用による枯損防止。In: 森林病虫獣害防除技術。森林病虫獣害防除協会、東京、p. 297-312. [1980年以前の文献を元に試験結果をまとめる。引用文献総数 158。県林試の業務報告・薬剤依託試験の成績書等で、本目録に収録していない内部資料等の引用も多い。]
56. 岸 洋一・海老根翔六：マツノマダラカミキリのマツノザイセンチュウ保持状況。茨城病虫研報 21: 37-39. [羽化時期・年次別・外国樹種からのカミキリの線虫保持数。]

樹種の違いの影響が大。]

57. 岸 洋一・海老根翔六・横堀 誠：マツノザイセンチュウ加害による針葉の変色時期と樹脂流出量の異常。茨城病虫研報 21: 40-43. [その年次に枯れるマツの90~100%が9月末には樹脂流出は停止するか、異常に少なくなる。]
58. 北岡茂男：Rhabditis 属線虫を餌とした8種のCulicoidesヌカカ幼虫の飼育。家衛試研報 83: 9-14. [R. elegansを餌とした場合のカ幼虫の生育等。]
59. 鬼頭研二：Phytoplankton marine nematode assemblage on *Sargassum confusum* Agardh, with reference to structure and seasonal fluctuations. J. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. VI, Zool. 23(1) 143-161. [北海道忍路湾のホンダラワ科海藻表面の線虫。49種を同定。季節別の種類・密度の消長を調査。]
60. 清原友也：Sexual attraction in *Bursaphelenchus xylophilus*. 日線虫研誌 11: 7-12. [マツノザイセンチュウの雄は処女雌および雌の放出物に誘引され、交尾雌と抱卵雌には誘引されず。雌も雄に誘引され、両性誘引物質は水溶性かつ揮発性。]
61. 清原友也：マツ材線虫病に対する抵抗性の誘導。93回日林大会講要: 131. [講要]
62. 清原友也：マツ材線虫病に対する誘導抵抗性。日林九支研論 35: 161-162. [前接種する線虫の種類、接種間隔について検討。]
63. 小林富士雄：マツノザイセンチュウの発見と松枯れ防止技術。農林水産研究ジャーナル 5巻7: 15-18, 22. [発見に至るまで、材線虫の発見、その後の展開、最近の研究の進展。]
64. 小林富士雄・中原二郎：松枯れを防ぐ：恐ろしい流行病からあなたの松を守るための一問一答と防除の実践例。第一プランニングセンター（山と溪谷社）、東京、158pp. [68の質問に答える形でマツ枯損の原因、症状、マツノザイセンチュウ・マツノマダラカミキリの生態、防除技術について解説。「防除の現場より」として防除の実例。]
65. 古賀成司・古閑孝彦・中山武則：施設スイカ畑におけるネコブセンチュウ、ユウガオつる割病の耕種的防除法。九病虫研会報 28: 55-58. [乾燥豚糞施用が両者の防除に著効。キャベツまたは青刈麦との交互栽培体系が線虫密度の復元を抑制。]
66. 小久保 醇：林木の虫害抵抗性育種：第16回森林動物シンポジウムから。林木の育種 125: 1-5. [次の講演要旨を含む。大庭喜八郎：林木の抵抗性育種；藤本吉幸：集団選抜によるマツノザイセンチュウ抵抗性育種；佐々木 研・古越隆信：種間交雑によるマツノザイセンチュウ抵抗性育種。]
67. 駒田 旦・後藤 昭・加藤喜重郎・吉野正義・戸崎正弘・米山伸吾・木暮幹夫：太陽熱利用等による土壌病害虫防除、特に関東東山東海地域連絡試験を中心として。In: 太陽熱利用による土壌消毒に関する実証的研究。関東東山東海地域技術連絡会議・農林水産省農業技術センター、p. 135-146. [線虫(No.82-8, 44, 50, 51, 91, 128, 147, 160)、及び土壌病害(当資料には収録していない)に対する試験結果のまとめ。]
68. 今 友親・上野賢司・高宮泰宏・山田英一・高倉重義：ジャガイモシストセンチュウとその防除対策 第2報 被害解析。北農 49巻9: 1-15. [線虫密度と被害、栽培法による被害回避、ツニカの多収栽培法。]
69. 近藤栄造・Dropkin, V. H. :ヨーロッパアカマツに対するマツノザイセンチュウの加害性。26回応動昆大会講要: 157. [講要]
70. 近藤栄造・Foudin, A.・Linit, M.・Smith, M.・Bolla, R.・Winter, R.・Dropkin, V. H. : Pine wilt disease: Nematological, entomological, and biochemical investigations. Agr. Exper. Stn., Missouri Univ., Columbia, 56 pp. [アメリカ、日本のマツノザイセンチュウの形態、生態の比較。アメリカにおけるベクター、病原性、生化学的研究(毒素)。]

71. 近藤芳五郎・長井 稔：砂地クロマツ林におけるマツクイムシ被害に関する知見。砂丘研究 29(2) 67-73。 [線虫の分布と移動、二次害虫の同定と発育量。]
72. 下松明雄：樹幹注入薬剤<sup>®</sup>ネマノーンについて。農薬研究 28巻4: 49-54。 [開発、特性 (吸収、移行性と拡散分布、残効、葉害)、施用技術 (施用時期、部位、圧力注入、注入孔の処理)。]
73. 下松明雄・原 昇：マツノザイセンチュウ防除のための樹幹注入法の研究：松の樹幹内に注入された水溶性色素の移行について。農薬研究 29巻2: 53-56。 [色素の移行を注入2月後に調査。]
74. Kumazaki, T.・Hori, H.・Osawa, S.・石井直明・鈴木撃之：The nucleotide sequences of 5S rRNAs from a rotifer, *Brachionus plicatilis*, and two nematodes *Rhabditis tokai* and *Caenorhabditis elegans*. Nucl. Acids Res. 10(21)7001-7004。 [未見]
75. 真宮靖治：マツノザイセンチュウのマツ樹体内での定着と樹体組織の反応。26回応動昆虫大会講要：157。 [講要]
76. 真宮靖治：マツノザイセンチュウの生態および病原性。In: 森林病虫獣害防除技術。森林病虫獣害防除協会、東京、p.183-225。 [伝播昆虫、線虫の生活史 (食性、発育と生活史、増殖、樹体内での生活、伝播者とのかかわりあい)、病原性および萎凋枯死機構 (マツ属の抵抗性と感受性、病徴、マツ樹体内での動態、発病機構と毒素)、発病と環境条件 (温度、土壤水分、標高、雨量等)、分布 (日本、アメリカ、ニセマツノザイセンチュウ)、文献 (493 篇。1980年以前を網羅)。]
77. 真宮靖治：マツノザイセンチュウとその媒介者。国際林業研究機関連合第17回世界大会における技術情報収集報告書、p.60-62。 [発表論文の抄録。]
78. 真宮靖治：マツ枯れの現状と防除：マツ枯れの現状をあきらかにしその対策をさぐる。採集と飼育 44(3) 139-143。 [マツ枯れ、マツノザイセンチュウ、線虫とカミキリの関係、マツノザイセンチュウ外來說、防除の解説。]
79. 真宮靖治：マツノザイセンチュウの学名変更とそのいきさつ。森林防変 31(6) 104-107。 [ *Bursaphelenchus xylophilus* を使用することになった経緯。 ]
80. 真宮靖治：クロマツおよびテーダマツの材組織におけるマツノザイセンチュウの増殖経過比較。34回日林関東支講要集：147-148。 [講要]
81. 真宮靖治：Pine wilt and pine wood nematode: Histopathological aspects of disease development. In: Resistance to diseases and pests in forest trees. PUDDC, Wageingen, p. 153-160。 [歴史、線虫寄生とマツ組織の反応の経時変化。]
82. 真宮靖治・林 良興：マツノザイセンチュウと代謝産物の性質。日植病報 48(1) 138。 [講要]
83. 正木伸之・吉田正義：マツノザイセンチュウの根部への移動による根と地上部の被害。26回応動昆虫大会講要：156。 [講要]
84. 正宗 直・姉帯正樹・高杉光雄・勝井信勝：Isolation of a natural hatching stimulus, glycinoclepin A, for the soybean cyst nematode. Nature 297(5866) 495-496。 [菜豆からダイズシストセンチュウの孵化物質 (glycinoclepin A) を単離。]
85. 松浦邦昭：浸透性殺線虫剤によるマツノザイセンチュウ接種罹病木の治療。93回日林大会講要：129。 [講要]
86. 皆川 望：日本産 *Trophonema* 属線虫の分類学的研究。26回応動昆虫大会講要：154。 [講要]
87. 皆川 望：An additional new species of genus *Nothocriconema* from Mt. Aso (Tylenchida: Criconematidae)。日線虫研誌 11: 24-27。 [熊本県阿蘇外輪山のススキ

- 根辺から検出したワセンチュウを *N. miscanthi* と命名し、記載。現在は *Criconema* 属の再定義により (*Nothocriconema* 属が *Criconema* 属のシノニムとなった)、この属に移されている (Raski, D.J. & Luc, M., *Revue Nematol.* 7(4) 323-334, 1984。)]
88. 皆川 望: Descriptions of *Pratylenchus gibbicaudatus* n.sp. and *P. macrostylus* Wu, 1971 (Tylenchida: Pratylenchidae) from Kyushu. *Appl. Ent. Zool.* 17(3) 418-423. [前者は熊本県阿蘇山のアブラガヤから検出された新種。後者は熊本県下のヤマザクラ、クヌギ、コナラ、カシワからの記録。形態を記載。]
89. 峰尾一彦: マツノザイセンチュウ耐久型幼虫の頭数別接種試験。33回日林関西支講: 255-258. [耐久型幼虫は培養線虫に比べて病原力が強い。500頭接種で枯死。]
90. 三浦猛夫: 太陽熱利用による病害虫対策: 宮崎県における連作障害防止。今月の農薬 26巻7: 16-20. [キュウリツル割病、ネコブセンチュウに対する効果。]
91. 三輪錠司・田伏 洋・Furusawa, M.・Yamasaki, H.: Tumor promoters specifically and reversibly disturb development and behavior of *Caenorhabditis elegans*. *J. Cancer Res. Clinic. Oncol.* 104(1/2) 81-87. [未見]
92. 宮崎 信: 松くい虫被害材のマルブ化試験。森林防疫 31(5) 78-81. [クラフト用マルブ原木には利用可、チップ収率は低下。]
93. 水野 隆: マツノザイセンチュウ防除薬剤「ネマノーン注入剤」。林業と薬剤 81: 11-15. [有効成分の理化学的性質、特徴、使用時期、効果等。]
94. 森 正明・玄 丞培 (Hyeon, S.B.)・木村靖夫・鈴木昭憲: The nematicidal activity of acetylene compounds. *Agr. Biol. Chem.* 46(1) 309-311. [合成アセチル化合物の殺線虫活性。活性の発現にはアリアル基、エステル基、ケトン基に隣接した三重結合の存在が必要。]
95. 長井雄治・村田明夫・竹内妙子・萩谷俊一・白崎隆夫: 夏季ハウス密閉によるトマト褐色根腐病ほか数種の土壌病害、土壌線虫の防除。In: 太陽熱利用による土壌消毒に関する実証的研究。関東東山東海地域技術連絡会議・農林水産省農業技術センター、p. 35-40. [稲葉・石灰窒素・密閉・マルチ・湛水・断熱処理との組み合わせの効果。ネコブセンチュウにすぐれた効果。]
96. 長瀬 淳・桑原保正・富永康平・須賀原亮三: Nematicidal activity of alkylamine against the pine wood nematode, *Bursaphelenchus lignicolus*. *Agr. Biol. Chem.* 46(1) 167-172. [マツノザイセンチュウに対するアルキルアミンの殺線虫活性。n-オクタデシルアミンが最強 (LD50 2.08 ppm)。]
97. 長瀬 淳・桑原保正・富永康平・須賀原亮三: Aggregation of *Bursaphelenchus lignicolus* (Nematoda: Aphelenchoididae) to several compounds containing oleyl group. *Appl. Ent. Zool.* 17(1) 46-51. [オレイル基の種類によりマツノザイセンチュウに対する集合の強弱に差。オレイルアミン類は殺線虫活性。]
98. 内藤孝道: 鹿児島たばこ試験場における技術連絡チームの活動状況について。葉たばこ研究 90: 102-103. [大隅地区線虫病対策にふれる。]
99. 中島靖之・松井正徳・吉武貞敏・田中澄人・中村利宣・大場支征: イチゴ根腐萎ちよう症に関する研究 第2報 発生と培地条件との関連。福岡農総試研報 B 1: 28-32. [発病はネグサレセンチュウ接種、高pH、遮光処理で多くなる。]
100. 中村茂樹・佐野善一・大庭寅雄・荒城雅昭・中國和年: 九州(中部地域)平野部におけるダイズシストセンチュウの発生と被害。日線虫研誌 11: 46. [熊本県西合志地区のダイズ4年連作圃場で、典型的坪枯症状が発生。]
101. 中國和年・荒城雅昭・佐野善一: 土壌型および初期密度が線虫の発育、産卵、ふ化虫数に及ぼす影響。26回応動昆虫大会講要: 159. [講要]

102. 中園和年・佐野善一・荒城雅昭：土壤型の違いが線虫による作物の被害発現に及ぼす影響。26回応動昆大会講要：160。[講要]
103. 中園和年・佐野善一・荒城雅昭・大庭寅雄・中村茂樹：九州平野部のダイズ畑に発生したダイズシストセンチュウの圃場内分布と被害。九病虫研会報 28: 178-180。  
[分布は集中的、黄化症の発生地点で高密度、草丈と着莢数も劣った。]
104. 中沢 斉：夏季ハウス密閉短期処理によるネコブセンチュウ防除効果。今月の農業 26巻7: 23-25, 口絵。[根瘤指数からみた防除効果はEDB、D-D、ガスタード、ハウス密閉の順。]
105. 中沢 斉・原田敏男・斉藤栄茂：夏季ハウス密閉による土壤消毒効果：短期処理によるキュウリのネコブセンチュウ防除効果。関東病虫研報 29: 169。[10日程度でも殺線虫剤と同程度の効果。]
106. 西沢 務：Bacillus penetrans類似物の寄主特異性および線虫密度抑制効果。26回応動昆大会講要：158。[講要]
107. 西沢 務：果樹種苗に寄生する重要害虫：センチュウ。果樹種苗8:6-11。[未見]
108. 小芦健良：ガス抜きを省いたサツマイモの線虫防除。九病虫研会報 28:187-190。  
[大隅半島の黒ボク土ではD-DまたはEDB剤を半月平均気温15°C以上の時、いものうね中央に30cm間隔15cm深さに注入し、マルチすれば、前者は10日、後者は20日後、ガス抜きなしで挿苗可能。]
109. 小芦健良：ガス抜きを省いたサツマイモのセンチュウ防除。今月の農業 26巻7: 73-76。[D-D、EDB剤。カンショの生育阻害は少ない。]
110. 小河誠司：マツノザイセンチュウに関する研究(8)マツノマダラカミキリの後食量と材線虫侵入増殖率。日林九支研論 35: 157-158。[両者に密接な関係。]
111. 奥 八郎・上田隆之・富田和男・白石友紀・大内成志・山元広海：激害型枯損マツに見出される異常代謝産物。日植病報 48(3) 360-361。[講要]
112. 大羽克明：Caenorhabditis elegansの水浸漬液におけるdauerlarvaの誘起性。26回応動昆大会講要：158。[講要]
113. 大羽克明・藤田祐輔・広岡 薫：Effects of the storage temperature of soil on number of Meloidogyne incognita larvae extracted by Baermann funnel method. 日線虫研誌 11: 1-6。[季節(2, 5, 7, 9, 12月)と保存温度(5, 15, 25, 35°C)とベルマン法分離虫数との関係を調査。冬期保温は5°C、夏期は25°Cで好成績。]
114. 大羽克明・石橋信義：A factor inducing dauer juvenile formation in Caenorhabditis elegans. Nematologica 28(3) 318-325。[線虫培養液中に耐久型幼虫に移行させる物質が存在。培養条件・線虫の令期による違いを試験。]
115. 大庭喜八郎：材線虫抵抗性。In: 森林病虫獣害防除技術。森林病虫獣害防除協会、東京、p. 320-327。[マツ属の抵抗性(種間差、雑種)、要因、抵抗性育種。]
116. 大庭喜八郎：Breeding of pines for resistance to the wood nematode, Bursaphelenchus lignicolus. In: Resistance to disease and pests in forest trees. PUDOC, Wageningen, p. 387-395。[接種方法の確立、抵抗性樹の検索。]
117. 大庭寅雄・野村 个・八尋 健・山本泰由・後藤 昭：畑地かんがい条件下での堆きゅう肥及び作付体系が作物生産力の推移に及ぼす影響 第2報 作付体系の差がカンショ、サトイモの生育収量に及ぼす影響。日作九州支報 49: 56-59。[ネコブ、ネグサレセンチュウの密度変化を含む。]
118. 大山浪雄・福島 勉：マツノザイセンチュウ抵抗性マツの内樹皮液pH。日林九支研論 35: 109-110。[線虫接種後生き残るクロマツ個体ではpHが低いものが多い。]
- 118a. 大山佳邦：陸上動物。In: 南極の科学：7. 生物。国立極地研究所、東京、p.

- 246-273. [南極における線虫研究史及び検出種のリスト、季節的密度変動等の記録(外国人による研究の紹介)を含む。]
- 1 1 9. 佐野善一: 低温期土壌の加温保存が3分離法の線虫分離虫数に及ぼす影響. 日線虫研誌 11: 33-37. [冬・春圃場土の25°C加温とベルマン法、ふるい分けベルマン法、および二層遠沈浮遊法の分離虫数の違いから主にサツマイモネコブセンチュウの越冬態、活性状態などとの関連を考察。]
- 1 2 0. 佐野善一・中園和年: 各種植物の *Meloidogyne incognita* の密度抑制効果: 栽培期間の影響. 26回応動昆大会講要: 159. [講要]
- 1 2 1. 佐野善一・中園和年: サツマイモネコブセンチュウ対抗植物の他種線虫に対する有効性. 九病虫研会報 28: 224. [講要]
- 1 2 2. 佐々木 浩: 樹幹注入によるマツノザイセンチュウ防除試験 第3報. 徳島林総技七研報 20: 126-132. [7751、ネマホス、テラキュアP、ダイシストン剤の効果持続。]
- 1 2 3. 佐藤平典・作山 健: 岩手県におけるマツ材線虫病(松くい虫の被害)の現状と防除. 岩手林試成果報 15: 29-64. [名称、伝搬のしくみ、被害状況、誘因、感染・増殖源、被害の特徴、防除。]
- 1 2 4. Schaefer, P. W. ・ Ikebe, K. : Recovery of *Hexameris* sp. (Nematoda: Mermithidae), parasitizing gypsy moth, *Lymantria dispar* (L.), in Hokkaido. Env. Ent. 11(3) 675-680. [北海道のマイマイガからシヘンチュウを発見。野外での寄生率および放飼実験(最高84%寄生)、生活史。]
- 1 2 5. 千本木市夫・那須恵二郎・高橋哲夫: 飼料トウモロコシダイコン体系におけるキタネグサレセンチュウの耕種的防除 1. 抑制作物の導入効果. 関東病虫研報 29: 172-173. [サトイモ、サツマイモ、ラッカセイ、マリーゴールドは利用可能。]
- 1 2 6. 千本木市夫・那須恵二郎・高橋哲夫: 飼料トウモロコシダイコン体系におけるキタネグサレセンチュウの耕種的防除 2. マリーゴールドの導入効果. 関東病虫研報 29: 174-175. [3作に1作は必要。]
- 1 2 7. 新須利則: イチゴ根腐萎ちよう症の原因と対策. 植物防疫 36(12) 541-544. [長崎総農試の研究成績を中心に、症状、発症と栽培条件、発生の原因(*Cylindrocarpon*菌とクルミネグサレセンチュウの混合感染の可能性)、防除法を概説。]
- 1 2 8. 周藤靖雄: 島根県における松くい虫被害の推移とその防除. 森林防疫 31(12) 224-227. [被害量の推移、被害分布の推移、気象条件との関係、防除。]
- 1 2 9. 須川豊伸: マツノザイセンチュウ被害による傷害樹脂道の発生と柔細胞の変性. 日林誌 64(3) 112-116. [線虫接種4日後から変化、その後の変化を観察。]
- 1 3 0. 鈴木和夫: 材線虫の時期別接種とアカマツ仮道管数増加の経時的変化. 93回日林大会講要: 130; 93回日林論: 407-408. [8月以降の形成層活動に顕著な影響。]
- 1 3 1. 鈴木和夫・山田利博: マツノザイセンチュウの個体数定量化の試み. 33回日林関西支講: 251-254. [DNA阻害剤(アクチジオン、アクチノマイシンD、ヒドロキシウレア)により増殖を止めた状態で調査する方法。]
- 1 3 2. 高久恒夫・大兼善三郎・羽生 梶・野尻光一・大竹勝次・手塚徳弥・大村裕顕・木村 栄・渡辺 正: 夏季ハウス密閉によるトマト褐色根腐病の防除. In: 太陽熱利用による土壌消毒に関する実証的研究. 関東東山東海地域技術連絡会議・農林水産省農業技術センター, p. 31-34. [ソルゴー、石灰窒素、デントコーン、稲藁との組み合わせ。ネコブセンチュウにも高い効果。]
- 1 3 3. 高倉重義・山田英一・高宮泰宏・今 友親・上野賢司: ジャガイモシストセンチュウとその防除対策 第5報 防除対策. 北農 49巻11: 1-25. [殺線虫剤(D-D、EDB、デイトラベックス、テロンII、オキザミル粒剤、エソプロホス粒剤、ダイアジ



- ノン粒剤)、総合的な防除対策、伝搬防止。]
134. 高宮泰宏・上野賢司・今 友親・山田英一・高倉重義: ジャガイモシストセンチュウとその防除対策 第3報 線虫に対する品種の特性. 北農 49巻9: 16-38. [野生種、感受性品種、抵抗性品種。]
135. 高野利達・萩原 潤・湯原 巖: ベントグラスセンチュウ *Anguina agrostis* の温度処理による殺線虫効果. 植防研報 18: 34-46. [効果のあった温湯処理は50°C180分、53°C60分以上。乾熱は100°C9時間以上。15時間水浸後40°C乾燥100°C6時間の乾熱が最も好成績。]
136. 高岡宏行: Mermithid, microsporidan and fungal parasitism of larval black flies from Oita in Japan. 衛動 33(2) 149-154. [5種のブユの幼虫から3種のMermithidae科線虫(シヘンシユウ)を発見。]
137. 高瀬 巖・小山寛史・藤下章男: 浸透性薬剤によるマツノザイセンチュウの防除効果と薬剤の吸収・移行および分布. 農薬誌 7(4) 473-480. [メスルフェンホス、ダイシストンの動態。]
138. 滝沢幸雄・庄司次男: 岩手県におけるカラフトヒゲナガカミキリの分布と材線虫病媒介の可能性. 森林防疫 31(1) 4-6. [カミキリは平均4,204頭、最高45,600頭の線虫を保持。]
139. 田村弘忠: ミズーリ便り: マツノザイセンチュウを追って(1). 森林防疫 31(3) 53-54. [著者のアメリカにおける研究生生活等に関する報告。続報は9報まで(Nö. 82-140~145, 83-166, 167.)。]
140. 田村弘忠: ミズーリ便り: マツノザイセンチュウを追って(2). 同 31(4) 74-75.
141. 田村弘忠: ミズーリ便り: マツノザイセンチュウを追って(3). 同 31(7) 131-133.
142. 田村弘忠: ミズーリ便り: マツノザイセンチュウを追って(4). 同 31(8) 155-157.
143. 田村弘忠: ミズーリ便り: マツノザイセンチュウを追って(5). 同 31(9) 174-176.
144. 田村弘忠: ミズーリ便り: マツノザイセンチュウを追って(6). 同31(10) 196-198.
145. 田村弘忠: ミズーリ便り: マツノザイセンチュウを追って(7). 同31(11) 215-218.
146. 田中恵子・石橋信義・藤篠純夫: サツマイモネコブセンチュウ雌成虫における aging. 26回応動昆大会講要: 155. [講要]
147. 田中澄人・中村利宣: イチゴ根腐萎ちょう症に関する研究 第3報 薬剤防除効果. 福岡農総試研報 B 1: 33-34. [メチルプロマイド、EDB剤の効果が高い。]
148. 樋田幸夫: リンゴネコブセンチュウ (*Meloidogyne mali*) 卵のふ化に及ぼす温度の影響. 日線虫研誌 11: 47-48. [適温は25~30°C, 33°Cでは孵化幼虫の死亡増大。]
149. 樋田幸夫: クワに寄生する数種線虫の桑園土壤中における分布の季節的変動. 26回応動昆大会講要: 160. [講要]
150. 樋田幸夫: 線虫とクワの生育: ネコブセンチュウを中心に. 蚕糸技術 118: 34-38. [線虫相、ネコブセンチュウの寄生とクワのリン酸代謝、生育。]
151. 富樫一巳・関塚弘志: Influence of the pine wood nematode, *Bursaphelenchus lignicolus* (Nematoda: Aphelenchoididae), on longevity of its vector, *Monochamus alternatus* (Coleoptera: Cerambycidae). Appl. Ent. Zool. 17(2) 160-165. [多くのマツノザイセンチュウを保持するマツノマダラカミキリほど寿命が短い。]
152. 戸崎正弘・武藤正義・安田弘之・桑原紀之・和田友成: 夏季ハウス密閉によるキュウリネコブセンチュウ等の防除. In: 太陽熱利用による土壤消毒に関する実証的研究. 関東東山東海地域技術連絡会議・農林水産省農業技術センター, p. 101-110. [石灰窒素、有機物添加の併用、湛水処理との比較。処理後は検定植物でのネコブセンチュウ被害株皆無となる。]

153. 坪井真一・佐々木昭孝・佐藤朋子・下松明雄：樹幹注入法によるメスルフェンホス（<sup>®</sup>ネマノーン）のマツノザイセンチュウ（*Bursaphelenchus lignicolus*）防除試験。農薬研究28巻4：70-73。【野外試験結果。】
154. 上林 譲：黒点米の発生動向と対策。植物防疫 36(3) 131-134。【症状、発生動向およびイネシンガレセンチュウ発生加害との関連性、線虫の防除（種もみ、育苗期での防除の重要性を指摘）。】
155. 植松清次・松本幹男・杉田恒雄・小野木静夫：クルミネグサレセンチュウの発生とイチゴの連作年数および土壌消毒との関係。関東病虫研報 29：176-177。【連作により線虫増加、根も褐変。】
156. 上野賢司・山田英一・高倉重義・今 友親・高宮泰宏：ジャガイモシストセンチュウとその防除 第4報 輪作の効果と輪作作物の栽培法。北農 49巻10：1-20。【連輪作と線虫密度変動、輪作作物の栽培法。】
157. 和田健夫・矢ノ口幸夫・高沼重義・清井敏博：土壌くん蒸剤の大気中への拡散および土壌消毒地帯における大気中クロロピクリン濃度について。長野農総試報 2：26-34。【クロロピクリン、D-D、MITC剤。D-D剤は施用25時間後までにポリマルチで施用量の3.3%、無被覆で18.0% が空中に散逸。】
158. 和田健夫・矢ノ口幸夫・清井敏博：土壌消毒地帯における大気中クロロピクリン濃度。関東病虫研報 29：181-182。【施用1月後を最高に、徐々に減少。】
159. 八木田秀幸：線虫と桑病：ナガハリセンチュウとオオガタハリセンチュウを中心に。蚕糸技術 118：39-44。【クワモザイク病の伝搬、被害。】
160. 山田英一：線虫類。In: 北海道農業技術研究史：1966～1980（北海道農業試験場・北海道立農業試験場編）。北海道農業試験研究機関創立80周年記念行事協賛会、札幌、p. 304-312。【グイズシスト、ネコブ、ジャガイモシスト、ネグサレ、イネネモグリセンチュウ、転換畑・果樹の線虫、試験方法等のまとめ。参考文献数80。】
161. 山田英一・高倉重義：葉枯症状の花ユリから分離されたイチゴセンチュウ、*Aphelenchoides fragariae*、について。日線虫研誌 11：28-32。【北海道産エゾスカシユリ交配種の葉枯症の病原は本線虫と判明。葉の裏面組織に内部寄生し、葉は黄変、褐色化、枯死する。】
162. 山田英一・高倉重義・上野賢司・今 友親・高宮泰宏：ジャガイモシストセンチュウとその防除 第1報 北海道の発生分布と生態。北農 49巻8：1-28。【発生分布（初発見の経過、線虫の形態、現在までの分布状況）、生態（発生消長、抵抗性品種と感受性品種の比較、殺線虫剤施用と消長、非寄主栽培と消長、深度別分布、低温・高温耐性）。】
163. 山口泰典・三輪錠司：線虫*Caenorhabditis elegans*に対するモノクローナル抗体。動雑 91(4) 348。【講要】
164. 山川邦夫：ナスの土壌病害抵抗性新台木「トムバム・ピガー」の利用。今月の農薬 26巻2：88-91。【ネコブセンチュウにかなりの効果。】
165. 山中 啓・斉藤 徹・斉木 博・椿 啓介：森林土壌糸状菌によるマツノザイセンチュウの増殖。森林防疫 31(4) 59-61。【*Morteirella*, *Trichoderma*, *Pestalotia*菌が良い結果。】
166. 山中 啓・若林健司・斉藤 徹・椿 啓介：森林土壌糸状菌によるマツノザイセンチュウの生育の促進と抑制。農化 56(6) 427-434。【99菌株の寄主の好適度を線虫の増殖をもとに分類。*Phomopsis* 菌の2株は強力な殺線虫作用。】
167. 米山伸吾・小松鋭太郎・松沢義郎：夏季ハウス密閉によるキュウリつる割病およびネコブセンチュウの防除。In: 太陽熱利用による土壌消毒に関する実証的研究。関東

- 東山東海地域技術連絡会議・農林水産省農業技術センター、p. 111-115. [稲葉、石灰窒素、バーク堆肥添加、湛水処理との比較。線虫への効果は高い。有機物の土壌施用はとくに必要なし。]
168. 吉原照彦・山口勝義・坂村貞雄: A lignan type stress compound in potato infected with nematode (*Globodera rostochiensis*). *Agr. Biol. Chem.* 46(3) 853-854. [ジャガイモシストセンチュウに寄生されたジャガイモ根等からリグナン型ステルス化合物を単離。9-hydroxyguaiaimonoepoxyigna-9-O- $\beta$ -D-glucosideと同一。]
169. 吉井太門・鈴木栄太郎: クワおよびキボシカミキリ成虫から分離される線虫について。北日本病虫研報 33: 129-130. [Rhabditidae 科の1種と *Bursaphelenchus* sp.]
170. 吉井太門・鈴木栄太郎: クワおよびキボシカミキリ成虫から分離される線虫のクワに対する接種。北日本病虫研報 33: 131-132. [Diplogasteridae, *Bursaphelenchus* sp. はクワに対する加害性はない。]
171. 吉村克生: Free-living marine nematodes from Kii Peninsula. II. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.* 27(1/3) 133-142. [*Metancholaimus filispiculum*, *Meyersia japonica*の2新種を記載。前者の属の種の検索表を示す。]
172. 吉武貞敏・大場支征・田中澄人・中村利宣・中島靖之・松井正徳: イチゴ根腐萎ちよう症に関する研究 第4報 イチゴ根腐萎ちよう症に対する陽熱消毒効果。福岡農総試研報 B 1: 35-40. [十分な防除効果あり。]
173. 湯原 巖: 侵入が警戒される重要線虫類。植物防疫 37(7) 22-27. [わが国未発生の植物検疫上重要な5種(ミカンネモグリ、ジャガイモシロシスト、イネクキ、ブドウオオハリ、テンサイシストセンチュウ)の生態、被害、形態、寄主植物、防除法について解説。]
174. 湯原 巖・相原孝雄: サイクロンの利用によるシストセンチュウ類のシストの分離・検出法。植防研報 18: 1-5. [乾燥土壌および種子中に混在するシストセンチュウ類シストの機械による風選の分離条件と効率。]
175. 湯原 巖・平田賢司: 改良型サイクロンによるシストセンチュウのシストとベントグラスセンチュウのゴール検出法。26回応動昆大会講要: 161. [講要]

### 昭和58年 (1983)

1. 相原孝雄・湯原 巖・山崎和雄: ツバキネコブセンチュウ (*Meloidogyne camelliae*) の季節的発生消長及び数種寄主植物。日線虫研誌 12: 33-40. [神奈川県下ツバキ、サザンカ根圏の密度は春・秋に増大、夏・冬に減少。増殖適温は13~14°C、新奇主としてヒサカキ、ハマヒサカキ、チャ、シロツメクサ(やや不適)。]
2. 青柳美智子・石橋信義: Gametogenesis of the pine wood nematode, *Bursaphelenchus xylophilus*. 日線虫研誌 13: 20-25. [卵子・精子は他の両性生殖型線虫と同じく減数分裂で形成、染色体は雌雄とも  $n=6$ 、性染色体は識別できず。未受精卵は崩壊。]
3. 荒城雅昭・中園和年・佐野善一: 九州地域のネコブセンチュウ (*Meloidogyne* spp.) 分類・同定に関する問題点。27回応動昆大会講要: 162. [講要]
4. 荒城雅昭・佐野善一・中園和年: サツマイモの連作障害とサツマイモネコブセンチュウの関連性。九病虫研会報 29: 129-132. [農林1号連作圃の塊根異常症の発生は、線虫の寄生・加害とは直接関係はなく、他の病原菌等の関与が示唆された。]
5. 在原登志男: アカマツ雪書木から羽化脱出したカミキリ3種のマツノザイセンチュウ保持数。94回日林大会講要: 151; 94回日林論: 473-474. [カラフトヒゲナガ、スジマ

- ダラモモブト、マツノマダラカミキリ。前二者の保持数は少ない。]
6. 在原登志男・斉藤勝男：アカマツの雪害木に対するマツノマダラカミキリの寄生とマツノザイセンチュウの生息状況について。94回日林大会講要：151； 94回日林論：471-472。[被害木の50-75%に材線虫生息。]
  7. 在原登志男・斉藤勝男：アカマツ雪害木における被害形態及び部位ごとのマツノマダラカミキリの寄生とマツノザイセンチュウの生息状況。日林東北支誌 35：139-141。  
[折損部が短いほど寄生しにくい。]
  8. 浅野峯男・加藤俊博・木下忠孝・有沢道雄：土壤消毒後の土壤養分の動態に関する研究（第2報）消毒歴が土壤微生物相の変化及び果菜類の生育・収量に及ぼす影響。愛知総農試研報 15：216-222。[D-D剤は放線菌に対してはほとんど影響なし。]
  9. 浅利 覚：ネコブセンチュウ寄生リンドウ苗の温湯消毒。今月の農薬 27巻8:27-32。  
[49~51°C15分が良い。]
  10. 浅利 覚・芦沢俊行・内田 勉・清水賢年：リンドウネコブセンチュウの苗温湯浸漬による防除。山梨農試研報 23：117-128。[50°C10分処理が適当。]
  11. 千葉恒夫・下長根 鴻・祝迫親志・松田 明：サツマイモ根腐れかきよう症状（仮称）の発生と防除法：とくにクロルピクリン剤による効率的消毒法について。茨城農試研報 23：149-166。[D-D、EDB剤注入効果はクロルピクリンより劣る。]
  12. 近岡一郎：キタネグサレセンチュウによる作物被害と防除に関する研究、特に対抗植物の利用について。神奈川農総研研報 125：1-72, 6 pls。[発生消長、被害の特徴、その査定（ダイコン、ニンジン、ジャガイモ、サツマイモ、キャベツ、レタス、トマト、インゲンマメ）、生態（増殖、水中・土中ででの生存、寄主植物、寄生と土壤条件）、薬剤感受性（D-D、EDB、DBCP、NCS、ベープム、テロン、ドーロン）、薬剤防除（ニンジン、三浦ダイコン、二年子ダイコン）、対抗植物利用（マリーゴールドの品種別、栽植日数、トマト混栽、 $\alpha$ -terthienyl およびマリーゴールド粉末施用の線虫密度低減効果、線虫密度を下げる栽植方法。]
  13. 近岡一郎：キタネグサレセンチュウの被害、生態および防除。今月の農薬 27巻8:21-26。[症状、病斑型、発生消長、寄主、薬剤感受性、対抗植物による防除。]
  14. 遠田暢男：関東地方におけるマツノマダラカミキリ成虫のマツノザイセンチュウ保持数。34回日林関東支論：155-158。[地域、年度、カミキリの成熟期、脱出時期、雌雄別等のカミキリの材線虫保持数の違い。]
  15. 遠田暢男・池田俊弥：マツノザイセンチュウの離脱に関するアカマツの揮発成分。94回日林大会講要：153； 94回日林論：479-480。[モノテルペン、 $\beta$ -ミルセン処理によりカミキリからの線虫離脱高率となる。]
  16. 藤本吉幸：マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業のその後。林木の育種 128：20-21。[事業の経過。]
  17. 藤下章男：EDB油剤及びクロルピクリン液剤によるマツ枯損材のくん蒸処理。31回日林中支論：183-184。[ビニル被覆との組合わせでEDB剤は大きな効果。]
  18. 福留信明・青木昌三：土壤中の線虫密度とタバコの被害との関係。九病虫研会報 29：181。[講要]
  19. 古越隆信・佐々木 研：二葉松類の種間雑種とマツノザイセンチュウ抵抗性。林木の育種 129：1-6。[クロマツ、タイワンクロマツの雑種の交配および特性検定。]
  20. 古野東洲・二井一禎：マツノザイセンチュウ接種マツ属の生育、とくに接種後3年間の生育について。京大農演習林報 55：1-19。[生存個体も接種翌年の生育が低下。  
P. bonkosia, P. rigida では線虫接種の影響なし。]
  21. 古野東洲・二井一禎：マツノザイセンチュウ接種クロマツの生育：とくに生存木の

- 生育について(予報), 94回日林大会講要: 149. [講要]
22. 古野東洲・二井一禎: マツノザイセンチュウに抵抗性を示した霧上松の生育について, 34回日林関西支講: 273-275. [線虫接種後生存木のその後の生育。]
23. 古富英明: 松くい虫被害は防げるか: 森林の保全対策をめぐって, 農業富民 55巻 2: 90-93. [被害の現状、防除対策。]
24. 二井一禎・古野東洲: 同一マツ樹体内への異種あるいは同種線虫の時差接種, 34回日林関西支講: 276-279. [クロマツ、アカマツへの接種。病徴進展抑制に若干の効果。]
25. 後藤 昭: 浅間山麓・八ヶ岳山麓・の高冷地における線虫調査より: ネコブセンチュウ・ネグサレセンチュウについて, 27回応動昆大会講要: 159. [講要]
26. 萩谷俊一: 線虫捕食菌 (*Monacrosporium elliposporum*) 培養土の施用がキュウリの収量及び土壤中のネコブセンチュウ密度に及ぼす影響, 関東病虫研報 30: 180-182. [定着はしたが、効果は不明瞭。]
27. 萩谷俊一: センチュウ捕食菌のキュウリに対する施用効果と実用性, 今月の農業 27巻5: 94-99. [増収は捕食菌の直接の作用より、パーミキュライトによる土壌物理性改良の効果もあるとする。]
28. 半田孝俊: 水戸・笠間営林署管内の国有林でのマツノザイセンチュウ抵抗性候補木の選択, 茨城病虫研会報 22: 39-41. [テーダマツ以上の抵抗性のあったのはアカマツでは25候補木のうち2本、クロマツでは33本中5本。]
29. 原 国弦: 薬剤の単木処理技術に関する研究, 愛媛林試研報 8: 25-45. [サイアノックス、バイジット、7751、テラキアP、ネマホス、PC-3203の樹幹注入、ダイシストン、ランネートの土壌施用、施肥と薬剤の効果との関係。]
30. 原 国弦: マツ枯損動態の解明に関する研究, 愛媛林試研報 8: 47-57. [被害の推移、分布。]
31. 原 忠彦・百田洋二・草刈真一・阿部一博・山田貴義: ハウスナスの連作障害に関する研究, 大阪農林技研報 20: 1-9. [サツマイモネコブセンチュウ密度は連作により増加。抵抗性台木は有望。]
32. 橋本昭彦・古賀成司・中山武則・小川芳久・古閑孝彦・川辺益美・小代寛正: スイカの連作障害の原因と対策, 熊本農試研報 8: 85-119. [サツマイモネコブセンチュウは萎凋病発生の原因となる。菌類との関係、有機物施用、土壌水分とハウス密閉効果、輪作の効果を含む。]
33. 橋本平一: マツ材線虫病罹病木における通水機能について, 日林九支研論 36: 187-188. [接種後の通水性の変化を調査。]
34. 橋本平一・堂園安生・河辺祐嗣: マツ材線虫病の萎凋生理に関する研究(I) 樹体内における線虫の増殖について, 94回日林大会講要: 150; 94回日林論: 469-470. [症状と部位別の線虫増殖。]
35. 橋本平一・河辺祐嗣・堂園安生: マツ材線虫病の萎凋生理に関する研究(II), 94回日林大会講要: 150. [講要]
36. 日野出裕二・大野 浩・首藤義博・渡辺博恭: マツノザイセンチュウ抵抗性及び感受性機構の解明, 日農薬学会大会講要: 211. [未見。講要。]
37. 日野出裕二・首藤義博・渡辺博恭: 増殖型マツノザイセンチュウに対する $\beta$ -myrceneの増殖促進作用, 日農化昭58大会講要: 125. [未見。講要。]
38. 平野 潤・三河義雄・南館 昌: シイタケほだ木に寄生する線虫と害菌(トリコデルマ属菌)の生態, 岩手林試成果報 16: 49-56. [*Aphelenchus*, *Paraphelenchus* 属線虫は、害菌の多いほだ木から多数検出。]
39. 平野和弥: トマトにおけるネコブセンチュウと萎ちょう症との複合病因による疾病

- 論的考察。千葉大園学報 32: 129-206. [トマト連作圃場における発病、品種による発病差異、線虫と菌の接種密度・時期(時差)と発病、接種方法・形態の違いと発病、混合感染の経過と複合病の発現、*Fusarium*菌の分化型と発病、根圏微生物の変化、感染組織浸出水の病原菌発育への影響。]
40. 平野和弥・雨宮良幹・飯田 格・山本雅子: トマトの根に対するサツマイモネコブセンチュウの加害と2種病原菌の定着、侵入についての走査顕微鏡観察。27回応動昆大会講要: 161. [講要]
41. 平田賢司・湯原 巖: 関東地方のケヤキから発見された*Longidorus martini*について。27回応動昆大会講要: 157. [講要]
42. 広瀬海晴・山下優勝: 兵庫県における黒点米の発生実態。兵庫農総七研報 31: 45-48. [県北部に多。品種間差不明。県南部では線虫の生息数と黒点米混入率に正の相関。]
43. 細野隆次: 線虫*Caenorhabditis elegans*の生物学: 移動運動にかかわる遺伝子。遺伝 37巻6: 13-18. [VNC形成にどのように細胞は参加するのか。マヒ性突然変異。]
44. 井口慶三・百田洋二・稲垣春郎: 筑波におけるダイズシストセンチュウの発生消長。関東病虫研報 30: 187-188. [年 3-4世代。]
45. 井口慶三・百田洋二・稲垣春郎: 抵抗性品種、非寄主作物によるダイズシストセンチュウ密度抑制効果。関東病虫研報 30: 190-191. [両者の効果は同程度。]
46. 飯島 勉: トマト半身萎ちょう病に関する研究。東京農試研報 16: 63-128. [サツマイモネコブセンチュウ、キタネグサレセンチュウと*Verticillium*, *Fusarium*菌との関係 p.94-103. 抵抗性品種は線虫存在下でも安定した抵抗性を発揮。]
47. 稲垣春郎: ダイズシストセンチュウのレースと抵抗性品種。今月の農薬 27 巻8: 16-20. [国内のレースと分布、抵抗性の機作・発生機構、抵抗性品種の重要性。]
48. 稲垣春郎: 線虫におけるレースの諸問題: ダイズシストセンチュウを中心として。関東病虫研報 30: 10-13. [反応の機作、用語、ダイズシストセンチュウのレース、レース発生機構、抵抗性品種。]
49. 稲垣春郎・百田洋二: 線虫抵抗性サツマイモ品種によるサツマイモネコブセンチュウの防除とその効果の持続性。関東病虫研報 30: 183-184. [1作することにより翌年の感受性品種の線虫害軽減。]
50. 稲垣春郎・百田洋二: サツマイモの塊根異常症と線虫との関連。関東病虫研報 30: 185-186. [褐色さび症、褐色ひび割れは線虫と直接の関係なし。]
51. 石橋信義: 線虫による害虫防除。遺伝 37巻6: 31-35. [シヘンチュウの真性寄生、*Deladenus* による偽産卵、線虫 (*Neoaplectana*, *Heterorhabditis*) の共生細菌による昆虫の死、害虫防除への問題点。]
52. 石橋信義: ネコブセンチュウにおける種族維持方式の一考察。27回応動昆大会講要: 161. [講要]
53. 石橋信義・近藤栄造: Biotic and abiotic factors affecting nematodes and other soil fauna. IVth ICPP, Abstracts of papers: p. 49. [講要]
54. 石橋信義・近藤栄造・伊藤整志: Effects of application of certain herbicides on soil nematodes and aquatic invertebrates in rice paddy fields in Japan. Crop Protect. 2(3) 289-304. [4種除草剤の水田施用と土壌線虫・水棲無脊椎動物に対する影響。イネネモグリセンチュウは増加、捕食性線虫は激減。]
55. 石井克明・古越隆信・近藤楨二: クロマツ×タイワンアカマツ雑種の枝条に含まれるモノテルペン。林木の育種(特別号): 29-32. [含有量による抵抗性木決定は困難。]
56. 石井克明・栗延 晋・古越隆信: クロマツ×タイワンアカマツ雑種 F<sub>1</sub>, F<sub>2</sub> 及び B<sub>1</sub>等のマツノザイセンチュウ抵抗性。94回日林大会講要: 81; 94回日林論: 245-247.

- [樹種間に著しい有意差。遺伝についても論ずる。]
57. 石川元一・渡辺耕造：輪作とダイズシストセンチュウ密度。関東病虫研報 30:189。  
[野菜2作または2年休閑により被害軽減。]
58. 伊丹 清・坂口 進：ツツジの連作障害に関する研究（第1報）ポット育苗による障害の再現及び対策技術の探索。園芸学会昭58春研発表要旨：332-333。[講要。少数のネグサレセンチュウを検出したが、原因ではない。]
59. 柏 司・石川昌哉・首藤義博・金子 章・渡辺博恭：マツノザイセンチュウ抵抗性と $\beta$ -ミルセン含量の相関について。94回日林大会講要：154。[講要]
60. 川村 満・気賀沢和男：イネシנגレセンチュウ (*Aphelenchoides besseyi* Christie) による傷害米の発生経過。四国植防 18: 45-52。[経過の記載およびカラー写真による図示。]
61. 岸 洋一：茨城県内の市街地、工場敷地面積率とマツ枯損状況。茨城病虫研報 22: 35-38。[マツ枯損は大気汚染と無関係に進行する。]
62. 鬼頭研二：Deep-sea nematodes of Mindanao Islands, the Phillipines. I. Draconematidae. Annot. Zool. Japon. 56(1) 27-41。[フィリピン沖の深海から新属新種 *Cephalochaetosoma pacificum*, *C. uchidai* を発見。記載。]
63. 清原友也：マツ材線虫病に対する抵抗性の誘導：抵抗性誘導におよぼす前接種密度の影響。日林九支研論 36: 191-192。[300 頭以上接種時に生存率有意に高い。]
64. 清原友也・橋本平一・藤本吉幸：マツノザイセンチュウの病原力の変異。日林九支研論 36: 189-190。[線虫の系統により違いがある。]
65. 清原友也・河辺祐嗣・紺谷修治：種内交配によるマツノザイセンチュウの病原力の変化。94回日林大会講要：147。[講要]
66. 小林亨夫・佐々木克彦：マツ材線虫病の周辺：根系糸状菌・材中糸状菌（I）。森林防疫 32(9) 162-168。[松枯れの研究の中で調査された菌類の種類とその接種試験結果に関する未発表データのまとめ。]
67. 小林亨夫・佐々木克彦：マツ材線虫病の周辺：根系糸状菌・材中糸状菌（II）。森林防疫 32(10) 182-187。[特に青変菌についての試験結果。]
68. 小林義明：シャクヤクの病害虫とその防除。農業技術研究 37巻8: 50-52。[ディブテレックス、ランネートによるユリセンチュウ、ハガレセンチュウ防除を含む。]
69. 古賀成司・小代寛正：秋ダイズに対するサツマイモネコブセンチュウ及びジャワネコブセンチュウの寄生性。九病虫研会報 29: 136-137。[ダイズ（フクユタカ、アキヨシ）に対する寄生と増殖は前者線虫が後者より明らかに少なかった。]
70. 小久保 醇・松井 均：第17回森林動物シンポジウム “東北地方におけるマツ材線虫病の特徴と問題点”。日林誌 65(10) 392-396。[次の講演要旨と討論のあらまし。庄司次男：マツノザイセンチュウとマツノマダラカミキリの分布と特徴；志水勝彦：マツの枯損動態の特徴；滝沢幸雄：マツノマダラカミキリの生態上の特徴；在原登志雄：防除の実態と問題点；佐藤平典：感染源としての諸要因。]
71. 近藤栄造・石橋信義：昆虫寄生性線虫 *Neoplectana carpocapsae* (DD-136) のハスモヨトウ幼虫への侵入と发育。九病虫研会報 29: 111-114。[線虫はヨトウ幼虫に経口的に侵入、血体腔において发育。線虫接種24時間で幼虫は運動性を停止した。]
72. 近藤栄造：マツノザイセンチュウの生態と構造的特徴。遺伝 37巻6: 24-29。[生育ステージ別の表皮・内部形態の変化とその意味。]
73. 近藤栄造・石橋信義：マツノザイセンチュウ耐久型4期幼虫の发育と脱皮。27回応動昆虫大会講要：165。[講要]
74. 近藤秀明：数種の針葉樹に対するマツノザイセンチュウの病原性。森林防疫 32

- (12) 221-225. [カラマツ、ヒメコマツ、ヒマラヤスギでは枯損。モミ、アカトドマツ、オウシュウトウヒでは部分枯れ発生。]
75. 草葉敏郎・作山 健：堆肥の連年施用試験：ネグサレセンチュウの生息密度について。日林東北支誌 35: 85-86. [施用により線虫密度低下。]
76. 桑原保正：マツノザイセンチュウ捕捉菌の生産する生態活性物質の単離と同定。  
In: マツノザイセンチュウ捕捉菌による線虫の捕捉機構とその有効物質に関する基礎的研究。昭和57科学研究費補助金（一般研究A）研究成果報告書。p. 70-78. [抽出条件、ガスクロマトグラフィ分析結果。大量培養・抽出同定は困難。]
77. 桑原保正：殺線虫性森林土壌糸状菌 *Phomopsis* sp. No.30 に含まれる殺線虫物質の検索。同上。p. 79-83. [抽出・分析結果。]
78. Linit, M. J.・近藤栄造・Smith, M. T. : Insects associated with the pinewood nematode, *Bursaphelenchus xylophilus* (Nematoda: Aphelenchoididae) in Missouri. *Env. Ent.* 12(2) 467-470. [アメリカではマツノザイセンチュウを7種の鞘翅目昆虫が運ぶ。*Monochamus carolinensis* では1頭当たり平均19,152頭の線虫を検出。]
79. 前田敏機：マツノザイセンチュウ抵抗性松供給特別対策事業。林木の育種 129: 7-8. [趣旨、概要。]
80. 牧野孝宏：施設野菜の土壤消毒法。農業技術研究 37巻7: 33-35. [クロルピクリン、夏季ハウス密閉の効果。]
81. 真宮靖治：Pathology of the pine wilt disease caused by *Bursaphelenchus xylophilus*. *Ann. Rev. Phytopathol.* 21: 201-220. [材線虫の病原性、線虫の行動と病気の伸展、線虫の生活史、病気の発現と環境、分布。]
82. 真宮靖治：The effect of wood tissues on the molting rate of the dauerlarvae of *Bursaphelenchus xylophilus*. 日線虫研誌 13: 6-13. [針葉樹・広葉樹17種の枝組織抽出物質およびアセトン抽出液によるマツノザイセンチュウ耐久型幼虫の脱皮促進効果はマツ属とカラマツで最高、広葉樹でも効果。マツ属の種間に有意差なし。]
83. 真宮靖治：ニセマツノザイセンチュウのクロマツ当年苗に対する病原性。94回日林大会講要：148. [講要]
84. 真宮靖治：マツノザイセンチュウの axenic culture (予報)。27回応動昆大会講要：164. [講要]
85. 真宮靖治：Pathological aspects of pine wilt disease caused by the pine wood nematode (*Bursaphelenchus xylophilus*). IVth ICPP, Abstracts of Papers, p. 84. [講要]
86. 真宮靖治・林 良興：マツノザイセンチュウの大量培養と代謝産物の性質 第2報。日植病報 49(3) 399-400. [講要]
87. 真宮靖治・田村弘忠：昆虫寄生性線虫 *Steinernema feltiae* のマツノマダラカミキリに対する寄生性と致死効果。35回日林関東支論：163-164. [48時間以内に高い死亡率。蛹室内のカミキリもほとんどが死亡。]
88. 松浦邦昭：マツノザイセンチュウ防除単木処理剤の作用機作（I）酒石酸モランテル剤がしめすクロマツ苗樹体内への線虫の侵入阻止効果。27回応動昆大会講要：165. [講要]
89. 松浦邦昭：浸透性殺虫剤の立木注入によるマツ材線虫病罹病木の治療（II）。94回日林大会講要：153. [講要]
90. 松浦邦昭：樹幹注入剤：マツノザイセンチュウ防除新技術。山林 1185: 54-55. [有効成分、作用。]



91. 松浦邦昭・深見悌一・柏 司：動物用駆虫剤モランテルの有機塩類の樹幹注入によるマツノザイセンチュウ防除試験(Ⅲ)。日農薬学会8回大会講要：112。[講要]
92. 皆川 望：Descriptions of two new species of nematode genus *Trophonema* Raski, 1957 (Tylenchida: Tylenchulidae). Appl. Ent. Zool. 18(1) 90-97. [本属の再定義および *T. okamotoi* (茨城県のコマツナギから)、*T. asoense* (熊本県阿蘇山のアブラガヤから) の2新種の記載。]
93. 皆川 望：日本産トゲワセンチュウ亜科の新属について。27回応動昆大会講要：158。[講要]
94. 峰尾一彦：マツノマダラカミキリからマツノザイセンチュウの離脱と樹体内侵入(第2報)。34回日林関西支講：259-261。[離脱はカミキリ羽化後 10-20日後。後食部以外からも侵入。]
95. 三井 康：わが国における線虫捕食菌の種類と防除および生理・生態に関する研究。農技研報 C 37: 127-211。[研究史、菌の種類(31種の記載・図)、畑地・林地での分布、畑・施設栽培・果樹園の菌の種類と密度、捕捉活性、菌を利用した線虫防除。]
96. 三井 康：Corynespora (ダイズ根腐病菌)：病原と発生生態。In: 北海道畑作物の土壤病害。同刊行会、札幌、p. 277-282。[病徴、菌の形態と培養性質、病原性・発病条件、線虫との関連(キタネグサレセンチュウと菌との複合病害)。]
97. 三井 康・清水 啓・本間健平：ダイズシストセンチュウ抵抗性品種「スズヒメ」における線虫相の変動。27回応動昆大会講要：160。[講要]
98. 百田洋二：*Meloidogyne mali*の寄主および形態に関する2、3の知見。27回応動昆大会講要：162。[講要]
99. 百田洋二・稲垣春郎：岩手、宮城、栃木、山梨、兵庫、熊本のダイズシストセンチュウのレース。関東病虫研報 30: 192。[岩手、山梨はレース1、他はレース2。]
100. 百田洋二・稲垣春郎・井口慶三・遠山 操：ダイズシストセンチュウ密度に及ぼす抵抗性品種および非寄主作物の影響。27回応動昆大会講要：166。[講要]
101. 森 格良・宇都宮東吾：線虫のシイタケ害菌防除機能の解明。愛媛林試研報 8: 123-130。[Aphelenchoides属線虫の検出結果。]
102. 森 徳典・井上敏雄：マツノザイセンチュウ接種苗の幹の呼吸。94回日林大会講要：104；94回日林論：307-308。[時には接種24時間以内に異常発生。]
103. 諸岡信久：「松枯れ」はセン虫害ではなくカビの害。現代農業 62巻6: 46-47。[青変菌説の紹介。]
104. 諸岡信久・角田 廣・辰野高司：マツの立ち枯れ病に関与する糸状菌類の研究。防菌防黴 11(7) 423-431。[Phomopsis sp. 菌。立枯木のマイクロフローラ、アカマツ苗木に対する菌の侵入・増殖、菌の代謝生産物の検討、Phomopsis sp. の生産するcellulaseの検討。]
105. 長瀬 淳・桑原保正・富永康平・須賀原亮三：Nematicidal activity of N-substituted and N, N-disubstituted alkylamines against the pine wood nematode, *Bursaphelenchus xylophilus*. Agr. Biol. Chem. 47(1) 53-58. [N-置換、N,N-ジ置換アルキルアミン類33化合物中9化合物が2 ppm 以下で殺線虫活性を示した。]
106. 内藤 豊：マツノザイセンチュウの行動。In: マツノザイセンチュウ捕捉菌による線虫の捕捉機構とその有効物質に関する基礎的研究。昭和57科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書。p. 84-95。[基本的行動と反応パターン、ガラス細管内の行動、急性反応(オレイルアミン、1モノオレイン、捕殺菌抽出物)、選択性と分布。]
107. 中川茂子：マツノザイセンチュウの死亡個体と生存個体の分離方法等の検討。94回日林大会講要：148；94回日林論：465-466。[濾紙を用いた生存線虫の分離と薬剤

浸漬試験。]

108. 中園和年：日本産 *Rotylenchulus reniformis* Linford and Oliveira, 1940 の形態および生理・生態的変異に関する研究：両性生殖型と単為生殖型個体群の地理的分布との関連性。農技研報 C 38: 1-67. [地理的分布、圃場内分布、形態の比較、雄の出現率、雄の役割、雄の性的誘引および個体群間の誘引度の差異、環境要因と发育、個体群間の寄主選好性の差異。]
109. 中園和年：トマトに寄生した単為生殖系統 *Rotylenchulus reniformis* の成長と産卵。日線虫研誌 12: 21-25. [雌の体長と体幅は階梯型の成長曲線、平面画像面積はS字型曲線、産卵数は68個以上。]
110. 中園和年：九州地域における線虫の被害と防除上の問題点。九州農業研究 45: 10-11. [畑作および野菜作でネコブ、ネグサレセンチュウが生産阻害要因として重要。薬剤・耕種的防除上、留意すべきことと、解決すべき問題点を概説。]
111. 中園和年：九州地域におけるセンチュウ問題：過去と現在。今月の農薬 27巻12: 68-73. [戦前、昭和20・30年代、最近の話題。線虫密度と被害発現。]
112. 中園和年・大島康臣・皆川 望：線虫害の特徴と薬剤にたよらない防除法。九州農試年報 昭57: 35-38. [輪作の効果、線虫の密度・土性と線虫害の出方、被害回避のための要防除密度水準。]
113. 中園和年・佐野善一・荒城雅昭：南九州の主要土壌型と線虫による作物の被害。27回応動昆大会講要：160. [講要]
114. 中里広幸・内藤 豊：マツノザイセンチュウに対する誘引活性の測定。動雑 92(4) 651. [講要]
115. 西沢 務：線虫による農作物の被害。遺伝 37巻10: 73-82. [研究史、種類と主な特徴、寄生・加害の様態と作物の被害。]
116. 西沢 務：天敵による土壌線虫防除の可能性。農林水産研究ジャーナル 6巻7: 22-28. [寄生性天敵（ウイルス、リケッチア、細菌、糸状菌、孢子虫類）、捕食性天敵の最近の情報。]
117. 西沢 務・Herman, M. : ジャワ島におけるダイズ圃場の有害線虫相：特にシストセンチュウの一種について。27回応動昆大会講要：158. [講要]
118. 小芦健良：サトイモのネグサレセンチュウに関する研究 第2報 2、3の輪作作物について。九病虫研会報 29: 124-126. [ラッカセイ、マリーゴールドに加え、ステビアのネグサレセンチュウ防除効果を認めた。]
119. 小川義雄・大島康臣・一戸 稔：*Globodera hypolisi* n.sp., a mugwort cyst nematode from Japan. 日線虫研誌 12: 41-46. [ヨモギに寄生するシストセンチュウを新種として記載。*G. artemisiae*, *G. achilleae* に近似。模式産地は長崎県吾妻町。]
120. 小倉健夫・岸 洋一・近藤秀明・海老根翔六：数種のマツ科樹木に対するマツノザイセンチュウの病原性。94回日林大会講要：149； 94回日林論：467-468. [カラマツ、ヒメコマツ、ヒマラヤスギで枯損発生。]
121. 岡本好一・八重樫隆志・樋田幸夫：リンゴネコブセンチュウ (*Meloidogyne mali*) の個体群間の形態的差異。日線虫研誌 12: 26-32. [長野県のリンゴ、その他産地のクワのリンゴネコブセンチュウ6個体群の会陰紋、第2期幼虫体長、尾長、幼虫と雄成虫の正面像を比較。東京杉並個体群が特異な形態を示した。]
122. 岡本 将・山中 啓：*Arthrobotrys* sp. の生産するレクチンの精製とその性質。日農化昭58大会講演集：63. [未見。講要。]
123. 奥 八郎・田村弘忠・Dropkin, V. H.・Bolla, R. : マツノザイセンチュウに対するマツの抵抗性機構について。日植病報 39(3) 400. [講要]

- 1 2 4. 大羽克明：非燻蒸性線虫防除剤に対する *Caenorhabditis elegans* の反応。27 回応動昆虫大会講要：166。〔講要〕
- 1 2 5. 大羽克明：線虫 *Caenorhabditis elegans* の生物学：耐久型幼虫の発現機構。遺伝 37 巻 6：19-23。〔発現条件、誘起要因、農学的ならびに生態学的意義。〕
- 1 2 6. 大庭喜八郎・藤本吉幸・古越隆信・岡田 滋・小笠原健二：マツノザイセンチュウ抵抗性育種。育種学最近の進歩 24：90-101。〔育種の進め方、種類・系統による抵抗性の違い、雑種、抵抗性の要因、育種の技術開発、育種事業、品種の育成及び供給。〕
- 1 2 7. 大林延夫：D-D油剤とダゾメット粒剤の組み合わせによるダイコンキタネグサレセンチュウの防除。神奈川園試研報 30：81-84。〔前者15ℓ/10a、後者同10kgで安定した高い効果。〕
- 1 2 8. 大山浪雄・白石 進・福島 勉・知念正義：材線虫病抵抗性マツつぎ木クローンにおける抵抗性要因の解析。日林九支研論 36：105-106。〔線虫の増殖が抑制される。〕
- 1 2 9. 佐保春芳：近畿・中国・四国地区のマツ枯れ防除実験：樹幹注入剤7751とPC-3203について。林業と薬剤 85：16-20。〔各県の試験結果を表として示す。〕
- 1 3 0. 斉藤 諦：松の枯損防止新技術に関する総合研究（第I報）。山形林試研報 13：69-76。〔侵入、定着、被害、線虫の検出状況。〕
- 1 3 1. 斉藤 諦：山形県におけるマツの材線虫病について。森林防疫 32(2) 32-34。〔県内分布、標高と分布、樹体内の分布状況。〕
- 1 3 2. 作山 健・千田寿光：岩手県における材線虫病によるマツの枯損時期：枯損木材片の線虫分離結果から。日林東北支誌 35：137-138。〔当年枯44%、年越し枯れ56%。〕
- 1 3 3. 佐野善一・中園和年・荒城雅昭：数種対抗植物における線虫密度抑制機構：サツマイモネコブセンチュウの侵入及び発育反応。九病虫研会報 29：132-136。〔8種の植物根への線虫の侵入数と侵入後の発育は異なった。殺線虫機作は植物により違った。〕
- 1 3 4. 佐野善一・中園和年・荒城雅昭：上層と下層土壤に棲息する *Meloidogyne incognita* 幼虫の生理的活力のちがい。27回応動昆虫大会講要：167。〔講要〕
- 1 3 5. 佐々木 浩：樹幹注入等によるマツノザイセンチュウ防除試験 第4報 徳島林総技七研報 21：103-111。〔ネマホス、テラキュアP、ダイシストン、サイアノックス等の効果の比較。新化合物のスクリーニング。〕
- 1 3 6. 佐々木 浩：樹幹注入等によるマツノザイセンチュウ防除試験（治療効果試験）。徳島林総技七研報 21：112-114。〔7751液剤（ネマノーン）の効果。〕
- 1 3 7. 佐々木 研・古越隆信・河村嘉一郎・田島正啓・岡田 滋・津田知明：クロマツのマツノザイセンチュウ抵抗性に関する2、3の遺伝的情報。34回日林関西支講：179-183。〔抵抗性遺伝子は少なくとも2対。ダイアレルクロスでは抵抗性と感受性の組み合わせで抵抗性が強化された。〕
- 1 3 8. 佐々木 研・河村嘉一郎・田島正啓・古越隆信・岡田 滋・津田知明・小林玲爾・赤松陽一：二葉松類の戻し交雑と三種間交雑：マツノザイセンチュウに対する抵抗性。94回日林大会講要：82；94 回日林論：251-252。〔抵抗性の遺伝子は優性で複数。〕
- 1 3 9. 佐々木 研・田島正啓・河村嘉一郎・岡田 滋・古越隆信・津田知明・小林慎一・片山重俊：クロマツとタイワンアカマツとの F<sub>1</sub> 雑種間の交雑（II）マツノザイセンチュウに対する抵抗性。94回日林大会講要：82；94回日林論：249-250。〔タイワンアカマツの抵抗性遺伝子は優性。〕
- 1 4 0. 佐藤平典：カラフトヒゲナガカミキリの羽化・脱出時期及び寄生部位。94回日林論：487-488。〔5月下旬から6月中旬に羽化・脱出。枝の付け根部分に多。〕
- 1 4 1. 佐藤仁彦：土壤中におけるEDB（二臭化エチレン）の拡散。27回応動昆虫大会講要：159。〔講要〕

- 1 4 2. 佐藤邦彦：林業苗畑の病害防除。今月の農薬 27巻6: 16-21. [根腐線虫病。根瘤線虫病の解説を含む。]
- 1 4 3. 佐藤俊次：イチゴ根腐萎凋症の発生と薬剤による防除。今月の農薬 27巻7: 90-97. [クルミネグサレセンチュウ防除。ネマエイト、アドバンテージ灌注が効果。]
- 1 4 4. 佐藤俊次・冨来 務・狭間 渉・衛藤靖之：イチゴ根腐萎ちょう症に対する薬剤の防除効果。九州農業研究 45: 104-105. [親床、仮植床および本圃におけるクルミネグサレセンチュウのアドバンテージ乳剤およびネマエイト乳剤による防除効果は高く、本圃での萎凋症発生をよく抑制。]
- 1 4 5. 佐藤俊次・冨来 務・狭間 渉・衛藤靖之：イチゴ根腐萎ちょう症に対する薬剤の防除効果。日植病報 49(1) 85. [講要]
- 1 4 6. Sirayama, Y.: Size structure of deep-sea meio- and macrobenthos in the western Pacific. Internat. Rev. Gesamt. Hydrobiol. 68(6) 799-810. [未見。西部太平洋における深度と底棲中型・大型動物相の変化の関係を調査。線虫を含む。]
- 1 4 7. 宍田幸男：Studies on nematodes parasitic on woody plants. 2. *Xiphinema Cobb*, 1913. 日線虫研誌 12: 1-14. [明治神宮境内林の樹木から検出した次のオオハリセンチュウ5種の形態を記載。*X. incognitum* (従来わが国で*X. americanum*と見なされていた種類)、*X. chambersi*, *X. simillimum*, *X. bakeri*, *X. insigne*。]
- 1 4 8. 小代寛正：作物結合による畑地の高度利用技術。実用化技術レポート 昭57: 223-242. [施設スイカの連・輪作とネコブセンチュウの発消長を含む。]
- 1 4 9. 庄司次男：観賞緑化樹木の病害 [29] カンバ類根こぶ線虫病。農及園 58(11) 口絵。[サツマイモネコブセンチュウ。その寄主植物、防除法の解説。]
- 1 5 0. 庄司次男・陳野好之・早坂義雄・尾花健喜智：クロマツに対するマツノザイセンチュウの時期別接種試験。94回日林大会講要: 152; 94回日林論: 475-476. [8月下旬以降接種では年内に枯損せず。]
- 1 5 1. 周藤靖雄：島根県におけるクロマツ庭園木の病害：その被害、診断、病原菌、および防除法。農業研究 30巻2: 16-21. [材線虫病を含む。]
- 1 5 2. 周藤靖雄・井上二郎・原 綾雄：島根県の林業苗畑における土壌線虫の被害実態調査(Ⅲ)。島根病虫研報 9: 7-11. [スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ苗畑からの検出線虫(4属5種)、分布、被害。]
- 1 5 3. 首藤義博・渡辺博恭：マツノザイセンチュウ分散型4期幼虫に対する松成分の誘引・脱皮促進作用。日農化昭58大会講要: 126. [未見。講要。]
- 1 5 4. 鈴木和夫・峰尾一彦・山田利博：材線虫病におけるマツの水ストレスと樹体中での線虫の動態。日植病報 39(4) 400. [講要]
- 1 5 5. 鈴木幹男：松枯れの真因に関する新発見。27回応動昆大会講要: 163. [講要。サヒカミキリ原因説。]
- 1 5 6. 田畑勝洋：マツの枯損防止のために使用される農薬と諸問題。今月の農薬 27巻6: 22-30. [地上散布・空中散布・被害木の駆除薬剤・誘引剤の主成分、毒性、使用方法、散布量、作用特性、商品名。]
- 1 5 7. 田畑勝洋・西村鳩子・椎葉豊之：合成ピレスロイド系化合物のマツノザイセンチュウに対する追い出し(フラッシング)効果の検討。35回日林関東支論: 179-181. [Fenvalerateのマツノザイセンチュウに対する追い出し効果の可能性を示唆。]
- 1 5 8. 田淵尚一・坂本 敏：カンショ品種のサツマイモネコブセンチュウ抵抗性と線虫密度との関係。九病虫研会報 29: 126-129. [抵抗性品種の根への線虫侵入数は感受性・抵抗性中位の品種より少ない傾向。土壌中の線虫密度は抵抗性品種の栽培で抑制可能。]
- 1 5 9. 田伏 洋・三輪錠司：A gene involved in action of tumour is identified

- and mapped in *Caenorhabditis elegans*. *Carcinogenesis* 4(6) 783-786. [未見]
160. 田伏 洋・三輪錠司：線虫*Caenorhabditis elegans*の生物学：発生遺伝学。遺伝 37巻6: 4-12. [遺伝解析に対する適性、線虫の構造、胚発生(細胞分化のパターン、細胞の再配列、細胞死、細胞分化、胚発生における調節能、形態形成)、胚発生異常突然変異。]
161. 竹下 努：鳥取県のマツ林枯損状況。鳥取林試研報 26: 63-80. [年推移、時期別枯損発生と原因、県下の枯損動態、薬剤防除と枯損。]
162. 滝沢幸雄・庄司次男：寒冷地帯におけるマツ枯損およびマツノマダラカミキリの生態とその特徴。森林防疫 32(6) 96-102. [枯損の特徴(発生時期、枝枯れ、感染源)、カミキリの生態の特徴。]
163. 滝沢幸雄・山家敏雄・早坂義雄・尾花健喜智：クロマツに対するマツノザイセンチュウの時期別接種試験：枯損木内の穿孔虫相。94回日林大会講要：152；94回日林論：477-478. [線虫接種の翌年枯れではマツノマダラカミキリの寄生率減少。]
164. 田村弘忠：融合した根によるマツノザイセンチュウの感染。27回応動昆大会講要：163. [講要]
165. 田村弘忠：Pathogenicity of aseptic *Bursaphelenchus xylophilus* and associated bacteria to pine seedlings. 日線虫研誌 13: 1-5. [無菌線虫はマツの幼木だけでなく、3年生苗木も枯らし、関連細菌の濾液はマツ幼苗だけに毒性。]
166. 田村弘忠：ミズーリ便り：マツノザイセンチュウを追って(8)。森林防疫 32(2) 35-36.
167. 田村弘忠：ミズーリ便り：マツノザイセンチュウを追って(9)。同 32(3) 54-56.
168. 田村弘忠・Dropkin, V. H. : Jeffrey pineの苗におけるマツノザイセンチュウの動きと寄生反応。94回日林大会講要：147. [講要]
169. 田中秀夫：マツノザイセンチュウ捕捉菌の液内培養法による殺線虫活性物質の生産。In: マツノザイセンチュウ捕捉菌による線虫の捕捉機構とその有効物質に関する基礎的研究。昭和57科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書。p. 35-51. [*Arthrobotrys* sp.。接種孢子量、増殖温度、初発pH、振盪条件、栄養要求性、大量培養、殺線虫物質の生産、菌糸の育生、マツノザイセンチュウの無菌化。]
170. 田中秀夫・柘植信昭・川口光正・山中 啓：マツノザイセンチュウ捕捉菌の液内培養法について。日農化昭58大会講演集：398. [未見。講要。]
171. 田中寛康：ヨーロッパおよびアメリカで見たブドウの病害。今月の農薬 27巻8: 34-42, 口絵。[ファンリーフを含む。カラー写真で症状を示す。]
172. 田中 勇：土壌消毒を中心としたタバコ線虫病の防除について。今月の農薬 27巻5: 52-57. [クロルピクリン施用効果、植付時ネコブセンチュウ密度と収穫時ネコブ指数の関係。]
173. 戸田忠雄・藤本吉幸・前田武彦・西村慶二：外国産マツ類等みしょう家系のマツノザイセンチュウ抵抗性。日林九支研論 36: 103-104. [マツの抵抗性の種内および種間変異。]
174. 樋田幸夫：Criconeematidae (Nematoda: Tylenchida) from soil around roots of mulberry in warm climate regions of Japan, with descriptions of two new species. 日線虫研誌 13: 14-19. [クワ園土壌から2新種(*Nothocriconeema yakushimense* : 鹿児島県屋久島から；*Ogma brevistylum*: 神奈川県南部から)と*Hemicriconemoides chitwoodi*, *Crossonema dryum* を記録。]
175. 樋田幸夫・大島康臣・平田明由：Description of *Gracilacus yokooi* n.sp. (Tylenchida: Paratylenchidae) from mulberry roots in Japan with some observ-

- ation on its ecology. 日線虫研誌 12: 15-20. [九州から Paratylenchus aciculus として報告されていた種類 (No.70-169) を未記載の別種として記載。土壤中の垂直分布、生態も記述。]
176. 樋田幸夫・山下忠明: ネコブセンチュウ加害桑樹における32P-リン酸の吸収・移行. 日蚕関東支講要 34: 5. [講要]
177. 富永康平・長瀬 淳・桑原保正・須賀原亮三: Behaviour responses of Bursaphelenchus lignicolus (Nematoda: Aphelenchoididae) to bitter and pungent substances. Appl. Ent. Zool. 18(1) 106-110. [マツノザイセンチュウに対し19化合物のうちアリルイソチオシアナート、ナリンジエニン、L-チロシン、L-トリプトファン、塩化カルシウムが誘引性。カプサイシン、塩化マグネシウムが忌避性。他の4種物質は中程度の致死作用。]
178. 富永康平・長瀬 淳・桑原保正・須賀原亮三: 苦味および辛味物質に対するマツノザイセンチュウの行動的応答. 27回応動昆虫大会講要: 164. [講要]
179. 富永康平・山本雅之・桑原保正・須賀原亮三: テルペンに対するマツノザイセンチュウの応答. 日農化昭58大会講演集: 125. [未見。講要。]
180. 椿 啓介: 捕捉菌の検索と生態. In: マツノザイセンチュウ捕捉菌による線虫の捕捉機構とその有効物質に関する基礎的研究. 昭和57科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書. p. 1-16. [Arthrobotrys sp. (未記載種)。形態、生態(松樹幹からの再分離、線虫捕捉能の安定性、「松枯れ」松落葉上の菌類遷移。]
181. 渡辺博恭・石川昌哉・首藤義博: マツ中に含まれるマツノザイセンチュウ誘引物質について. 94回日林大会講要: 154. [講要]
182. 渡辺博恭・首藤義博・日野出裕二: マツノザイセンチュウ抵抗性へのβ-ミルセンの生物活性の関与. 94回日林大会講要: 155. [講要]
183. 渡辺丈夫・樋田幸夫: 香川県の桑園線虫相. 香川農試研報 35: 61-65. [ピンセンチュウ (P. elachistus, G. yokooi) が高い検出率。他にラセンセンチュウ等。]
184. Wingfield, M. J.・Blanchette, A.・近藤栄造: Comparison of the pine wood nematode, Bursaphelenchus xylophilus from pine and balsam fir. Eur. J. For. Path. 13(5/6) 360-373. [形態、接種試験結果、菌による増殖を比較。]
185. 八尋 健・大島康臣・中國和年・岩田岩保: 畑作物の連・輪作特性 1. サトイモの連作障害と薬剤および輪作作物の効果. 日作紀 52(別2) 50-51. [講要]
186. 八尋 健・中國和年・大島康臣・岩田岩保: 畑作物の連・輪作特性 2. サトイモの連作障害とミナミネグサレセンチュウ密度. 日作紀 52(別2) 52-53. [講要]
187. 八尋 健・中國和年・岩田岩保: 畑作物の連・輪作特性 1. サトイモの貯蔵性とミナミネグサレセンチュウ密度. 日作紀 52(別2) 54-55. [講要]
188. 山田利博・鈴木和夫・峰尾一彦: 針葉樹4属におけるマツノザイセンチュウ個体数の推移. 日植病報 49(3) 400. [講要]
189. 山口正己・吉田雅夫: モモのネグサレセンチュウ抵抗性台木の探索(第1報) 根部侵入抵抗性の検定について. 園芸学会昭58春研究要旨: 54-55. [講要]
190. 山口泰典・Murakami, M.・Furusawa, M.・三輪錠司: Germline-specific antigens identified by monoclonal antibodies in the nematode, Caenorhabditis elegans. Devel. Grow. Differ. 25(2) 121-131. [未見]
191. 山中 啓(研究者代表): マツノザイセンチュウ捕捉菌による線虫の捕捉機構とその有効物質に関する基礎的研究. 昭57科学研究費補助金(一般研究A)研究成果報告書. 103 pp. [内容は次の論文を参照。No. 83-76, 77, 106, 169, 180, 192, 193,

- 194, 195. ]
192. 山中 啓: マツノザイセンチュウ捕捉菌の線虫捕捉機能. 同上. p.17-34. [*Arthrotrichomyces* sp.の走査電子顕微鏡による捕捉機能の解明、捕捉菌の生産する認識物質の発見とレクチン活性、レクチンの生産条件・精製、精製レクチンの性質・糖類に対する特異性、レクチンによる捕捉。]
193. 山中 啓: 新殺線虫活性物質生産能を有する糸状菌の検索. 同上. p. 52-69. [森林土壌糸状菌によるマツノザイセンチュウの培養、殺線虫活性物質を生産する糸状菌の検索、生産のための培養条件の検討。]
194. 山中 啓: 線虫捕捉菌による松枯れの防除. 同上. p. 96-98. [菌散布法は幼木には効果を示した。]
195. 山中 啓: 沖縄県沖縄本島におけるマツノザイセンチュウ調査. 同上. p. 99-103. [マツからマツノザイセンチュウを検出。]
196. 吉田雅夫: モモのネコブセンチュウ抵抗性台木の育種. 育種学最近の進歩 24: 80-89. [連作障害、抵抗性台木の必要性、モモ・スモモの抵抗性台木の育種(遺伝、育成経過、特性)、在来種の系統選抜。]
197. 葭原敏夫: ネコブセンチュウの寄生能力持続期間と温度との関係. 九病虫研会報 29: 121-123. [ジャワネコブ、サツマイモネコブセンチュウではほぼ同じ期間寄生能力が持続し、20°Cでは小数ながら 413日、30°Cでは 278日。キタネコブセンチュウでは25°C以上で前2種より短かった。]
198. 葭原敏夫: キュウリにおける灌水量とネコブセンチュウの被害. 九州農業研究 45: 122. [土壌のpF値を 1.3程度に調節すると、線虫被害を軽減可能。]
199. 葭原敏夫: 土壌温度とネコブセンチュウ3種の寄生. 27回応動昆虫大会講要: 167. [講要]
200. 湯原 巖: 日本への侵入を恐れている病害虫: ミカンネモグリセンチュウ. 農業研究 30巻1: 49-54. [発見の由来、形態、生態、被害、寄主植物、分布、防除法、線虫の検疫。]
201. 湯原 巖・平田賢司: 改良型サイクロンによるシストセンチュウのシスト及びベントガラスセンチュウのゴールの分離・検出. 植防研報 19: 135-138. [分離法と効率。]
202. 陳野好之: 観賞緑化樹木の病害 [23] ナンキンハゼの根こぶ線虫病. 農及園 58(5) 口絵. [サツマイモネコブセンチュウ. その加害観賞樹木類、薬剤防除法の解説。]

### 昭和59年 (1984)

1. 安藤茂信・川野洋一郎・麻生賢一: マツノマダラカミキリ体内のセンチュウを駆除する一方法について (I) 日林九支研論 37: 209-210. [豚の駆虫剤(バスミンS)浸透効果。線虫は死滅せず一時的に麻痺。糞中からNeotylenchoidea 上科の線虫。]
2. 青木尊重・小河誠司・中島康博: 薬剤の単木処理によるマツノザイセンチュウ病防除試験. 日林九支研論 37: 165-166. [酒石酸モランテル、メスルフェンホスの効果。]
3. 荒城雅昭・中園和年・佐野善一: 九州地域のネコブセンチュウの分類・同定に関する問題点(続報). 28回応動昆虫大会講要: 157. [講要]
4. 在原登志男・斉藤勝男: 福島県におけるマツの枯損動態に関する研究 (I) マツの枯損時期とマツノザイセンチュウ検出率. 95回日林大会講要: 100; 95回日林論: 463-464. [月別の調査、年内枯れ34%、年越し枯れ66%。]
5. 在原登志男・斉藤勝男: 福島県におけるマツの枯損動態に関する研究 (II) マツの枯

- 枯時期とマツノマダラカミキリの寄生数. 95回日林大会講要: 100; 95回日林論: 465-466. [枯時期により寄生カミキリ数に差.]
6. 浅利 覚・内田 勉: リンドウネコブセンチュウ苗温湯処理による防除. 関東病虫研報 31: 186-187. [50°C10分が適当.]
7. 遠田暢男: Studies on transmission of Bursaphelenchus xylophilus by it's vector Monochamus alternatus. Program and Abstracts, First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984. p. 28; Proceedings, p.24-25. [講要]
8. 藤下章男: D-D剤によるマツクイムシ枯損木の冬期くん蒸処理. 日林中部支講 32: 277-278. [D-D、EDB剤のビニル被覆燻蒸によりマツノマダラカミキリは死亡、マツノザイセンチュウは生存.]
9. 深見悌一: 植物カルス組織によるマツノザイセンチュウの培養. 95回日林講要: 104. [講要]
10. 深見悌一: 林業薬剤: その利用実態と研究動向. 今月の農薬 28巻13: 63-70. [松枯損対策としての予防散布、枯損伐倒木処理、樹幹注入剤、誘引剤、その他の方法.]
11. 福沢晃夫・姉帯正樹・正宗 直: ダイズシストセンチュウのふ化物質. 植物防疫 38(3) 116-120. [活性検定法の確立、物質単離の経過、多量分離と活性確認、構造解析、類似化合物の単離. 著者等の研究成果を解説.]
12. 古野東洲・二井一禎: マツノザイセンチュウを接種したクロマツ×タイワンアカマツ (F<sub>1</sub>) の生育について. 95回日林大会講要: 103; 95回日林論: 477-478. [F<sub>1</sub> 雑種は線虫接種の影響が長く残る.]
13. 古野東洲・二井一禎・中井 勇: クロマツとタイワンアカマツの雑種F<sub>2</sub>、マンシユウクロマツ、カーシャマツとの雑種F<sub>1</sub> およびP. yunnanensisのマツノザイセンチュウに対する抵抗性. 日林関西支講 35: 154-157. [3雑種はすべてに線虫抵抗性.]
14. 古野東洲・大島誠一・上中幸治: マツ枯れ激害地: 白浜試験地における天然生アカマツ、クロマツの枯損と生存木について. 京大演習林報 56: 32-47. [1966-1984年の枯損推移. 残存木の樹種、直径等の調査結果.]
15. 二井一禎: マツノザイセンチュウ、ニセマツノザイセンチュウの樹体内動態とタンニン量の変化. 95回日林大会講要: 102; 95回日林論: 473-474. [線虫接種クロマツのタンニン成分の変化とその酸化酵素活性の変化量の差を調査.]
16. 二井一禎: 数種線虫の接種に対するクロマツ樹体内のタンニン量の動態. 28回応動昆大会講要: 161. [講要]
17. 二井一禎・吹春俊光: 萎凋病で枯死したPinus bungeanaの根際円板中に於ける線虫と微生物の分布. 日林関西支講 35: 158-161. [マツノザイセンチュウは辺材部にいる. 菌類との関連性は不明瞭.]
18. 後藤 昭: 浅間山麓・八ヶ岳山麓等の高冷地におけるネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウの検出種. 関東病虫研報 31: 178-179. [キタネコブ、キタネグサレセンチュウを検出.]
19. 後藤 昭: 高冷地におけるセンチュウの発生実態. 今月の農薬 28巻12: 18-21. [長野・山梨・大分・熊本の山地の検出線虫. 輪作のキタネコブセンチュウへの影響.]
20. 後藤 昭: ダイズを基幹とする畑作の新技術: 有害土壌線虫の防除. In: 地力維持・連作障害対策新技術 (総合農業研究叢書 第2号). 農林水産省農業研究センター、谷田部. p. 120-122. [種類、生態、防除.]
21. 後藤 昭: 野菜を基幹とする新技術: 神奈川県三浦半島野菜作地帯. 同上. p. 153-155. [ダイコン、スイカ栽培地帯. ネコブ、ネグサレセンチュウの被害と防除.]



22. 後藤 昭：野菜を基幹とする新技術：d. ダイコンの線虫害の防除。同上。p.209-213。[種類、生態、各種の防除技術の効果の紹介。]
23. 萩谷俊一・宇田川雄二：ネコブセンチュウ汚染土壌における各種台木スイカ苗の被害差異と実用性。関東病虫研報 31: 180-182。[共台の快傑、鬼台がスイカ台木に勝る効果。]
24. 平野和弥：パーミューダグラスから検出されるネコブセンチュウについて。28回応動昆虫大会講要：158。[講要]
25. 平野和弥：種々の土壌病害の見分けかた：5. 線虫病。In: 新版土壌病害の手引き(同編集委員会編)。日本植物防疫協会、東京、p. 58-61。[ネコブ、シスト、ネグサレセンチュウの被害の特徴を解説。]
26. 平野和弥：種々の病原の分離と同定：4. 線虫。同上。p. 116-118。[土壌、植物体からの線虫の分離法と植物寄生性線虫の形態の特徴の簡単な解説。]
27. 平野和弥：病原の生活環：3. 線虫。同上。p. 148-151。[定着性内部寄生の例としてネコブセンチュウ、移動性内部寄生の例としてネグサレセンチュウ、外部寄生線虫各種の生活史。]
28. 平野和弥：病原の生態と発病のしくみ：V. 線虫病。同上。p. 168-171。[生存能力、分散、感染源の密度(被害の発現との関係等)を解説。]
29. 平野和弥：病原の検出と定量：5. 線虫。同上。p. 245-246。[植物組織内の線虫の検出法、指標植物による線虫の検出法、線虫の定量(計数)法の解説。]
30. 平田賢司・湯原 巖：クロマツから検出したCryphodera属線虫の1種について。28回応動昆虫大会講要：157。[講要]
31. 本間善久・賀沢和男：Predation on larvae of plant parasitic nematodes by soil vampyrellid amoebae. 日線虫研誌 14: 1-7。[全国 183個の土壌標本にもとずく200以上のバンピレラ科アメーバ株を、代表的5群に分類し、Arachnula impatiens及びVampyrella voraxと同定した株による植物寄生線虫捕食法を観察し記載。]
32. 一戸 稔：北海道における線虫防除技術の進展。In: 北国における病害虫との闘い。北海道植物防疫協会、札幌、p. 57-64。[ダイズシスト、ジャガイモシスト、ネコブ、ネグサレセンチュウの防除技術と研究史。]
33. 一戸 稔：生物モデルとしてのセノラブチチス線虫。植物防疫 38(3) 121-124。[複雑な生命現象解明の生物モデルとして本線虫が使われている現状の解説。分類、形態、生活史、研究の成果と動向。]
34. 池田武文・須崎民雄：Influence of pine-wood nematodes on hydraulic conductivity and water status in Pinus thunbergii. 日林誌 66(10) 412-420。[症状の進行過程をマツの水分状態と木部の水分通導抵抗性の変化から明らかにし、この変化を解剖学的に裏付けた。]
35. 稲垣春郎：Studies on the ecology and control of the potato cyst nematode, Globodera rostochiensis. 北海道農試研報 139: 73-144。[北海道のジャガイモシストセンチュウに関する研究のまとめ。侵入経路(日本・ペルーのクアノ調査)、動物(ニワトリ、ブタ)の摂食後のシストの生存、寄生性(Solanum 属他)、季節的密度変動、圃場内分布、シスト外卵・幼虫の生存、土壌温度と生存期間・増殖・雄の出現・雌の発育、増殖率、施肥とバレイショの生育・線虫の増殖、症状、被害と線虫密度、防除(抵抗性品種のスクリーニング、利用、輪作、D-D剤処理、それらの組み合わせ、寄生バレイショ処理)。]
36. 稲垣春郎：Nematodes harmful to crop production in Japan. In: Soilborne Crop Diseases in Asia (FFTC Book Series No. 26). p. 18-30。[重要線虫の種類、各

- 論、複合病害、防除。]
37. 井上悦甫：松くい虫(微害)発生地域におけるアカマツの枯損について。日林関西支講 35: 150-153. [時期別の枯損原因の調査。]
  38. 石橋信義：線虫による害虫の防除。植物防疫 38(3) 142-147. [殺昆虫性線虫、生活史、培養と保存、施用法、施用試験例、線虫による害虫防除への期待：農薬的利用の方向が主流。]
  39. 石橋信義・近藤栄造：土壌害虫に対する殺虫性線虫施用の可能性と問題点。九病虫研究会報 30: 180. [講要]
  40. 石橋信義・田中恵子・近藤栄造：The oviposition, gelatinous matrix production, and larval hatch of eggs in connection with the aging of *Meloidogyne incognita* adults females. Program and Abstracts, First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984. p. 45; Proceedings, p.39. [講要]
  41. 石井直明・Yanagisawa, N.・Shibata, F.・鈴木撃之：Effect of ultraviolet- and X-irradiation on embryo genesis of the free-living nematode, *Rhabditis tokai*: hatchability, morphogenesis and life span. Mech. Age. Devel. 25(1/2) 117-127. [未見]
  42. 石川昌哉・柏 司・金光桂二・渡辺博恭：マツノザイセンチュウ抵抗性のアカマツおよびクロマツの化学的識別と選抜および育種への応用。農薬学会9回大会講要：[講要]
  43. 伊藤立則：石狩浜の間隙動物の研究(予報)。ベントス研究会誌 26: 1-4. [未見。線虫を含む。]
  44. 岩木満朗：種々の土壌病害の見分けかた：4. 土壌伝染性ウイルス病。In: 新版土壌病害の手引き(同編集委員会編)。日本植物防疫協会、東京、p. 52-58. [線虫、菌によって伝搬されるウイルス(日本)の一覧表および解説。]
  45. 岩木満朗：土壌伝染性ウイルス病。同上、p. 165-168. [線虫によって伝搬されるウイルスの解説を含む。]
  46. 片桐一正・真宮靖治・島津光明・田村弘忠・串田 保：昆虫寄生線虫 *Steinernema feltiae* のマツ被害丸太への施用とマツノマダラカミキリ幼虫に対する致死効果。95回日林大会講要：104; 95回日林論：479-480. [樹皮表面への散布で、樹皮下・材内の幼虫も死亡。]
  47. 加藤喜重郎：物理的防除。In: 新版土壌病害の手引き(同編集委員会編)。日本植物防疫協会、東京、p. 184-189. [蒸気消毒、温湯土壌消毒、夏季ハウス密閉による土壌消毒の対象病害、効果を解説。]
  48. 加藤俊博・浅野峯男・有沢道雄・武井昭夫：土壌消毒後の土壌養分の動態に関する研究(第3報)施用窒素の形態及び有機物の施用効果。愛知農総試研報 16: 219-227. [蒸気消毒、クロロピクリン、D-D、臭化メチル施用。亜硝酸菌、硝酸菌の回復および堆肥牛糞堆肥、微生物活性堆肥等の施用との関係。]
  49. 菊池 実・阿部芳彦：昆虫寄生性線虫によるキボシカミキリ防除の可能性。35回日蚕関東支講要：9. [講要]
  50. 岸 洋一：乾燥性土壌におけるマツ枯損。茨城病虫研報 23: 11-12. [マツのマツノザイセンチュウ抵抗性低下。]
  51. 清原友也：マツ材線虫に対する誘導抵抗性、抵抗性誘導性の樹種間比較。日林九支研論 37: 171-172. [アカマツ、テーダマツ等でも実証。線虫が検出される例は少なくなかった。]
  52. 清原友也：Cross-protection in pine wilt disease. Program and Abstracts,

- First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984. p. 52.  
 [講要。講演取消となった。]
53. 清原友也：線虫の配偶行動。植物防疫 38(3) 111-115. [研究手法、配偶行動、性誘引とその配偶行動における役割について内外の知見を紹介し、マツノザイセンチュウによる著者の研究を示す。]
54. 清原友也・河辺祐嗣：マツノザイセンチュウの病原力の変異：クロマツおよびアカマツ母樹別系統の接種試験。日林九支研論 37: 169-170. [病原力の弱い系統の線虫によって枯損するマツの系統があった。]
55. 小波本直忠・泉 保男：The nematocidal effect of metal ions on the pine wood nematode, *Bursaphelenchus xylophilus*. 農薬誌 9(3) 527-529. [塩化第二銅、塩化コバルト、塩化亜鉛、塩化ニッケル、塩化第二鉄にマツノザイセンチュウを浸漬すると死亡。LD<sub>50</sub>は 0.034~3.6 mM。]
56. 小林富士雄：マツ枯損防止技術の現状と問題点。今月の農薬 28巻2: 72-77. [抵抗性育種、枯損木の処理と利用、予防散布、カミキリ誘引剤、天敵の調査と利用、殺線虫剤の施用。]
57. 小林富士雄・山根明臣・池田俊弥：The Japanese pine sawyer beetle as the vector of pine wilt disease. Annu. Rev. Ent. 29: 115-135. [マツノマダラカミキリに関する総説。研究史、病気のサイクル、ベクターと線虫の関係、カミキリの分布と生態。引用文献 217論文。]
58. 古賀成司：転換ダイズの生育・収量に及ぼすネコブセンチュウの影響。今月の農薬 28巻12: 28-33. [連輪作と発生消長、生育・収量 (25-80%減)、線虫の種類 (ほとんどがジャワネコブセンチュウ) と寄生性の差。]
59. 古賀成司：ネコブセンチュウの耕種的防除。植物防疫 38(3) 132-137. [著者の研究成果を中心に解説。畑地における輪作体系の確立、線虫対抗植物およびイネ科作物、水利用対策、総合防除とその考え方。]
60. 近藤栄造：線虫角皮の構造と働き。植物防疫 38(3) 101-110. [電顕像による角皮の存在部位、表面構造及び内部構造、並びにその生理生態的働きについて、薬剤処理効果や環境条件との関連で解説。]
61. 近藤栄造・石橋信義：昆虫寄生性線虫 *Steinernema* spp. のドッグフード培地上での発育と増殖に及ぼす共生菌添加の影響。九病虫研会報 30: 120-123. [添加の有無により線虫の増殖に大差なし。]
62. 近藤栄造・石橋信義：サツマイモネコブセンチュウ第2期幼虫の形態・運動性および寄生性に及ぼすAldoxycarbの影響。日線虫研誌 14: 8-14. [薬剤濃度10, 100, 1000 ppm への24時間浸漬で、本線虫は波状を呈し体が短縮、100ppmへの5日間浸漬後水洗すると運動性を回復、1000 ppmでは回復なし。薬剤処理虫の寄生能力試験法を考察。]
63. 近藤栄造・石橋信義：素寒天培地、肉エキス培地および数種ドッグフード培地上での昆虫寄生性線虫 *Steinernema feltiae* (= *Neoplectana carpocapsae*, DD-136) の発育と増殖。日線虫研誌 14: 40-48. [ドライ型ドッグフードが最良で、これにソフト型を混ぜると線虫の増殖数は減少、原因は共生菌の増殖阻害物質の存在。]
64. 近藤栄造・石橋信義：昆虫寄生性線虫 *Steinernema feltiae* (str. Mexican) のハスモンヨトウに対する感染性と増殖。応動昆 28(4) 229-235. [ハスモンヨトウの各発育段階における線虫の感染の難易、感染後の症状と線虫の増殖。]
65. 近藤栄造・石橋信義：ハスモンヨトウに対する *Steinernema feltiae* (= *Neoplectana carpocapsae*) の病原性。28回応動昆大会講要: 161. [講要]
66. 小谷圭司・田村弘忠・山本直樹・西山嘉彦・佐々木恵彦：マツノザイセンチュウと

- ニセマツノザイセンチュウの樹体内分布からみた病原性の相違. 95回日林大会講要: 103. [講要]
67. 小谷圭司・山本直樹・佐々木恵彦・西山嘉彦: マツノザイセンチュウ病における細胞壁分解酵素の病原性物質としての可能性. 95回日林大会講要: 102. [講要]
68. 下松明雄・千葉雅子・小山寛史・丸山宗之・高瀬 巖: 浸透性薬剤によるマツノザイセンチュウの防除に関する研究(第2報) 樹幹注入剤mesulfenfos のマツ樹幹内および針葉における分布. 農薬学会9回大会講要: [講要]
69. 国安克人: 抵抗性品種(台木)の利用. In: 新版土壤病害の手引き(同編集委員会編). 日本植物防疫協会, 東京, p. 199-211. [禾穀類、まめ類、いも類、野菜、花卉、牧草、飼料作物、特用作物の抵抗性品種の一覧表等。]
70. 国安克人: 品種抵抗性検定法. 同上, p. 258-268. [ネコブ、シストセンチュウ抵抗性検定法を含む]
71. 黒田慶子・鈴木和夫・山田利博: マツノザイセンチュウ接種後のクロマツの組織解剖学的観察. 95回日林論: 471-472. [樹齢により病徴の進展に差。]
72. 真宮靖治: 各種マツ苗木のマツノザイセンチュウおよびニセマツノザイセンチュウに対する抵抗性: とくに齢に関連するものとして. 95回日林大会講要: 103; 95回日林論: 475-476. [各種マツの抵抗性は生育段階に応じてかわる。]
73. 真宮靖治: The pine wood nematode. In: Plant and Insect Nematode (W. R. Nickle, ed.). Marcel Dekker, New York & Basel, p. 589-626. [マツノザイセンチュウに関する総説. マツ枯損の歴史、材線虫の発見、病原線虫、媒介者、病徴、生態・生活史、分布(日本、アメリカ、フランス)、防除(ベクター・線虫の薬剤防除、その他の方法、抵抗性育種)。]
74. 真宮靖治・林 良興: マツノザイセンチュウの大量培養と代謝産物の性質 第3報 セルラーゼの生産. 日植病報 50(3) 414. [講要]
75. 真宮靖治・林 良興: Cellulase production on barley grain substrate of monoxenic cultures of *Bursaphelenchus xylophilus* and host fungus. Program and Abstracts, First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984. p. 59; Proceedings, p. 51. [講要]
76. 松下利定: 野菜連作障害回避のためのムギ作導入について. 今月の農薬 28巻13: 50-56. [レタス連作に比べてネコブセンチュウ被害減少。]
77. 松浦邦昭: 単木処理剤によるマツノザイセンチュウ防除. 今月の農薬 28巻1: 34-41. [防除剤のスクリーニング、水に対する溶解度と防除効果、樹体内移動、施用量・時期、有効期間、施用技術、注意・問題点、土壌施用。]
78. 松浦邦昭: 浸透性殺線虫剤の立木注入によるマツ材線虫病罹病木の治療(Ⅲ) 色素および数種薬剤のマツノザイセンチュウ接種木での移行性. 95回日林大会講要: 105. [講要]
79. 松浦邦昭: 浸透性薬剤の立木注入によるマツ材線虫病罹病木の治療(Ⅰ) 6種の浸透性殺線虫剤の治療効果. 日林誌 66(1) 1-9. [フェンスルフォチオン、チオナジン、メスルフェンホス、ダイスルフォトン・スルフォキシド、モランテル、メソミルの効果。]
80. 松浦邦昭: 樹幹注入法によるマツ材線虫病の防除. 植物防疫 38(1) 27-31. [物質およびその施用効果。]
81. 松浦邦昭・深見佛一・柏 司: マツノザイセンチュウ防除単木処理剤の樹体内分布濃度と防除効果. 農薬学会9回大会講要: [講要]
82. 皆川 望: Description of *Radopholoides triversus* n.sp. from Japan, with a reference to the classification of the family Pratylenchidae (Nematoda: Tylen-

- chida). Appl. Ent. Zool. 19(1) 21-26. [熊本県西合志町のマルハシギから上記新種を記載。本属をRadopholinae亜科に含め、この亜科をネグサレセンチュウ科に移した。Hoplotylinae亜科とAcontylinae 亜科を前記亜科の、Hirschmanniellinae亜科をPratylenchinae 亜科のシノニムとする。ネグサレセンチュウ科の亜科と属の検索表を示す。]
83. 皆川 望: A new criconematid nematode, Pseudocriconema japonicum n.gen. et n.sp. (Tylenchida: Criconematidae) from Japan. Appl. Ent. Zool. 19(3)374-381. [熊本県阿蘇山、三重県美杉村の本木からトゲワセンチュウの新属新種を記載。 Serie-spinula 属に近縁。]
84. 皆川 望: 日本産トゲワセンチュウ亜科の新属について (II)。28回応動昆大会講要: 156. [講要]
85. 皆川 望: 線虫分類学の現状。植物防疫 38(3) 99-104. [線虫の分類体系は流動的で細分化の方向。Andrassy (1976) の分類体系と問題点の紹介、ネコブ・シストセンチュウの分類と考え方・問題点等を解説。Tylenchida目の科ないし族までの分類表。]
86. 皆川 望: New species of Hoplotylus and Pratylenchoides (Tylenchida: Pratylenchidae) from Japan. 日線虫研誌 14: 15-19. [志賀高原のモミ類根圏土壌から Hoplotylus montanus、栃木県塩原のkokosagi根辺から Pratylenchoides magnicaudoides の2新種を検出し、記載。]
87. 三井 康: 主要畑作物の線虫害の防除。In: 地力維持・連作障害対策新技術 (総合農業研究叢書 第2号)。農林水産省農業研究センター、谷田部、p. 41-44. [ダイズシスト、ジャガイモシスト、キタネコブ、キタネグサレセンチュウの主に被害。]
88. 味山正人・田中 茂: ガス状農薬に対する防毒マスクの防毒特性。農薬学会9回大会講要: [講要]
89. 水久保隆之・皆川 望: 日本産 Coslenchus 属4種の記録。28回応動昆大会講要: 156. [講要]
90. 水久保隆之・皆川 望: The genus Coslenchus Siddiqi, 1978 (Tylenchida: Nematoda) from Japan. I. Recorded of C. costatus and description of a new species. 日線虫研誌 14: 28-39. [国内4産地の本属線虫は形態的変異は認められるが、いずれも C. costatus と同定。栃木県塩原のkokosagi根辺から検出された種は C. japonicus (新種) と命名、記載。本属と近縁属の分類学的再検討の必要を認む。]
91. 百田洋二: 関東におけるダイズシストセンチュウの発生活長。28回応動昆大会講要: 159. [講要]
92. 森 徳典: マツノザイセンチュウの感染初期にみられるマツ樹の2、3の生理反応。95回日林大会講要: 101. [講要]
93. 村本正博・松浦邦昭: 酒石酸モランテル剤のマツ大径木に対する枯損予防効果とマツ樹体内残留濃度。日林九支研論 37: 167-168. [基準薬量では不足の事例もあった。施用12月後でも幹と枝に高濃度の残留。]
94. 室田 昇・坂元義明・富山一男・尾崎正美・真鍋御青・岩橋哲彦・福川利玄: 宮崎県サトイモ主産地における作付の実態と連作障害対策。宮崎給農試研報 18: 39-53. [3年連作により収量半減。ラッカセイとの輪作が高い防除効果。有機物施用は土壌消毒(クロロピクリン)との併用で効果。]
95. 中國和年: 沖縄における野菜のセンチュウ害。今月の農薬 28巻12: 22-27. [検出線虫、被害。]
96. 中國和年: サトイモの連作障害、とくに線虫害の防除。In: 地力維持・連作障害対策新技術 (総合農業研究叢書 第2号)。農林水産省農業研究センター、谷田部、p. 287-293. [被害、薬剤・耕種的防除方法。]

97. 中國和年・佐野善一・荒城雅昭・宮沢敦雄・伊東祐二郎：堆肥の施用量とネコブセンチュウによる作物の被害。28回応動昆大会講要：160。〔講要〕
98. 中國和年・鶴町昌市・照屋林宏：沖縄の野菜栽培における線虫調査。九病虫研会報 30: 126-129。〔ネコブ、ネグサレ、ラセン、イシュク、ニセフクロセンチュウ類の分布・発生が多い。輪作作目のサトウキビの関連で、ネコブ、ネグサレセンチュウが重要。〕
99. 根岸秀明・小林喜六：アズキ落葉病の発病に及ぼすダイズシストセンチュウの影響。日植病報 50(4) 500-506。〔混合接種により菌単独より導管の被害症状は増大。接種菌数、線虫数、接種間隔、温度・土壌の影響を試験。〕
100. 西沢 務：線虫の防除と天敵利用。植物防疫 38(3) 125-131。〔寄生性天敵、捕食性天敵の研究の現状を紹介。特に孢子虫類の有効性について著者の成果にふれる。〕
101. 西沢 務：Effects of two isolates of *Bacillus penetrans* for control of root-knot nematodes and cyst nematodes. Program and Abstracts, First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984. p. 69; Proceedings, p.60-61。〔講要〕
102. 西沢 務・細辻豊二・吉田正義：本邦で新たに発生が確認されたシバネコブセンチュウ(仮称) *Meloidogyne graminis* について。28回応動昆大会講要：158。〔講要〕
103. 野淵 正・富永晃行・二井一禎・原田 浩：Cytological study of pathological changes in Japanese black pine (*Pinus thunbergii*) seedlings after inoculation with pine-wood nematode (*Bursaphelenchus xylophilus*)。京大演習林報 56: 224-233。〔マツノザイセンチュウ、ニセマツノザイセンチュウの接種によるクロマツの組織変化。枯損との関係を論ずる。〕
104. 能勢和夫：オキサミルの土壌中縦移動。農薬誌 9(1) 7-12。〔溶脱の微分方程式に降水量、蒸散量、微生物等による指数的減衰率を投入して積分した値と実測値の比較。〕
105. 小芦健良：南九州におけるサトイモのミナミネグサレセンチュウの駆除。日線虫研誌 14: 61-62。〔サトイモ畑での発生消長、サトイモへの寄生部位、症状、健全種いもの育成法、輪作による被害回避法等に関する試験結果のまとめ。〕
106. 小川 奎：サツマイモの土壌病害と塊根異常症。農及園 59(1) 67-72。〔各種原因(主に病害)とその症状、対策を解説。ネコブセンチュウによる障害は全体の17.2%。帯状粗皮症状に類似の楔型黒褐ひび症状の発生にネコブセンチュウの寄生が関係。〕
107. 生越 明：病原の培養と保存。In: 新版土壌病害の手引き(同編集委員会編)。日本植物防疫協会、東京、p. 247-251。〔線虫の無菌培養法、保存法にふれる。〕
108. 奥 一郎・山元広海・白石友紀・大内成志・谷川賢剛：マツ激害型枯損に関する研究：実生苗を用いたモデル実験系。日植病報 50(3) 414。〔講要〕
109. 奥平虎雄：マツノザイセンチュウのマツノマダラカミキリからの離脱。愛知林試報 20: 119-124。〔羽化脱出翌日から始まり30日間で総離脱数の80%。〕
110. 大羽克明：土壌内に残留した燻蒸剤ガスの迅速検知法。28回応動昆大会講要：162。〔講要〕
111. 大羽克明・石橋信義：A nematode *Caenorhabditis elegans*, as test organism for nematicide evaluation。農薬誌 9(1) 91-96。〔メソミル、aldoxycarb浸漬でdauer larvaとなる。MITCでは正常。それらの寿命は長い。〕
112. 大庭喜八郎・古越隆信・栗延 晋・石井克明：Susceptibility of subtropical pine species and provenances to the pine wood nematode。日林誌 66(11) 465-468。〔*P. caribaea*, *P. oocarpa*, *P. pseudostrobus*, *P. densiflora*のマツノザイセンチュウ感受性をクロマツ等と比較。〕
113. 大崎憲生・君波恒久・青木征男・梅津憲治：OK-174(オンコル®)のサツ

- マイモネコブセンチュウに対する作用, 28回応動昆大会講要: 162. [講要]
114. 太田 明: 樹幹注入薬剤の施用位置とマツ材線虫病の防除効果 (I) 薬剤の浸透しない部分に接種したときの生存例, 35日林関西支講: 177-180. [線虫は生存するがマツは枯損しない。]
115. 大山浪雄・高木哲夫・堂園安生・知念正義: 千巖山産マツ実生木における材線虫病抵抗性要因の解析, 日林九支研論 37: 71-72. [熊本県天草。内樹皮液pH、人工培地のpHと線虫増殖の関連を検討。]
116. 齊木 博・齊藤 徹・米田公生・海上道雄・内田煌二・山中 啓: Biological control of the pine-wood nematode by spraying a nematode trapping fungus 日林誌 66(1) 30-32. [*Arthrobotrys* sp.をアカマツ、クロマツ等に散布。生存率を調査。]
117. 齊藤雅典: ダイズを基幹とする畑作の新技術: 土壌改良による連作障害の軽減。In: 地力維持・連作障害対策新技術 (総合農業研究叢書 第2号), 農林水産省農業研究センター、谷田部, p. 114-118. [ネグサレセンチュウ発生圃場での試験例を含む。]
118. 佐野善一・中園和年・荒城雅昭: ギニアグラス及びブラッカセイを組み入れた輪作におけるサツマイモネコブセンチュウの消長, 28回応動昆大会講要: 160. [講要]
119. 佐野善一・中園和年・荒城雅昭: サツマイモネコブセンチュウの越冬態における夏作および秋作圃場間の差異, 九病虫研会報 30: 115-119. [ふるい分け-遠心分離法および生物検定法により、夏作と秋作圃場での越冬態を調査。夏作区では幼虫態で、秋作区では卵と幼虫態で越冬することを解明。]
120. 佐々木 浩: マツノザイセンチュウ防除試験: PC-3203の予防効果, 徳島林総技七研報 22: 98-100. [グリーンガードの効果。]
121. 佐々木 浩: マツノザイセンチュウ防除試験 (治療効果試験 第2報), 徳島林総技七研報 22: 101-103. [ネマノーンの効果。]
122. 佐々木恵彦・小谷圭司・西山嘉彦・林 良興: Development and recovery of pine wilt disease studied by tracing ascending sap flow marked with water soluble stains. 日林誌 66(4) 141-148. [水溶性色素の追跡によって初期症状の回復過程観察可能。]
123. 佐々木重行・小河誠司・宮原文彦・橋本平一: ザイセンチュウ接種アカマツの水分的動態の変化, 日林九支研論 37: 173-174. [線虫接種点に近い所から水の移動に関する抵抗が増大していく。]
- 123a. 佐藤平典: 東北地方におけるマツ材線虫病とマツノマダラカミキリの分布, 森林防疫 33(2) 26-30. [1981年までの分布の拡大経過。]
124. 佐藤平典・作山 健: 岩手県におけるマツノマダラカミキリの2年1世代の出現及び線虫保持数, 95回日林大会講要: 99; 95回日林論: 461-462. [10例中8例が2年1世代。この世代の線虫保持数は1年1世代より少ない。]
125. 佐藤平典・作山 健・熊谷勇光: 寒冷地方におけるマツ材線虫病激害林の様相 (I) 枯損木の発生過程, 日林東北支誌 36: 209-211. [一林分における侵入後の枯損経過。侵入4年間で激害化。]
126. 佐藤仁彦・安藤 哲・河合正計: 高濃度D-D (DCP、D-D92) 土壌処理に伴う作業環境濃度, 農業学会9回大会講要: [講要]
127. 千本木市夫: 飼料トウモロコシ-ダイコン体系におけるキタネグサレセンチュウの耕種的防除, 今月の農薬 28巻6: 31-36. [マリーゴールドの全面栽培または殺線虫剤処理は不可欠。それらと併せて線虫抑制作物、有機資材を利用。]
128. 千本木市夫・千吉良律治・高橋哲夫: 飼料トウモロコシ-ダイコン体系におけるキタネグサレセンチュウの耕種的防除 3. 有機物及び土壌改良剤の施用効果, 関東病

- 虫研報 31: 183-185. [D-D、EDB、デイトラベックス、苦土生石灰、鶏糞、HS C1号、サナーG、マノン有機堆肥、石灰窒素、蚕糞の施用効果。]
129. 清水寛二: 露地の太陽熱利用による土壤消毒法. 農業技術研究 38巻3: 27-29. [方法、効果。サツマイモネコブ、キタネグサレセンチュウに対する効果を含む。]
130. 清水 啓: ジャガイモシストセンチュウ: 発生十二年目の現状と対策. 今月の農業 28巻12: 34-37. [年次別発生面積、防除対策、抵抗性育種の現状。]
131. 清水 啓・三井 康・一戸 稔: Races of the soybean cyst nematode in Tokachi Province, Hokkaido, Japan. Program and Abstracts, First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984. p. 93-94; Proceedings, p. 84. [講要]
132. Shirayama, Y. : The abundance of deep-sea meiobenthos in the Western Pacific in relation to environmental factors. Ocean. Acta 7(1) 113-121. [未見。線虫を含む。]
133. Shirayama, Y. : Vertical distribution of meiobenthos in the sediment profile in bathyal, a byssal and hadal deep-sea system of the Western Pacific. Ocean. Acta 7(1) 123-129. [未見。線虫を含む。]
134. 庄司次男: カーバム剤 (NCS) の樹幹散布によるマツノザイセンチュウの防除. 日線虫研誌 14: 58-60. [枯死木の表面処理し、ビニル膜で被覆することによりマツノザイセンチュウを効果的に防除、伝播防止可能。]
135. 鈴木和夫: マツの水分生理状態と材線虫病の進展. 林試研報 325: 97-126. [接種線虫の初期移動、樹体内の分散・密度分布、樹体内における線虫の動態、樹脂滲出量・蒸散量の関係、マツの水分生理と材線虫病の発現・進展、水ストレスの緩和と材線虫病の発現。]
136. 鈴木幹男: 松枯れの真因をめぐる問題. 28回応動昆大会講要: 124. [講要。サビカミキリ説。]
137. 田畑勝洋・西村鳩子: 合成ピレスロイド系化合物のマツノザイセンチュウに対するフラッシング効果 (II) 枝条におけるフラッシング効果. 95回日林大会講要: 104; 95回日林論: 481-482. [線虫の孔道・蛹室への集中率低下。]
138. 田淵尚一・坂本 敏: 抵抗性の異なるカンショ品種のマルチ栽培がサツマイモネコブセンチュウ密度に及ぼす影響. 九病虫研会報 30: 179. [講要]
139. 高橋兼一: クルミネグサレセンチュウに対するソルガム類の密度抑制効果. 関東病虫研報 31: 91. [利用可能。]
140. 高倉重義: キタネコブセンチュウの寄生に対するクローバ類の品種間差異. 北日本病虫研報 35: 180-181. [ハミドリにおいて根瘤指数が低い傾向。]
141. 高倉重義: 水田転換畑における線虫の伝搬と増殖. 北日本病虫研報 35: 176-179. [キタネコブ、クローバシスト、ネグサレセンチュウの検出頻度、寄生状況。作歴とダイズシストセンチュウ密度、圃場内分布、キタネコブセンチュウの増殖と被害。]
142. 高瀬 巖・千葉雅子・下松明雄: 浸透性薬剤によるマツノマダラカミキリの防除に関する研究 (第3報) マツ樹におけるmesulfenfos の還元. 農業学会9回大会講要: [講要]
143. 田村弘忠: Distribution of Bursaphelenchus xylophilus and B. mucronatus and tissue reaction in the inoculated branches of pine trees. Program and Abstracts, First Internat. Cong. Nematol., Guelph, Ont., Canada, Aug. 5-10, 1984. p. 101; Proceedings, p. 89. [講要]
144. 田村弘忠: Early development of Bursaphelenchus xylophilus (Nematoda:



- Aphelenchoididae) population in the inoculated branches of pine seedlings. Appl. Ent. Zool. 19(1) 125-129. [マツノザイセンチュウ接種部位における線虫の接種直後の発育を調査。]
145. 田村弘忠: マツ枯れの真因をめぐって. 植物防疫 38(3) 138-141. [マツ枯損に関する材線虫以外を原因とした説を含めて紹介. 線虫に関連のない微生物真因説、サビカミキリ説、線虫に関連する細菌、北アメリカにおける線虫の発生と被害状況、マツ枯損の発病機構解明の現状に言及。]
146. 田村弘忠・Dropkin, V. H.: Resistance of pine trees to pine wilt caused by the nematode, *Bursaphelenchus xylophilus*. 日林誌 66(8) 306-312. [抵抗性および感受性マツの線虫接種後の線虫の増殖、木部の組織変化。]
147. 照屋林宏・阿部二郎・長嶺将昭・中村 浩: Nematological survey on winged bean fields in Okinawa with special reference to varietal difference in susceptibility to root-knot nematodes. JARQ 18(2) 142-157. [シカクマメの線虫相・密度、土壌内垂直分布、ネコブセンチュウに対する品種抵抗性。]
148. 樋田幸夫: 本邦桑園における植物寄生性線虫の地理的分布. 28回応動昆大会講要: 152. [講要]
149. 樋田幸夫: 本邦桑園における植物寄生線虫の種類とその地理的分布. 日線虫研誌 14: 20-27. [全国 200箇所以上の桑園から20属32種以上を検出、うち11属20種のクワへの寄生を確認。ネコブ、ラセン、オオガタハリ、ニセシスト、ピン、トゲワセンチュウ、その他の線虫に分けて分布の特徴等を論ずる。]
150. 樋田幸夫・八重樫隆志: Description of *Meloidogyne suginamiensis* n.sp. (Nematoda: Meloidogyidae) from mulberry in Japan. 日線虫研誌 14: 49-57. [東京都杉並の旧蚕糸試験場跡地のクワからのネコブセンチュウを上記新種として命名、記載。リングネコブセンチュウにきわめて似るが、雌の会陰紋、雄の半月体の位置、第2期幼虫の尾および雄成虫と幼虫の正面像により区別され、多種の草本に寄生。]
151. 樋田幸夫・吉野治男・国見裕久: 桑園の肥培管理形態と線虫相. 日蚕講要 54: 20. [講要]
152. 富永康平・須賀原亮三・中里広幸・内藤 豊: フィトール類化合物に対するマツノザイセンチュウの行動的応答. 農薬学会9回大会講要: [講要]
153. 富永康平・山本雅之・桑原保正・須賀原亮三: Behavioral response of the pine wood nematode to terpenes. Agr. Biol. Chem. 48(2) 519-520. [26種のテルペン類のうち時にabietic acidとphytolがマツノマダラカミキリに高い誘引性を示した。]
154. 塚田章二郎・野口正樹・高橋和彦・國重正昭: 最近における野菜・花きの連作障害の実態. 野菜試研究資料 18: 195 pp. [全国を対象としたアンケート調査。作目・地域別にまとめる。線虫が原因としてあげられているのは次の作物(都道府県名省略)。キュウリ、スイカ、メロン、ニガウリ、トマト、ナス、イチゴ、オクラ、フキ、シヨクヨウギク、サトイモ、サツマイモ、ヤマイモ、ダイコン、カブ、ニンジン、ゴボウ、キク、リンドウ、シャクヤク、キキョウ、スズラン、アイリス、バラ、ツツジ類、センリョウ。前回の調査結果はNo.78-162を参照。]
155. 上田隆之・奥 八郎・富田和夫・佐藤一雄・白石友紀: Isolation, identification, and bioassay of toxic compounds from pine tree naturally infected by pine wood nematode. 日植病報 50(2) 166-175. [マツノザイセンチュウ天然感染マツの葉から安息香酸とカテコールを、枝の材部分から安息香酸と8-hydroxycarvarvotanacetone とdihydroconiferylalcohol を分離・同定。後から2番目の物質を茎から吸収させると線虫接種と似た症状。]

156. 八木田秀幸: *L. martini*の土壤の種類と増殖ならびにクワおよびケヤキ寄生群の生態的關係. 35回日蚕関東支講要: 11. [講要]
157. 八木田秀幸・岩木満朗: クワモザイク病(輪紋、ひだ葉・糸葉・黄葉症状)の埼玉県における分布およびクワナガハリセンチュウによる伝搬. 日植病報 50(1) 85. [講要]
158. 山田英一: 北海道の農耕地におけるネグサレセンチュウの種類とその分布 I. 種類と形態. 北海道立農試集報 51: 23-31. [キタ、クルミ、チャ、ノコギリ、ムギネグサレセンチュウの形態の記載。]
159. 山田利博・峰尾一彦・鈴木和夫: 材線虫接種後のクロマツのパーオキシダーゼおよびポリフェノールモノオキシダーゼザイモグラムの変化. 95回日林大会講要: 101; 95回日林論: 469-470. [木部、主幹、皮層部の順にアイソザイムの特定の酵素の活性が高まった。]
160. 山口正己・吉田雅夫: モモのネグサレセンチュウ抵抗性台木の検索(第2報)キタネグサレセンチュウによるモモ根の病徴発現について. 園芸学会研究要旨 昭59春: 152-153. [講要]
161. 山本直樹・小谷圭司・林 良興・西山嘉彦・佐々木恵彦: マツノザイセンチュウの細胞壁分解酵素: セルラーゼ. 95回日林大会講要: 102. [講要]
162. 山本敏夫・安田典夫・山部十三生: サツキを加害するナミシユクセンチュウの対抗植物の検索. 関西病虫研報 26: 51. [クロタラリア2種とハブソウが有効。マリーゴールド、シラトロは効果なし。]
163. 山中 啓: 松枯れの謎に挑む. 化学と生物 22(5) 309-318. [「松枯れをめぐる研究の現状」研究会の記録. 山根、岡本、真宮、河津、奥、諸岡、山中等の研究の紹介. 青変菌、毒素の研究も含む。]
164. 山下 泉・堀内崇裕・井上 孝: 露池オクラにおける病害虫の発生活消長およびサツマイモネコブセンチュウによる被害の解析. 四国植防 19: 67-76. [害虫・ダニ類の発生活消長と、線虫密度と被害の關係。]
165. 山崎和雄・相原孝雄: ツバキ類苗木の生育に対するツバキネコブセンチュウの影響. 関東病虫研報 31: 188-189. [ツバキでは上記線虫とネグサレセンチュウ、サザンカでは上記線虫の影響大。]
166. 吉田俊秀・Sadaie, T.・定家義人: Somatic and meiotic chromosomes of the small free-living nematode, *Caenorhabditis elegans*. Proc. Jap. Acad. B 60B(3) 54-57. [12対の染色体を観察。]
167. 葭原敏夫: キュウリ栽培におけるかん水量とネコブセンチュウの寄生・繁殖. 九州農業研究 46: 129. [キタ、サツマイモ、ジャワネコブセンチュウで異なる傾向。]
168. 吉永忠義・島村 潤・佐々木 浩: 松の枯損防止新技術に関する研究. 徳島林総技七研報 22: 66-97. [カミキリに対して天敵、誘引剤. 薬剤による単木処理試験(バイジツト、サイアノックス、テラキュアPの樹幹処理; ダイシストン、ランテートの土壤処理)、被害予測システムの確立。]
169. 結田康一: 土壌くん蒸・消毒剤による農作物、土壌および地下水の臭素残留・汚染. 生態化学 7巻2: 3-12. [臭化メチル、EDB剤の残留量の調査結果。]
170. Anon.: 松枯れ防除に樹幹注入剤: 脚光浴びるグリーンガード. 今月の農薬 28巻: 42-44. [酒石酸モランテル. 施用方法、効果。]